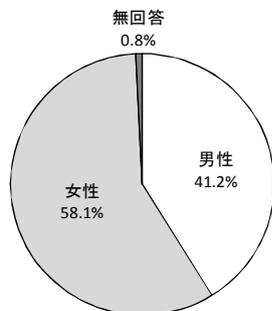


Ⅲ 調査結果

1. 回答者の属性

(1) 回答者の性別

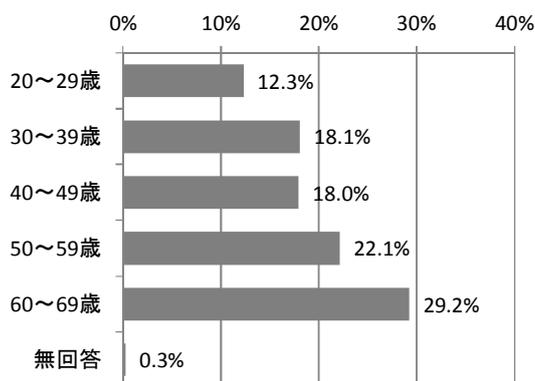
回答者の性別は、男性 41.2%、女性 58.1%とやや女性の方が多くなっています。



項目	度数	構成比
男性	314	41.2%
女性	443	58.1%
無回答	6	0.8%
合計	763	100.0%

(2) 回答者の年齢（平成 26 年 10 月 1 日現在）

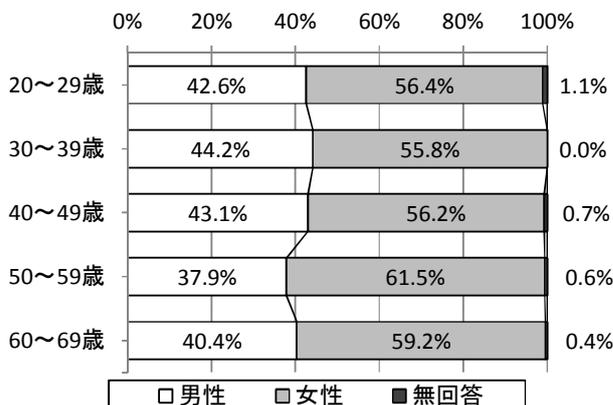
年齢構成では、「20～29 歳」が最も少なくなっており、年齢が上がるに従い割合が多くなっています。最も多いのは「60～69 歳」の 29.2%となっており、続いて「50～59 歳」の 22.1%となっています。



項目	度数	構成比
20～29歳	94	12.3%
30～39歳	138	18.1%
40～49歳	137	18.0%
50～59歳	169	22.1%
60～69歳	223	29.2%
無回答	2	0.3%
合計	763	100.0%

【回答者の年齢、性別】

回答者の年齢と性別では、全体と同様の傾向となっていますが、「50～59 歳」で女性の割合が全体よりやや多くなっています。

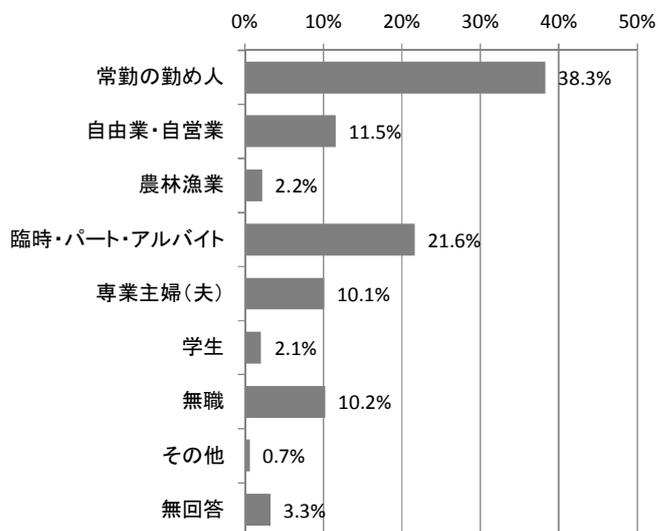


項目	男性	女性	無回答	合計
20～29歳	40	53	1	94
30～39歳	61	77	0	138
40～49歳	59	77	1	137
50～59歳	64	104	1	169
60～69歳	90	132	1	223

項目(構成比)	男性	女性	無回答	合計
20～29歳	42.6%	56.4%	1.1%	100.0%
30～39歳	44.2%	55.8%	0.0%	100.0%
40～49歳	43.1%	56.2%	0.7%	100.0%
50～59歳	37.9%	61.5%	0.6%	100.0%
60～69歳	40.4%	59.2%	0.4%	100.0%

(2) 回答者の職業

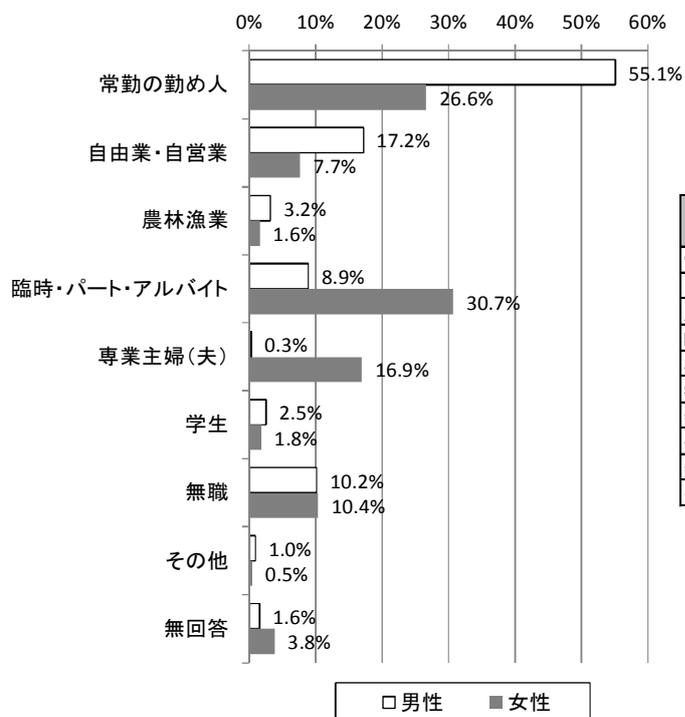
回答者の職業は、「常勤の勤め人」が38.3%と最も多くなっており、続いては、「臨時・パート・アルバイト」の21.6%、「自由業・自営業」の11.5%となっています。



項目	度数	構成比
常勤の勤め人	292	38.3%
自由業・自営業	88	11.5%
農林漁業	17	2.2%
臨時・パート・アルバイト	165	21.6%
専業主婦(夫)	77	10.1%
学生	16	2.1%
無職	78	10.2%
その他	5	0.7%
無回答	25	3.3%
合計	763	100.0%

【回答者の性別と職業】

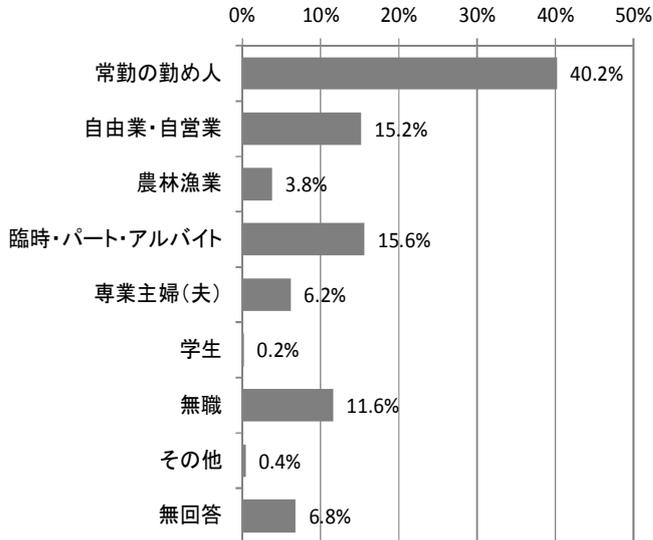
回答者の性別と職業では、男性は「常勤の勤め人」が最も多く、女性の2倍以上となっています。女性では、「臨時・パート・アルバイト」が最も多くなっています。



項目	男性		女性	
	度数	構成比	度数	構成比
常勤の勤め人	173	55.1%	118	26.6%
自由業・自営業	54	17.2%	34	7.7%
農林漁業	10	3.2%	7	1.6%
臨時・パート・アルバイト	28	8.9%	136	30.7%
専業主婦(夫)	1	0.3%	75	16.9%
学生	8	2.5%	8	1.8%
無職	32	10.2%	46	10.4%
その他	3	1.0%	2	0.5%
無回答	5	1.6%	17	3.8%
合計	314	100.0%	443	100.0%

(3) 配偶者の職業

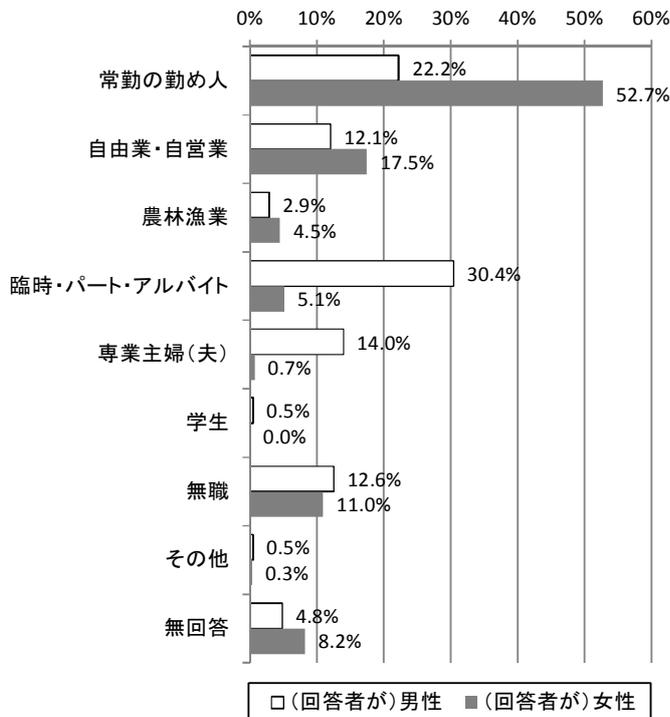
配偶者の職業についても回答者と同様の傾向となり、「常勤の勤め人」が40.2%と最も多く、続いて「臨時・パート・アルバイト」の15.6%、「自由業・自営業」の15.2%となっています。



項目	度数	構成比
常勤の勤め人	201	40.2%
自由業・自営業	76	15.2%
農林漁業	19	3.8%
臨時・パート・アルバイト	78	15.6%
専業主婦(夫)	31	6.2%
学生	1	0.2%
無職	58	11.6%
その他	2	0.4%
無回答	34	6.8%
計	500	100.0%
非該当	263	
合計	763	

【配偶者の性別と職業】

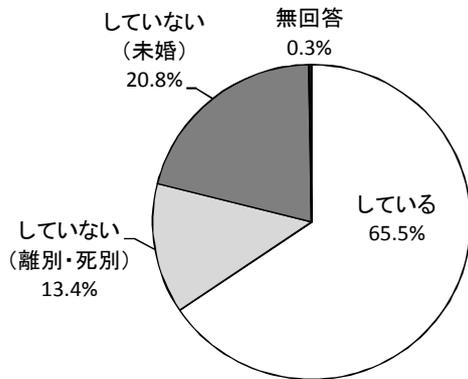
配偶者の性別と職業では、男性（回答者が女性）は「常勤の勤め人」が最も多くなっています。また、女性（回答者が男性）では、「臨時・パート・アルバイト」の割合が高くなっています。



項目	(回答者が)男性		(回答者が)女性	
	度数	構成比	度数	構成比
常勤の勤め人	46	22.2%	154	52.7%
自由業・自営業	25	12.1%	51	17.5%
農林漁業	6	2.9%	13	4.5%
臨時・パート・アルバイト	63	30.4%	15	5.1%
専業主婦(夫)	29	14.0%	2	0.7%
学生	1	0.5%	0	0.0%
無職	26	12.6%	32	11.0%
その他	1	0.5%	1	0.3%
無回答	10	4.8%	24	8.2%
計	207	100.0%	292	100.0%
非該当	107		151	
合計	314		443	

(4) 結婚の状況

「結婚している」と回答した方が65.5%と最も多くなっています。また、「結婚していない(離別・死別)」と回答した方は13.4%、「結婚していない(未婚)」と回答した方は20.8%となっています。

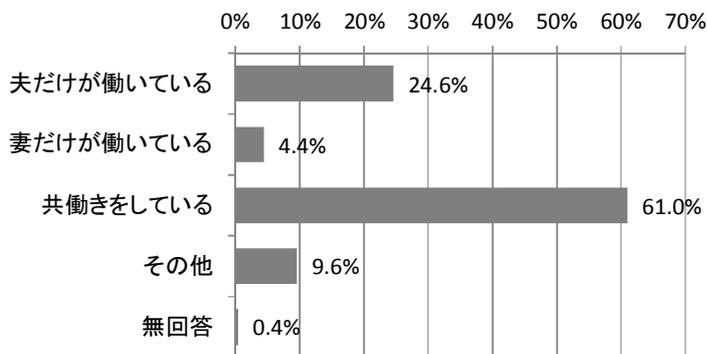


項目	度数	構成比
結婚している	500	65.5%
結婚していない(離別・死別)	102	13.4%
結婚していない(未婚)	159	20.8%
無回答	2	0.3%
合計	763	100.0%

(5) 共働きの状況

「共働きをしている」と回答した方が61.0%と最も多く、既婚者の半数以上の方が夫婦共に働いているとしています。

また、「夫だけが働いている」と回答した方は24.6%、「妻だけが働いている」と回答した方は4.4%となっています。



項目	度数	構成比
夫だけが働いている	123	24.6%
妻だけが働いている	22	4.4%
共働きをしている	305	61.0%
その他	48	9.6%
無回答	2	0.4%
計	500	100.0%
非該当	263	
合計	763	

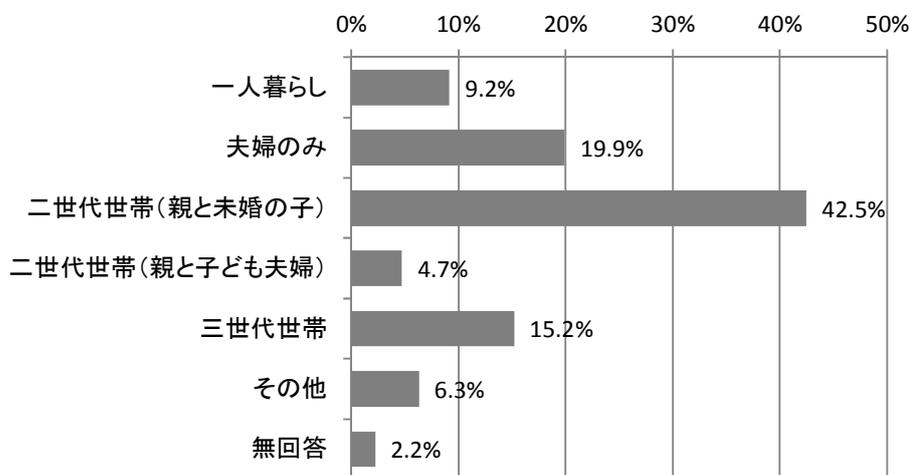
<その他の回答>

- 自営の夫の手伝いを少々する
- 無職
- 二人とも公務員を退職
- 双方無職
- 二人とも無職
- 夫は働き、妻は育児休暇中

(6) 世帯構成

「二世帯(親と未婚の子)」と回答した方が42.5%と最も多くなっており、続いては、「夫婦のみ」の19.9%、「三世帯世帯」の15.2%となっています。

また、「一人暮らし」と回答した方は9.2%となっています。



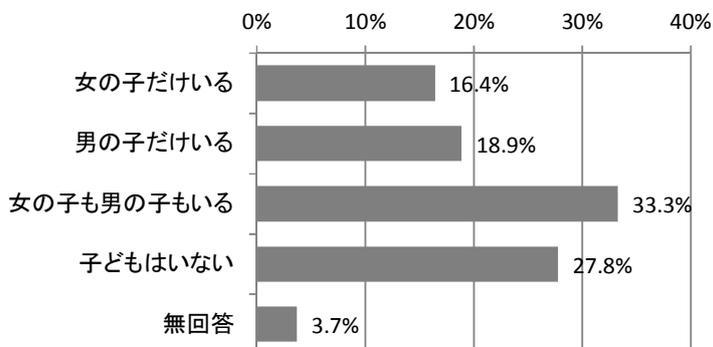
項目	度数	構成比
一人暮らし	70	9.2%
夫婦のみ	152	19.9%
二世帯世帯(親と未婚の子)	324	42.5%
二世帯世帯(親と子ども夫婦)	36	4.7%
三世帯世帯	116	15.2%
その他	48	6.3%
無回答	17	2.2%
合計	763	100.0%

<その他の回答>

- 親と一緒に
- 四世代
- 私と子供
- 単身赴任
- 三世帯世帯、祖母・親・未婚の子
- 片親と未婚の子
- 夫婦と子
- 夫婦と夫の父親

(7) 子どもの有無

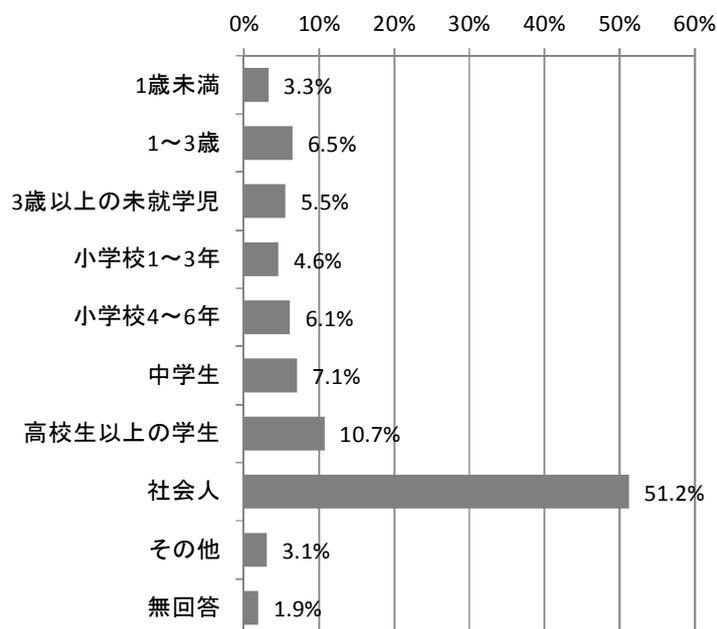
「女の子も男の子もいる」と回答した方が 33.3%と最も多くなっており、続いては「男の子だけいる」の 18.9%、「女の子だけいる」の 16.4%となっています。また「子どもはいない」と回答した方は 27.8%となっています。



項目	度数	構成比
女の子だけいる	125	16.4%
男の子だけいる	144	18.9%
女の子も男の子もいる	254	33.3%
子どもはいない	212	27.8%
無回答	28	3.7%
合計	763	100.0%

(8) 末子の年齢（平成 26 年 10 月 1 日現在）

「社会人」と回答した方が 51.2%と最も多くなっており、続いては、「高校生以上の学生」の 10.7%、「中学生」の 7.1%となっています。



項目	度数	構成比
1歳未満	17	3.3%
1～3歳	34	6.5%
3歳以上の未就学児	29	5.5%
小学校1～3年	24	4.6%
小学校4～6年	32	6.1%
中学生	37	7.1%
高校生以上の学生	56	10.7%
社会人	268	51.2%
その他	16	3.1%
無回答	10	1.9%
回答者数	523	100.0%
非該当	240	
合計	763	

<その他の回答>

■結婚して家を出た

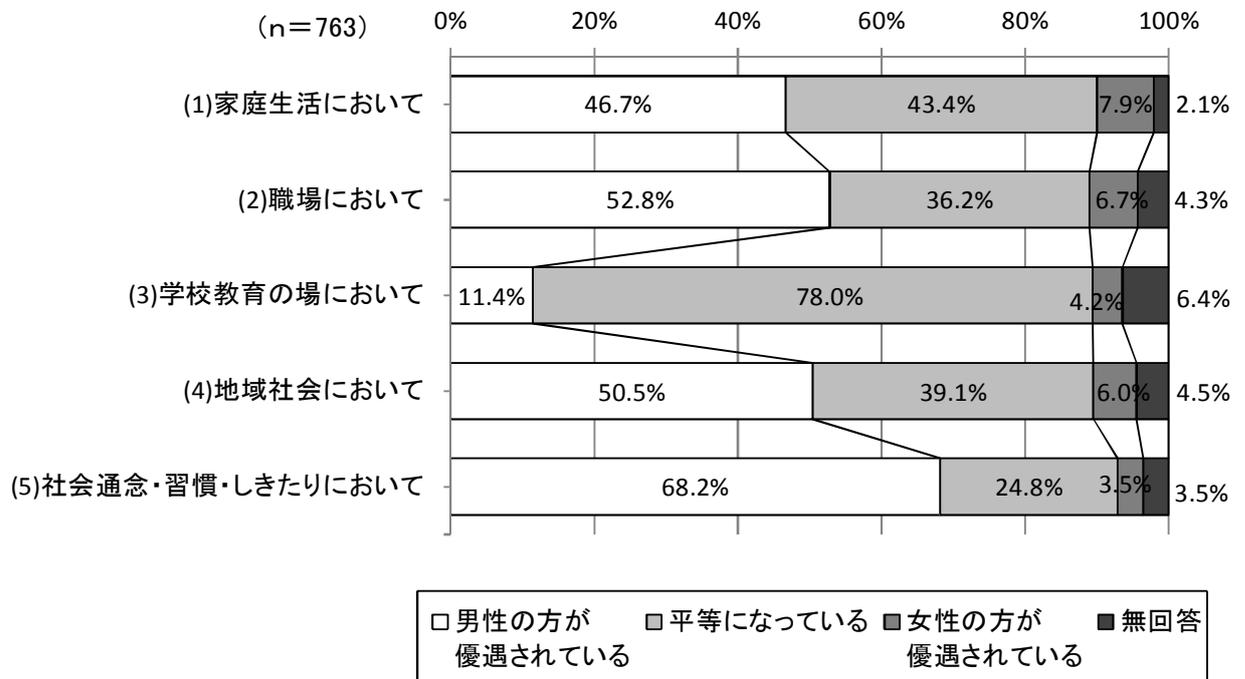
■障害者

2. 男女平等について

問1. あなたは、次の(1)から(5)までのような分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。それぞれについて、あなたの気持ちに最も近いものを選んでください。(それぞれ1つに○)

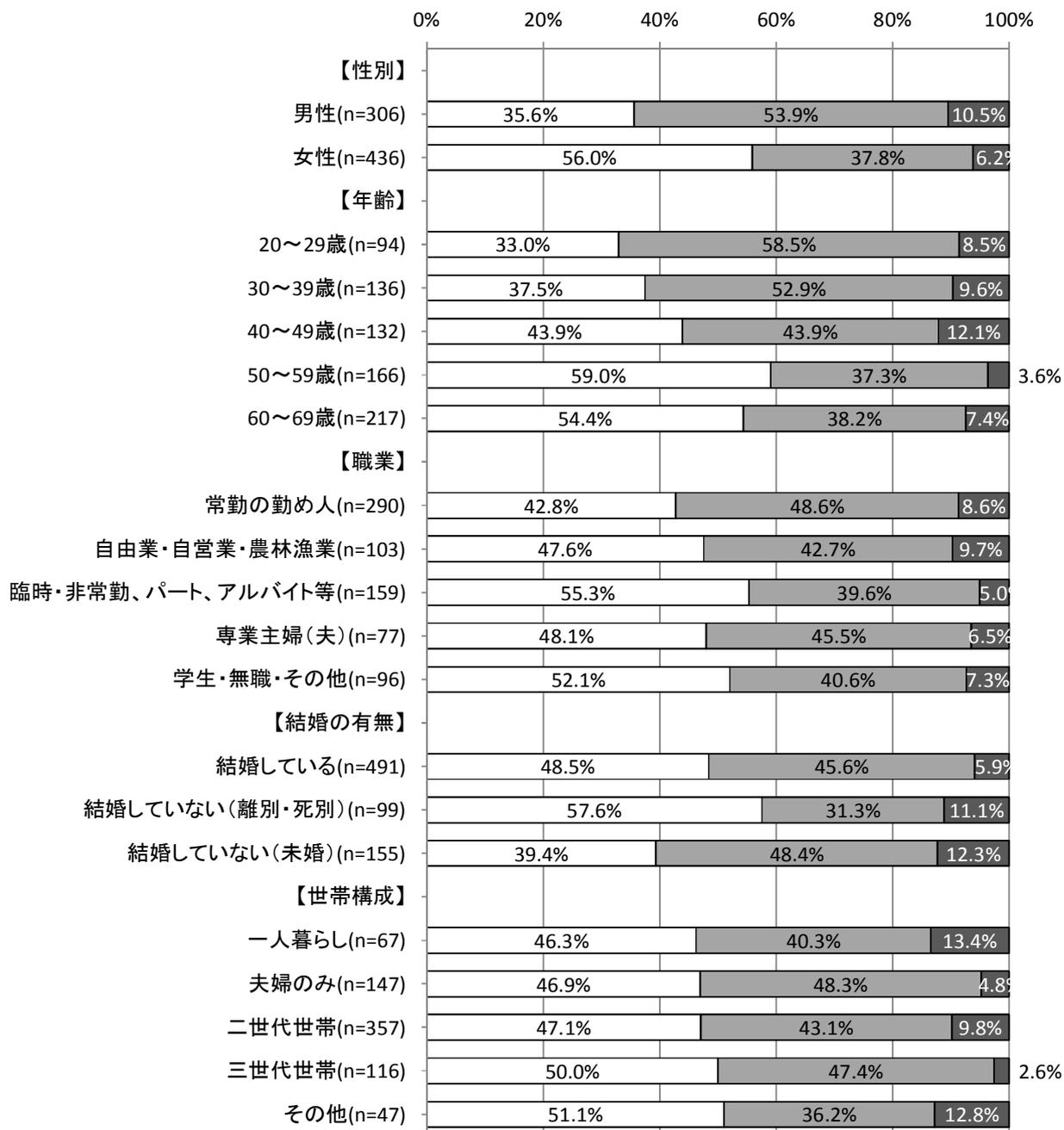
「男性の方が優遇されている」と回答している項目としては、「社会通念・習慣・しきたりにおいて」が約7割、「職場において」、「地域社会において」が約5割の方が回答しています。また、「平等になっている」という回答が多い項目としては、「学校教育の場において」で約8割となっています。

全項目において、「女性の方が優遇されている」という回答は少なくなっています。



問1. 男女の地位の平等感 (1) 家庭生活において(属性別)

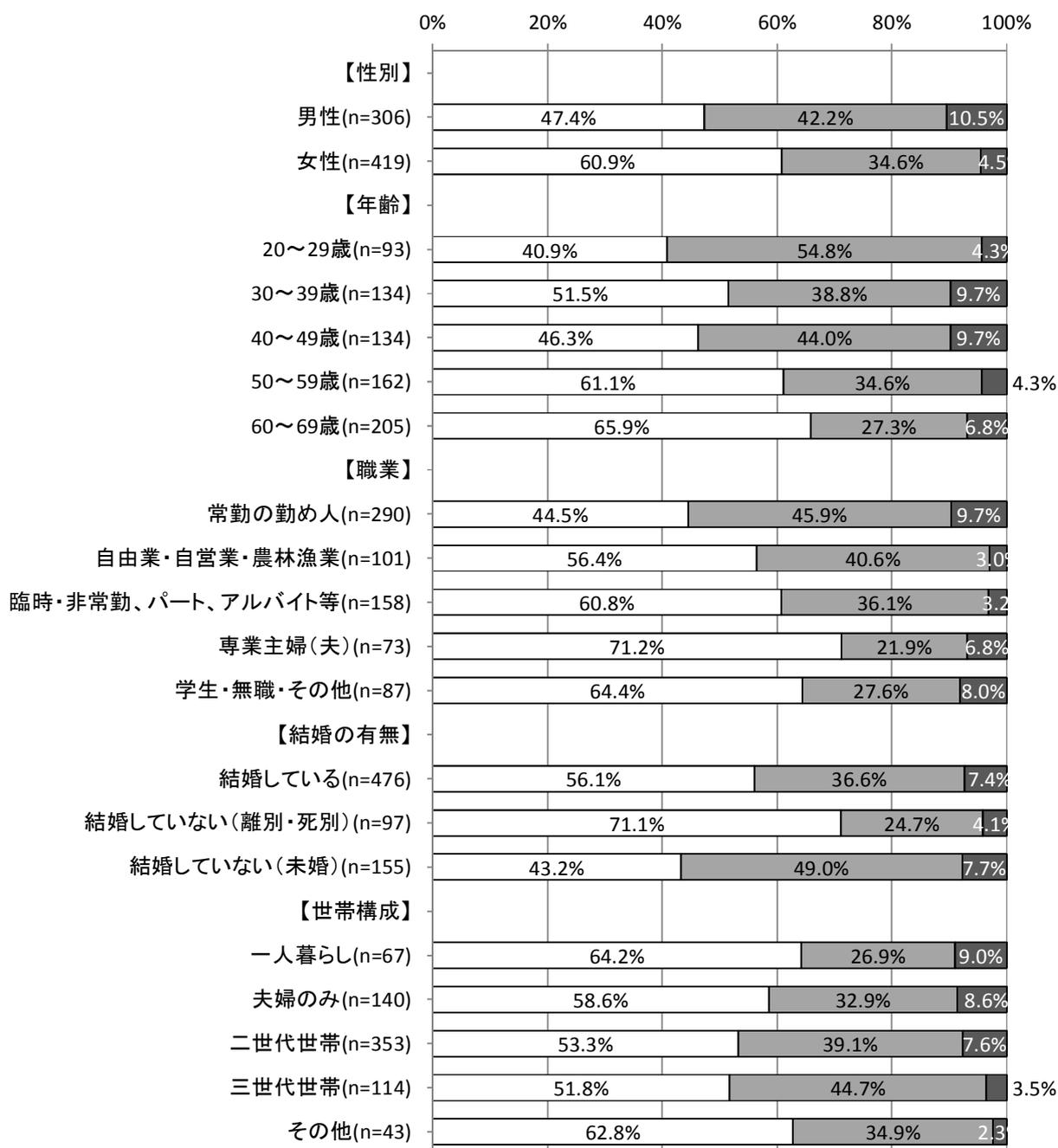
家庭生活においては、男性より女性の方が、「男性の方が優遇されている」と回答しています。また、年代は、年齢が上がるにしたがって「男性の方が優遇されている」と回答しています。



□男性の方が優遇されている ■平等になっている ■女性の方が優遇されている

問1. 男女の地位の平等感 (2) 職場において(属性別)

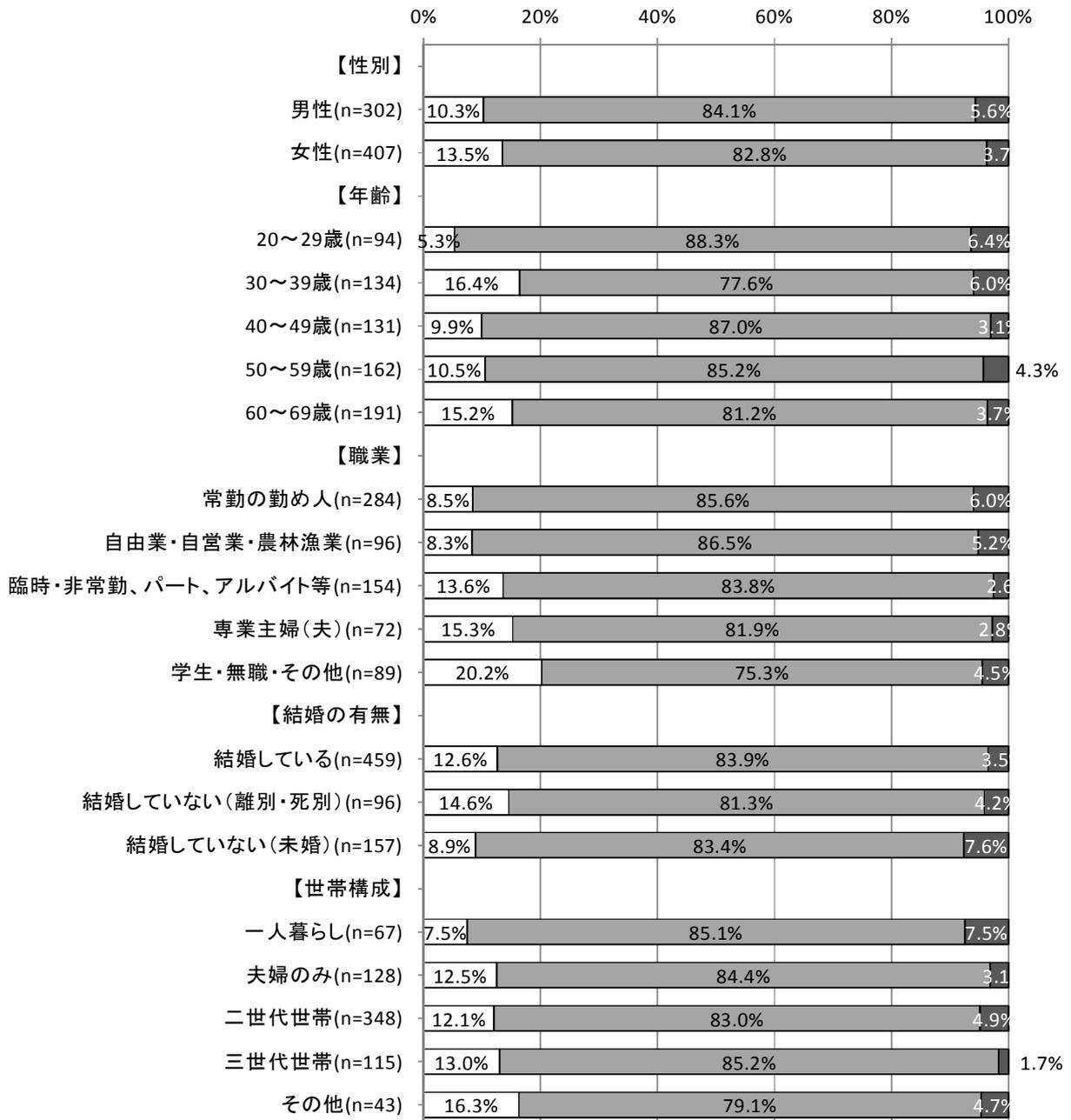
職場においては、男性より女性の方が、「男性の方が優遇されている」と回答しています。また、年代は、50歳以上で6割を超える方が「男性の方が優遇されている」と回答しています。



□男性の方が優遇されている ■平等になっている ■女性の方が優遇されている

問1. 男女の地位の平等感 (3) 学校教育の場において (属性別)

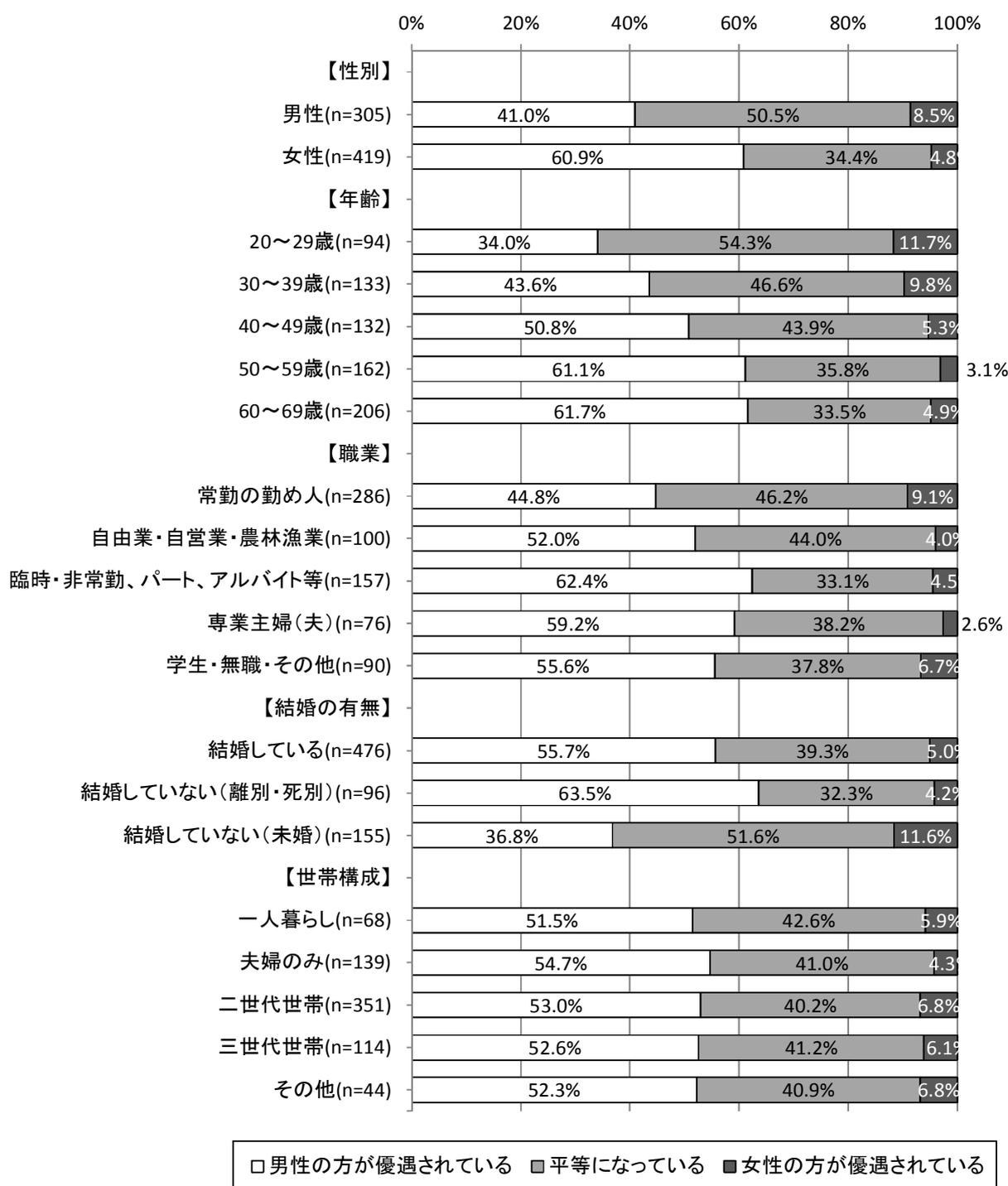
学校教育の場においては、あまり大きな差はありませんでした。



□男性の方が優遇されている □平等になっている ■女性の方が優遇されている

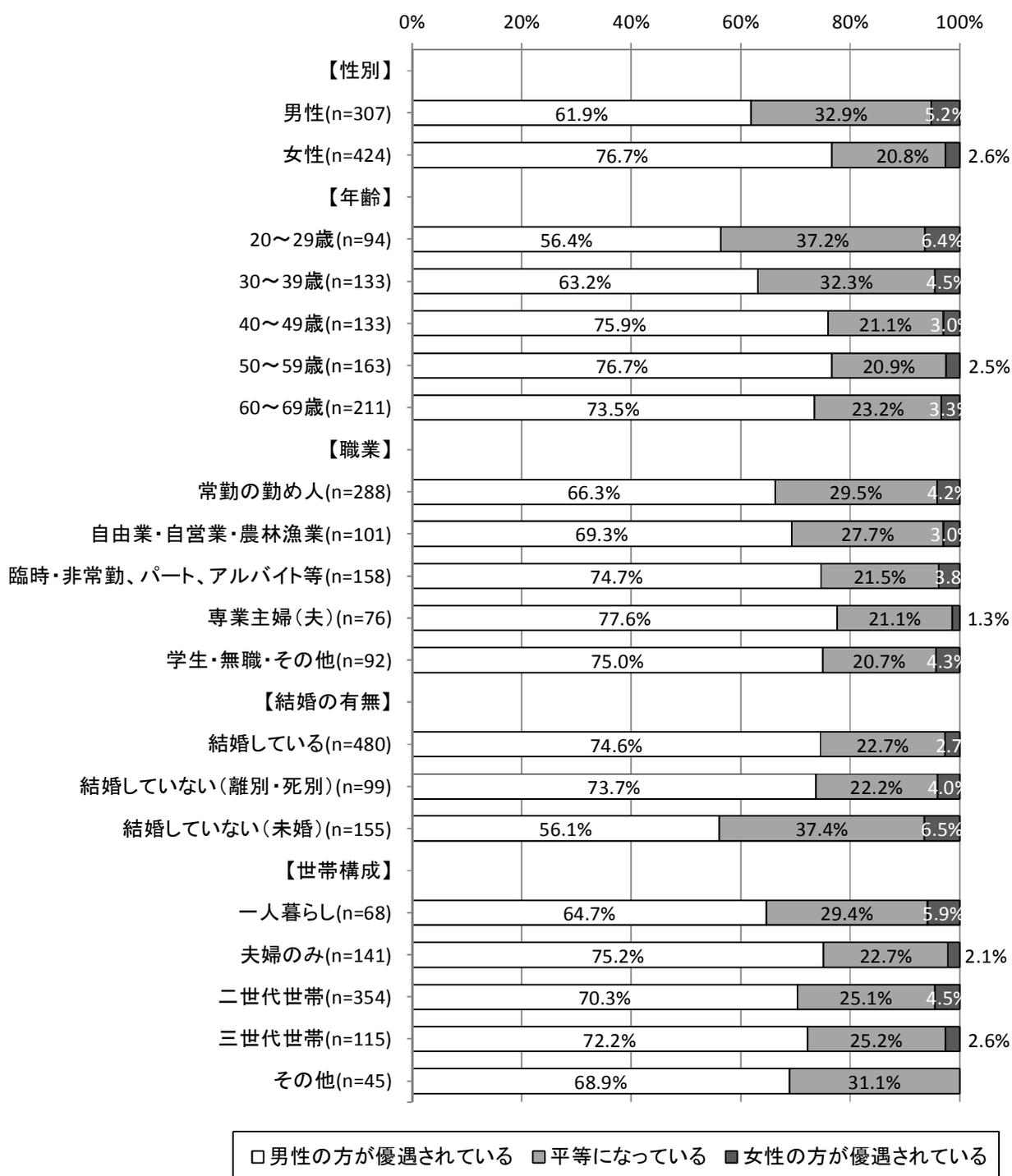
問1. 男女の地位の平等感 (4) 地域社会において(属性別)

地域社会においては、男性より女性の方が、「男性の方が優遇されている」と回答しています。また、年代は、年齢が上がるにしたがって「男性の方が優遇されている」と回答しています。



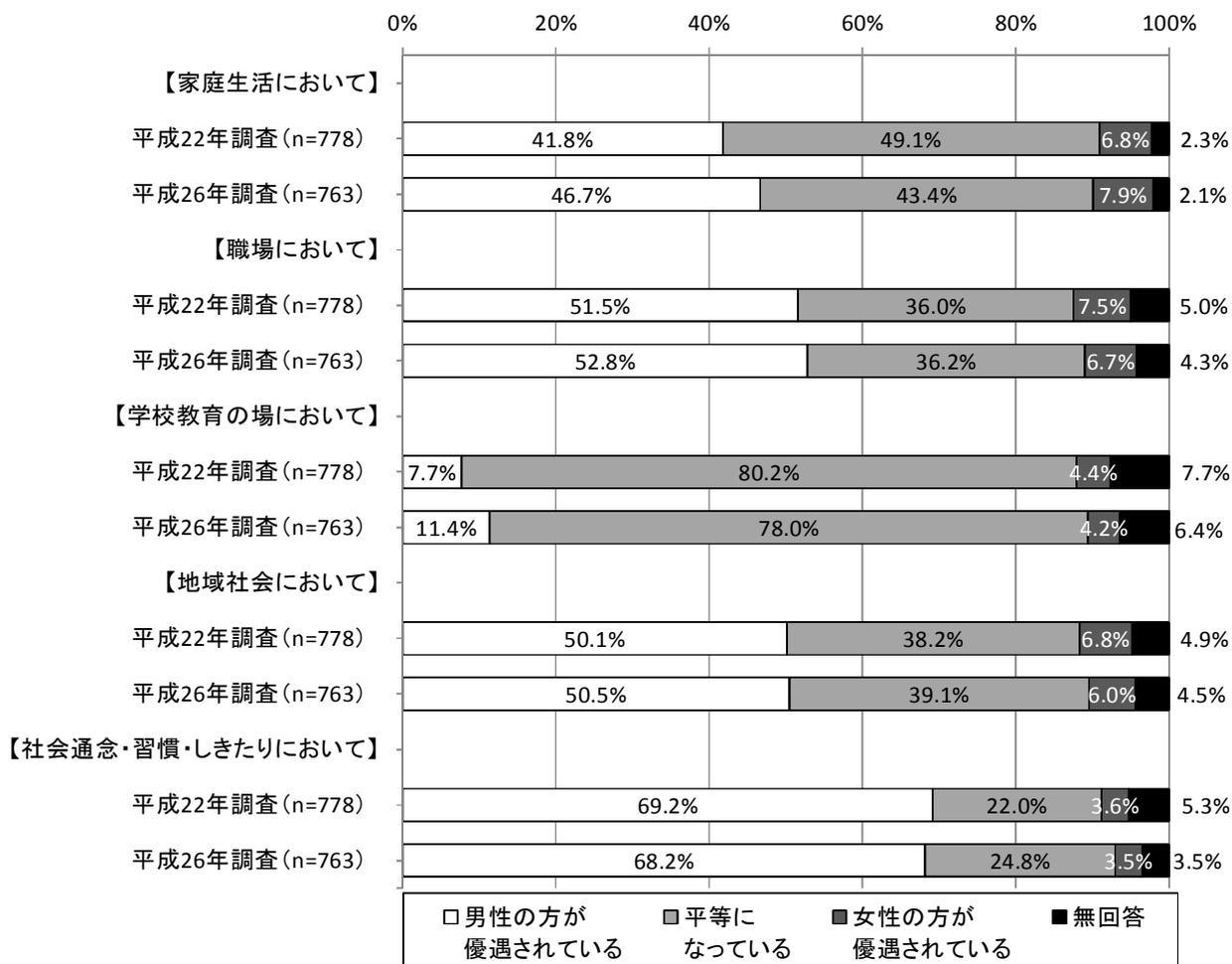
問1. 男女の地位の平等感 (5) 社会通念・習慣・しきたりにおいて(属性別)

社会通念・習慣・しきたりにおいては、男性より女性の方が、「男性の方が優遇されている」と回答しています。また、年代は、40歳以上で7割を超える方が「男性の方が優遇されている」と回答しています。



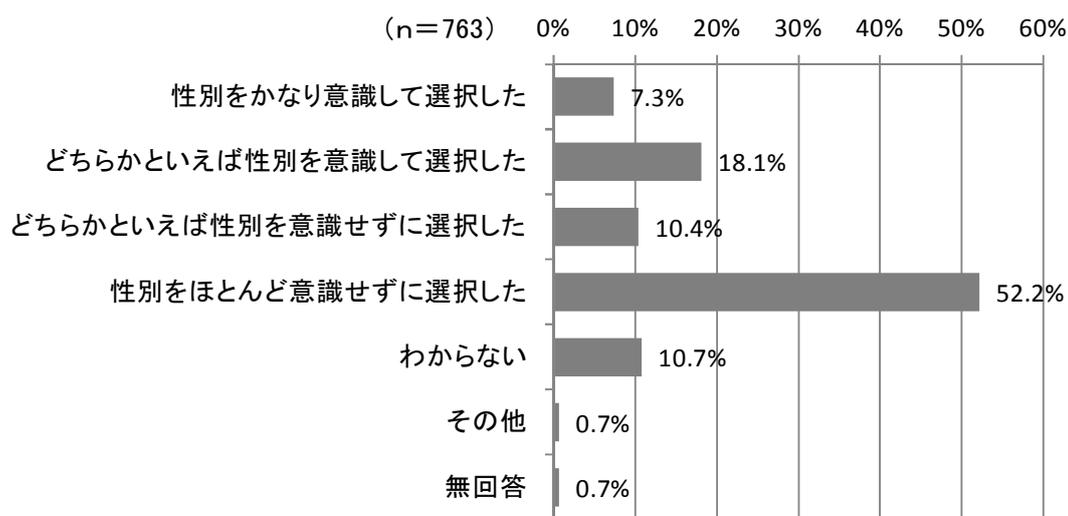
問1. 男女の地位の平等感 (前回調査との比較)

前回調査と今回の調査ではほぼ同様の結果となっていますが、【家庭生活の場において】と【学校教育の場において】でわずかに「男性の方が優遇されている」の回答の割合が高くなっています。



問2. あなたは進路や職業を選択する際に、性別を意識しましたか。 (1つだけに○)

「性別をほとんど意識せずに選択した」と回答した方が 52.2%と最も多くなっており、「どちらかといえば性別を意識せずに選択した」と合わせると、6割を超えています。また、「どちらかといえば性別を意識して選択した」が 18.1%、「性別をかなり意識して選択した」が 7.3%で合すると 3割弱の方が性別を意識して進路や職業を選択しています。

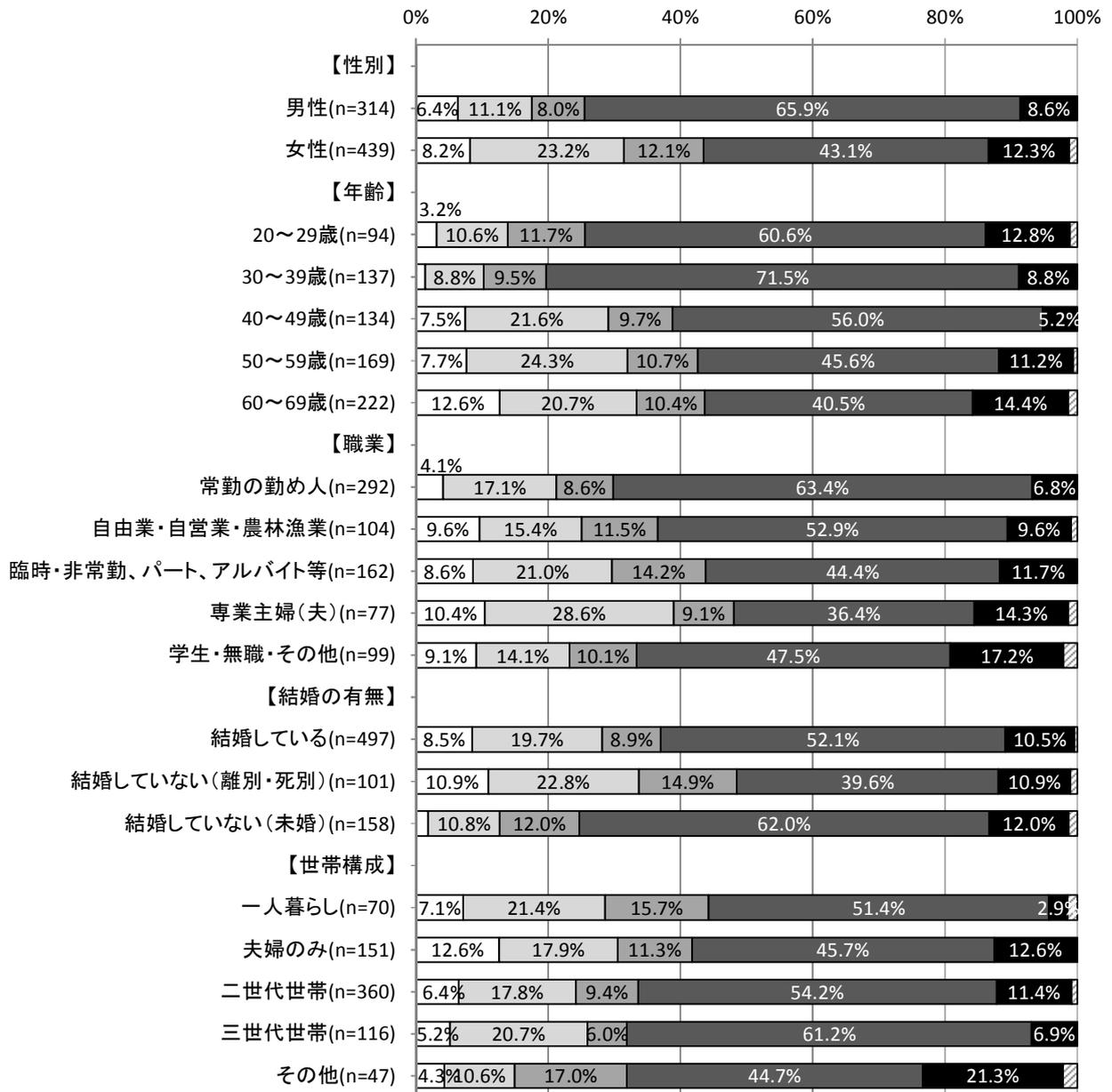


<その他の回答>

- 少人数、いさかいはなるべく少ない方が良いと思って今までは。
- 地元。
- あえて男性の多い中に入ろうとした。
- 高校は女子高なので・・・その他はあまり意識しない。

問2. 進路や職業を選択する際の性別の意識 (属性別)

進路や職業を選択する際の性別の意識については、男性より女性の方が、「どちらかといえば意識した」の割合が高くなっています。また、年代は、40歳以上で「どちらかといえば意識した」の割合が高くなっています。



□かなり意識した □どちらかといえば意識した □どちらかといえば意識せず ■ほとんど意識せず ■わからない □その他

3. 家庭生活について

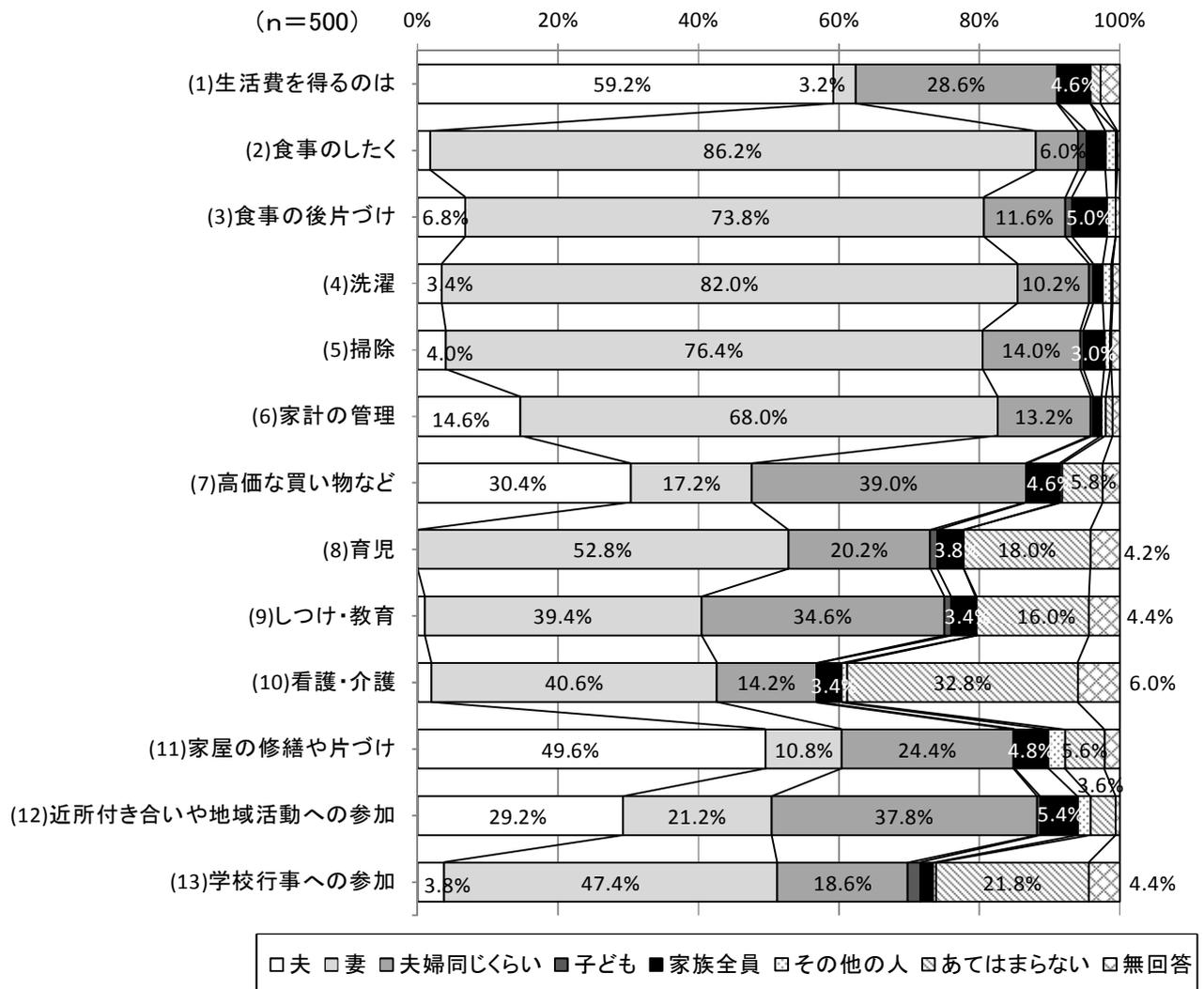
問3. 【現在、結婚（事実婚を含む）されている方に伺います】

あなたの家庭では、次の(1)から(13)について、主にだれが役割を分担していますか。(それぞれ1つに○)

夫の役割としては、「生活費を得るのは(59.2%)」、「家屋の修繕や片づけ(49.6%)」、「高価な買い物など(30.4%)」、「近所付き合いや地域活動への参加(29.2%)」となっています。

妻の役割としては、「食事のしたく(86.2%)」、「洗濯(82.0%)」、「掃除(76.4%)」、「食事の後片づけ(73.8%)」、「家計の管理(68.0%)」、「育児(52.8%)」となっています。

また、夫婦同じくらいという回答が多い項目は、「高価な買い物など(39.0%)」、「近所付き合いや地域活動への参加(37.8%)」、「しつけ・教育(34.6%)」となっています。

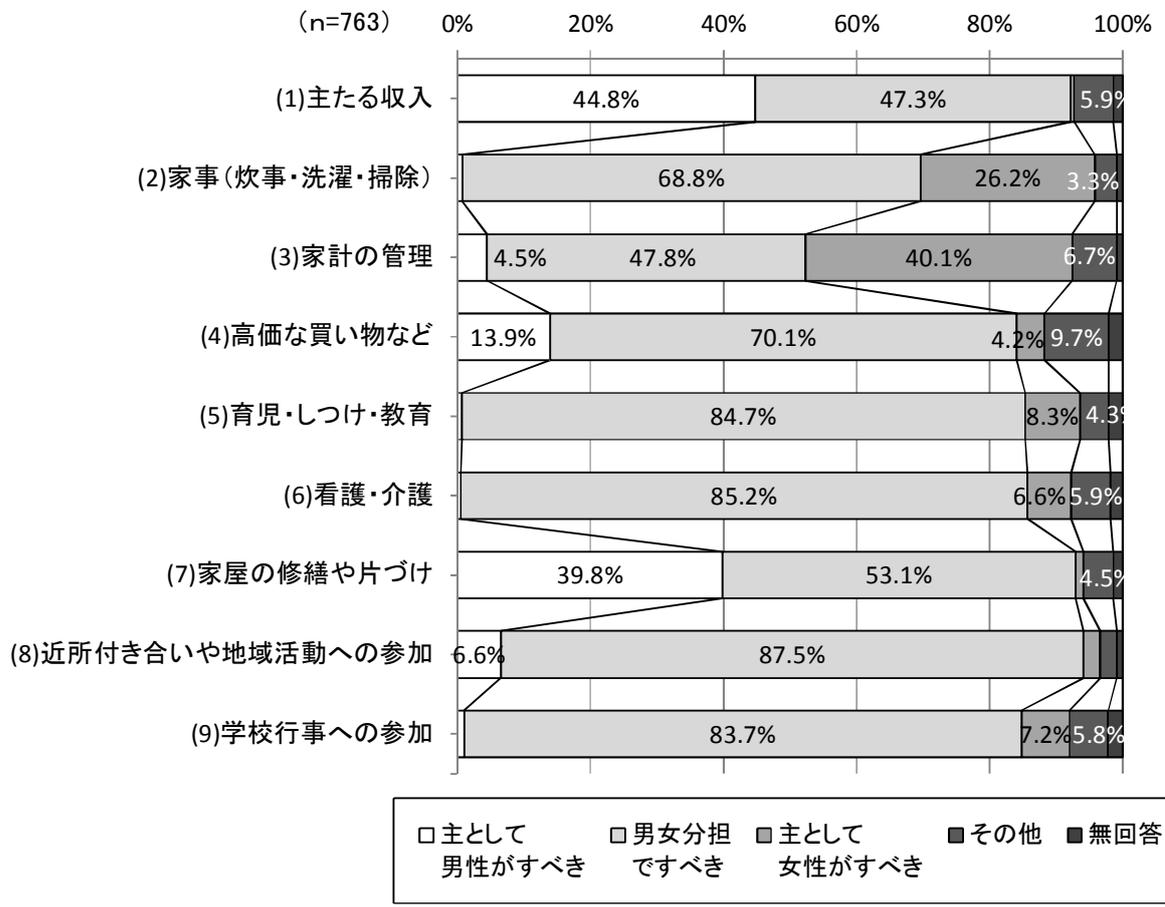


問4. 【全員の方に伺います】

あなたは、次の家庭内の役割について、どのように分担するのが理想だと思いますか。（それぞれ1つに○）

男性の理想的な役割としては、「主たる収入（44.8%）」、「家屋の修繕や片づけ（39.8%）」と回答した方が多くなっており、女性の理想的な役割は、「家計の管理（40.1%）」と回答した方が多くなっています。

また、全体的には「男女で分担すべき」という回答が多く、中でも8割を超える項目は、「近所づきあいや地域活動への参加（87.5%）」、「看護・介護（85.2%）」、「育児・しつけ・教育（84.7%）」、「学校行事への参加（83.7%）」となっています。



問4. 家庭内の理想的な役割について (前回調査との比較)

前回調査より「主として男性がすべき」の割合が低くなり、「男女分担すべき」の割合が高くなっている項目は、【主たる収入】や【家屋の修繕や片付け】となっています。

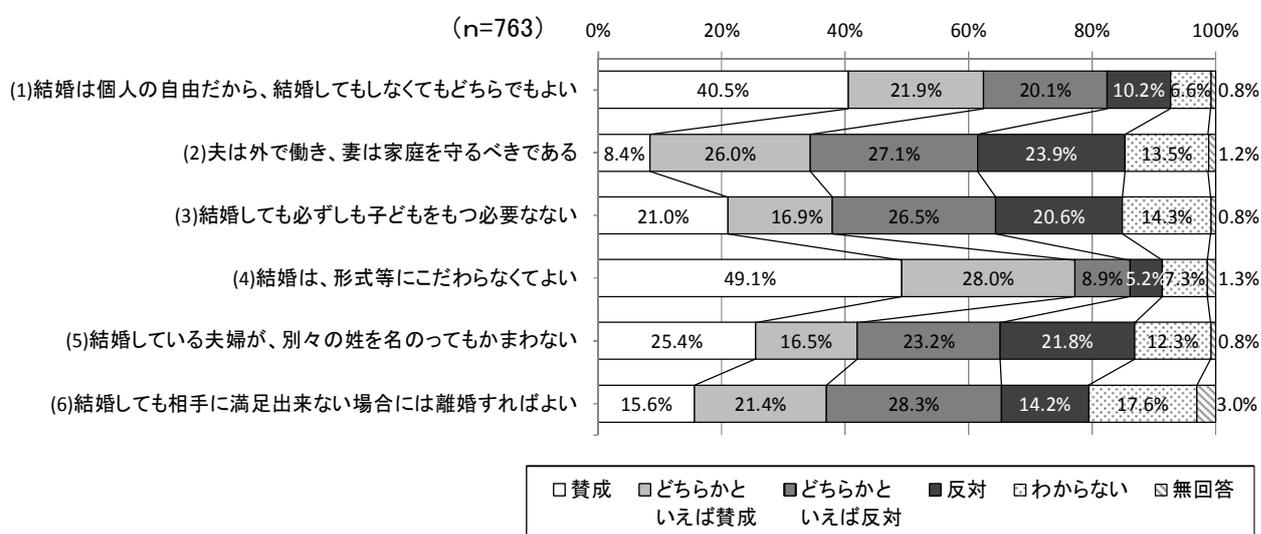
また、「男女分担すべき」の割合が高くなり、「主として女性がすべき」の割合が低くなっている項目は、【家事(炊事・洗濯・掃除)】や【看護・介護】となっています。



問5. あなたは、結婚や家庭観についてどう考えますか。次の(1)～(6)のそれぞれについてあなたの考えに近いものを選んでください。(それぞれ1つに○)

「賛成」、「どちらかといえば賛成」を合わせて賛成と回答が多い項目は、「結婚は、形式等にこだわらなくてよい(77.1%)」、「結婚は個人の自由だから、結婚してもしなくてもどちらでもよい(62.4%)」となっています。

また、「反対」、「どちらかといえば反対」を合わせて反対との回答が多い項目は、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである(51.0%)」、「結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない(47.1%)」となっています。



<その他の回答>

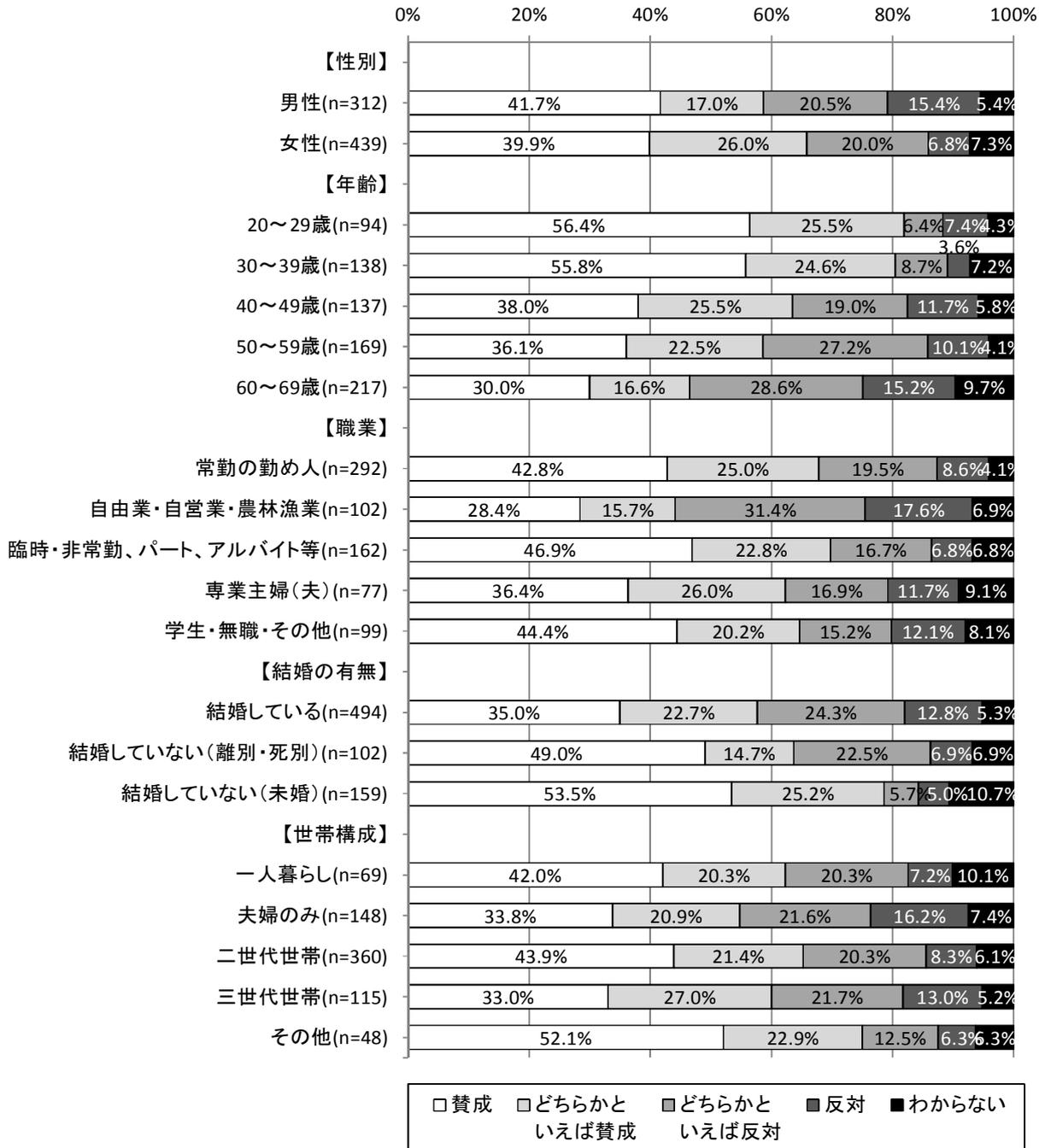
- 人それぞれ環境、立場、考え方が違うので一概に言えない。
- 結婚は両性の合意のみによって成立するものですからどんな形態でも夫婦が一致(合意)してれば問題ない。
- 介護をしているとお金が大変でも働けないのが辛い。どうにか収入が欲しい。
- 女性同士、男性同士の結婚は考えられない。
- 努力が必要。
- 努力してもうまくいかない場合は離婚して新しい人生を考えたほうが良い。
- 私は結婚し、3人の子供が生まれもう10年専業主婦をしているのですが、毎日ただ家の事をやってあつという間に一日、一年が過ぎてしまいますが、子供の成長など充分楽しんでいるのですが、最近そういう生活が苦痛だという方に出会い、まだお子さんが6ヶ月なのに働きに出る事を考えていて本当、人それぞれだと改めて感じました。

- (6)について、安易に離婚する夫婦が多すぎる。結婚してから相手に合わせお互いに思いやりを持って成長していくものだと思います。
- 何らかの障害・病気などにより子供がいない場合もある。差別しないこと。
- 沼田は若者のシングルマザーが多い。
- 自由は大切だが、結婚子育てで人として成長していくことの大切さを感じることも必要。
- ケースバイケースなので賛成、反対だけでは決めかねます。
- お互いに良いと思っても長い間にはズレもありますので相手に対して思いやりが大事です。
- (6)の質問は経験していませんので答えられません。満足を求めなければOK。満足が幸せとは限らないと思いますよ。
- 子供ができるならば社会のために産み育てた方がよい。
- 問1, 2, 3について断定的に考える、思考することではないと思う。現在の経済社会の状況の中ではまず経済的な基盤がしっかりしないと1～3について難しい。3は子育て支援の環境づくりが必要と思う。
- そもそもこの質問がバカらしい。
- パートナーを持ち家庭を築くのは動物としてあたり前の事。結婚に至らないのは、適齢期までの生活での、職場環境、家庭、教育など、社会に何らかに問題があるのでは。

問5. 結婚や家庭観

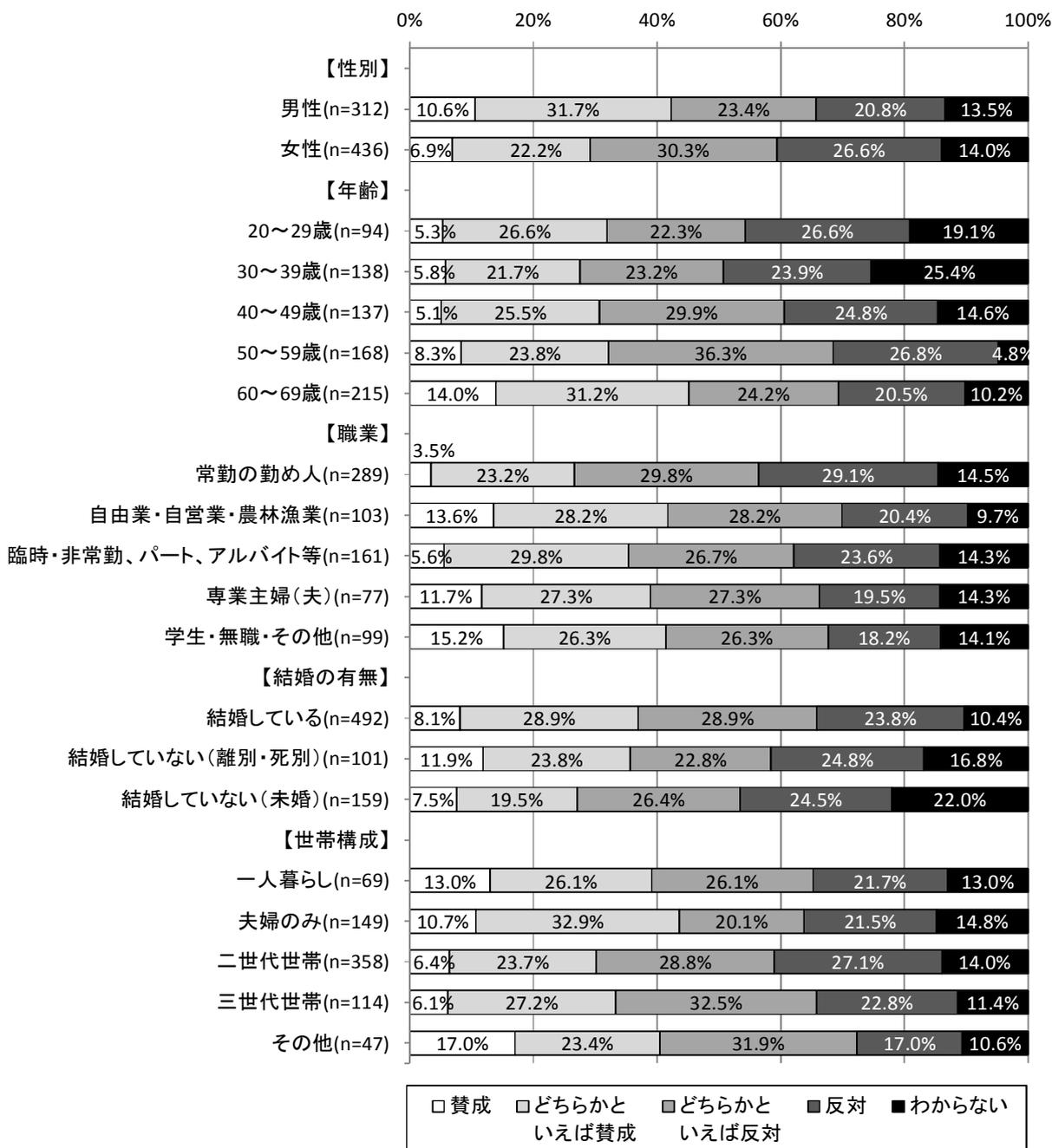
(1) 結婚は個人の自由だから、結婚してもしなくてもどちらでもよい (属性別)

結婚は個人の自由だから、結婚してもしなくてもどちらでもよいについて、年代は、年齢が上がるにしたがって「賛成」の割合が低くなっています。また、結婚の有無で結婚している方より結婚していないの方が「賛成」の割合が高くなっています。



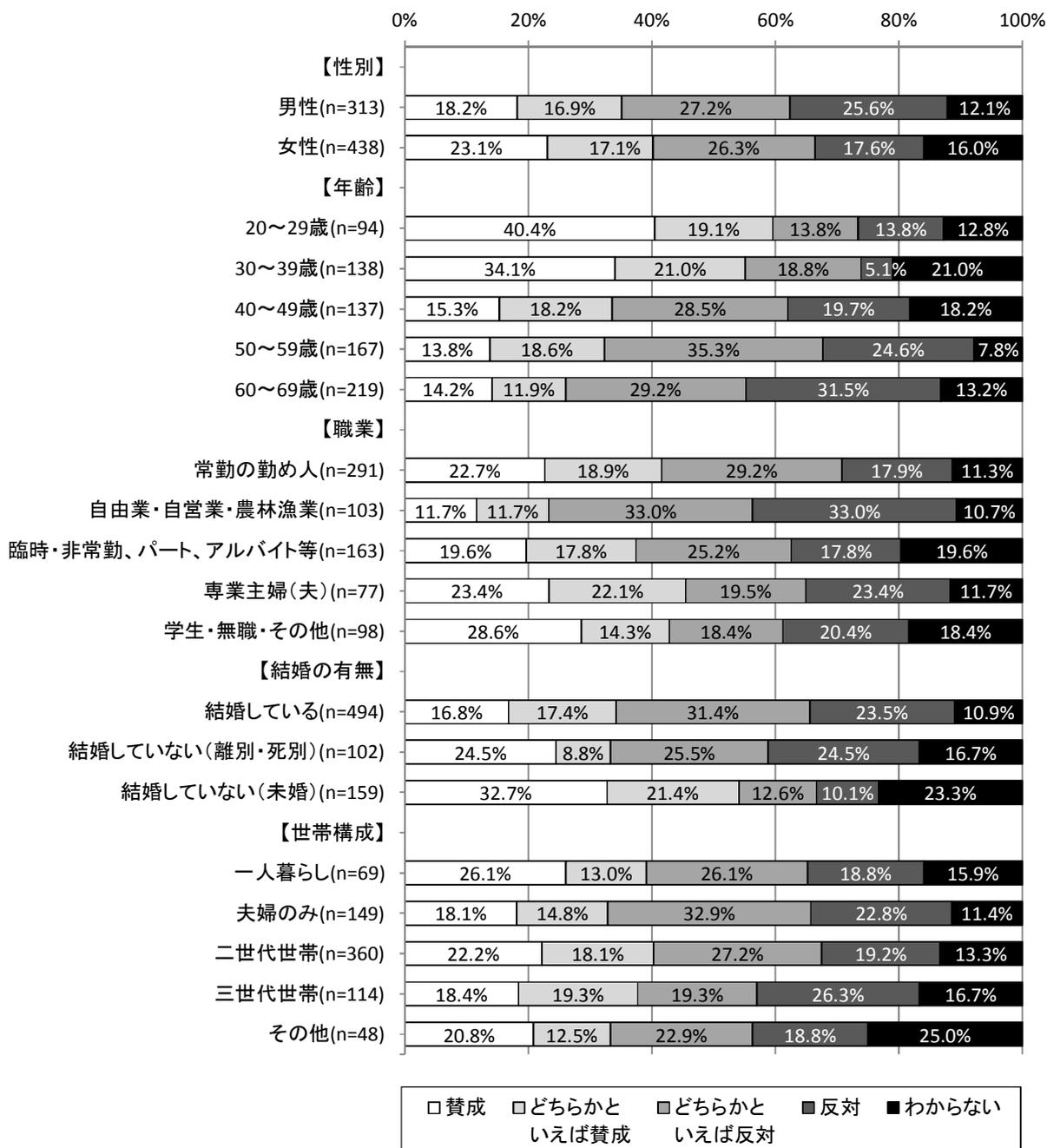
問5. 結婚や家庭観 (2) 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである (属性別)

夫は外で働き、妻は家庭を守るべきであるについては、男性より女性の方が、「どちらかといえば反対」、「反対」の割合が高くなっています。また、年代では、「40～49歳」、「50～59歳」で「どちらかといえば反対」の割合が高く、「60～69歳」では、「賛成」、「どちらかといえば賛成」の割合が高くなっています。



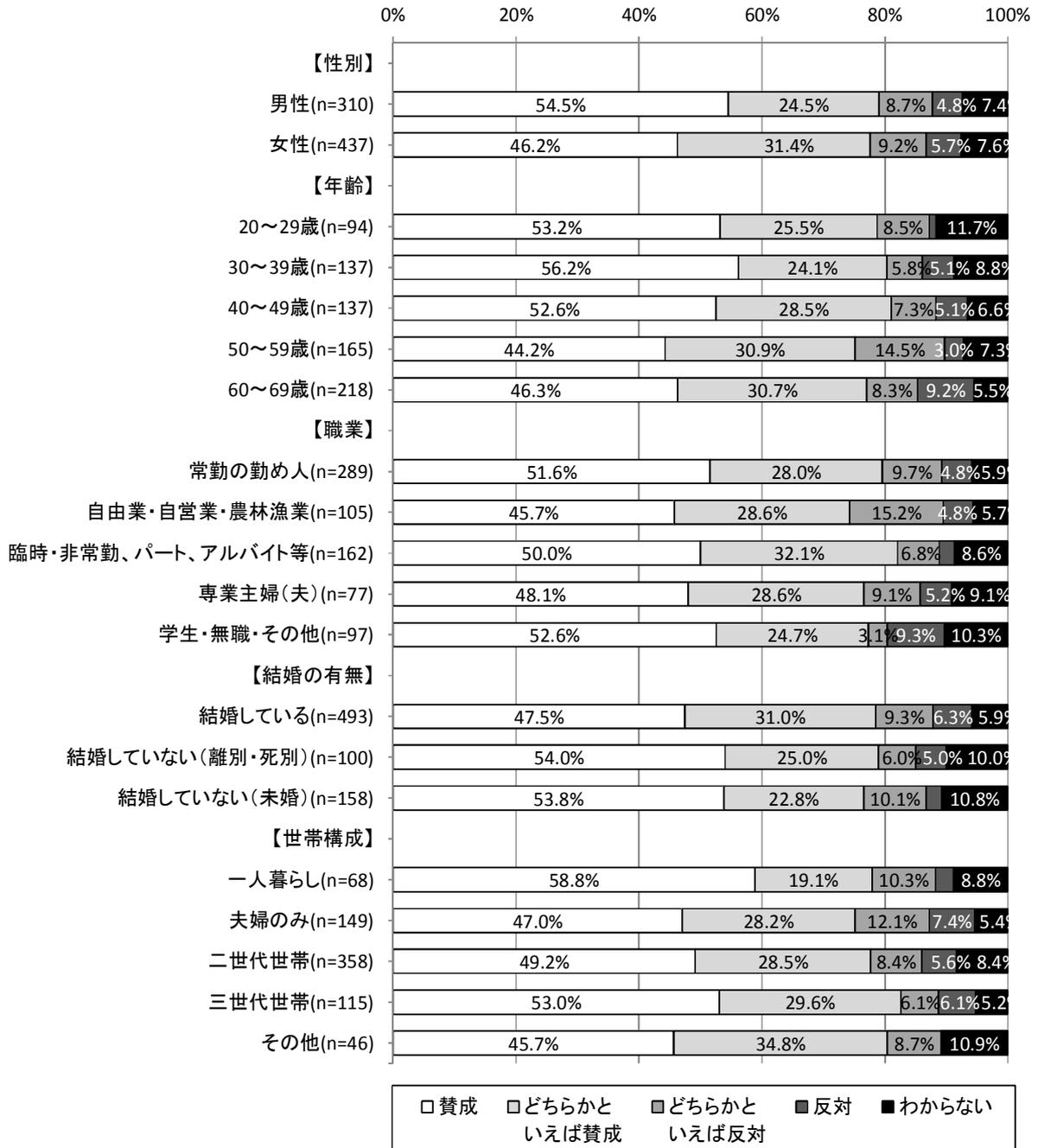
問5. 結婚や家庭観 (3) 結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない (属性別)

結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はないについては、年代で「20～29歳」、「30～39歳」で「賛成」の割合が高くなっています。また、結婚の有無では、結婚していない(未婚)で「賛成」、「どちらかといえば賛成」の割合が高くなっています。



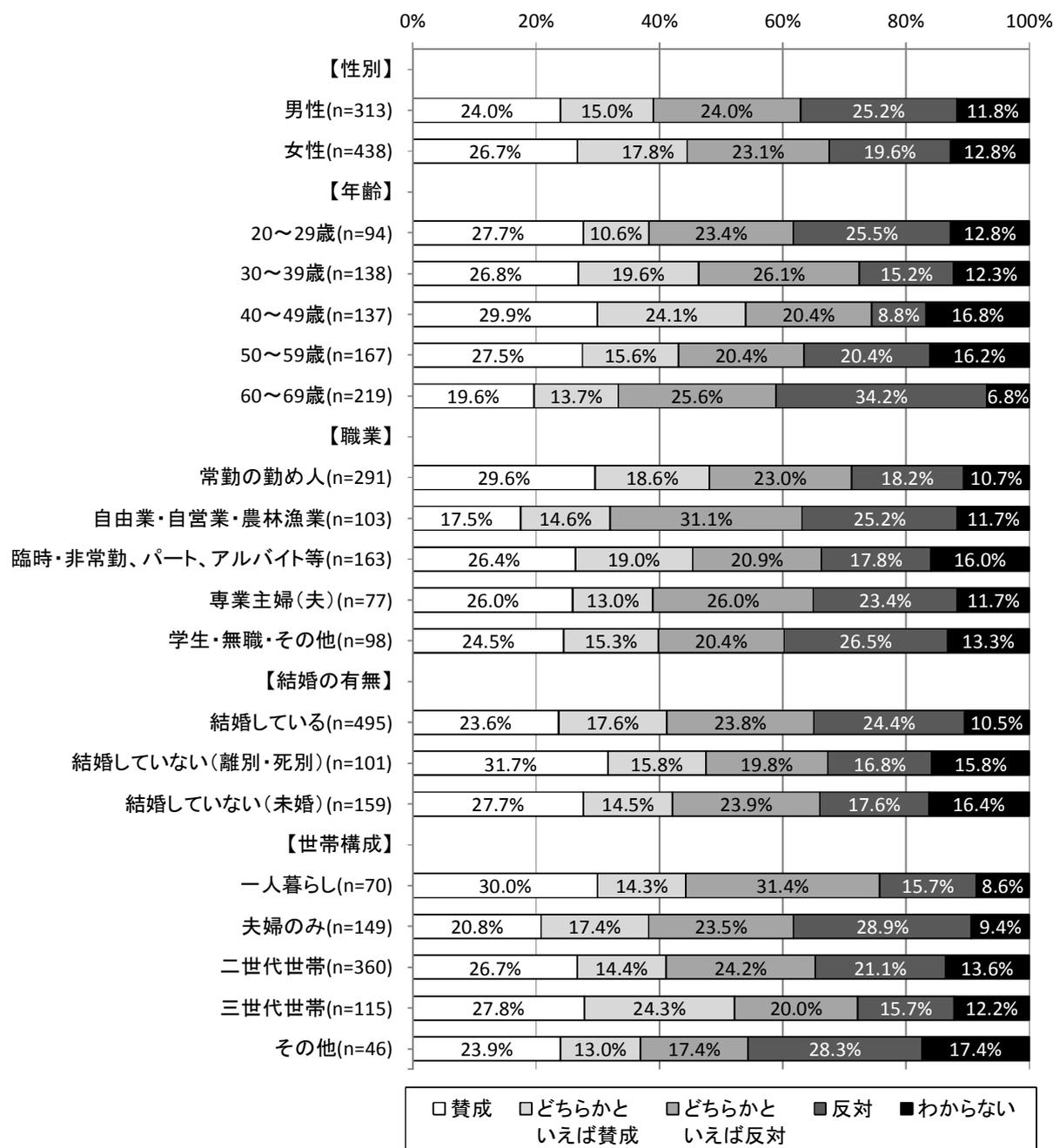
問5. 結婚や家庭観 (4) 結婚は、形式等にこだわらなくてよい (属性別)

結婚は、形式等にこだわらなくてよいについては、女性より男性の方が「賛成」の割合が高くなっています。年代では、50歳未満で「賛成」の割合が5割を超え高くなっています。



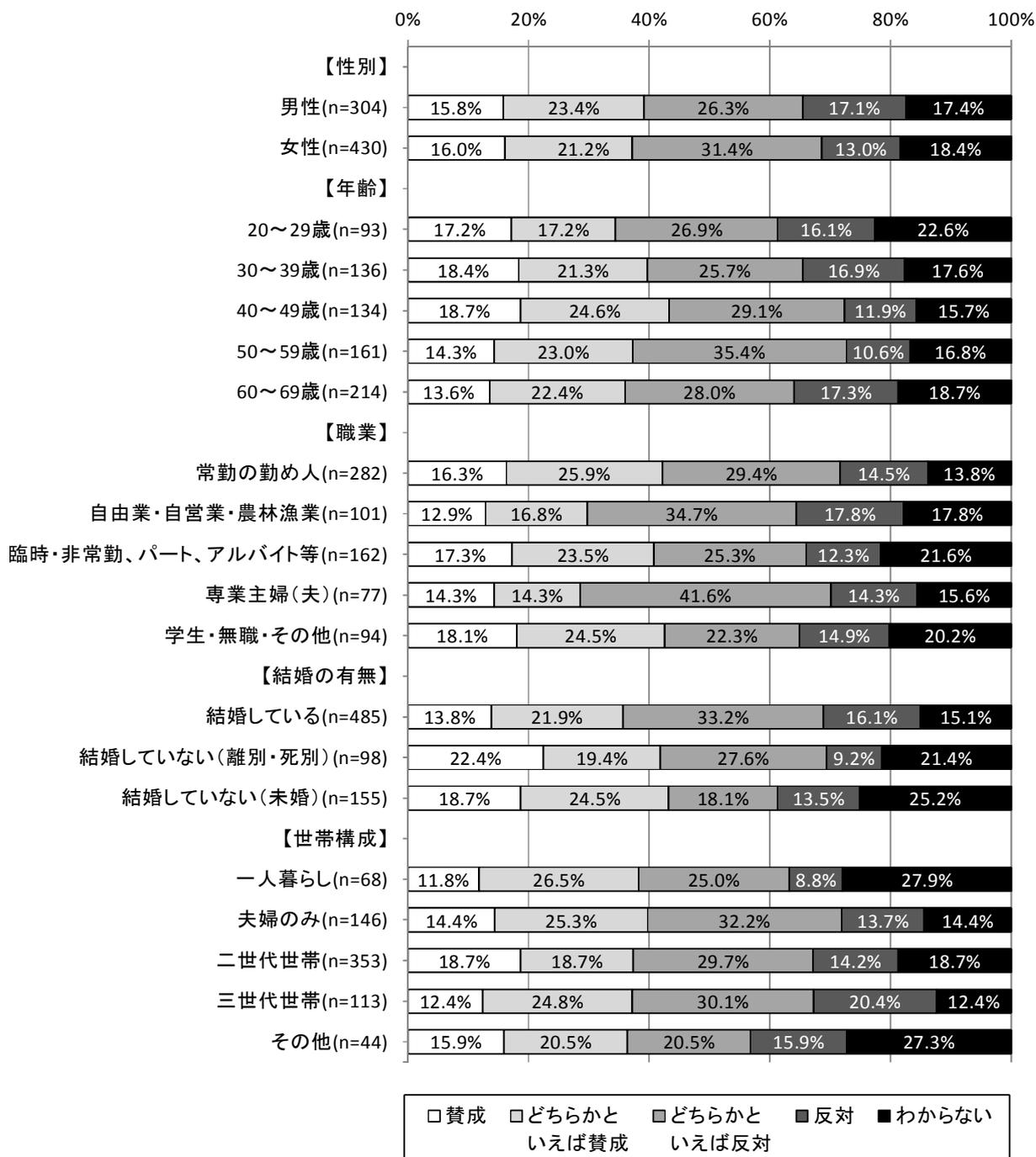
問5. 結婚や家庭観 (5) 結婚している夫婦が、別々の姓を名のってもかまわない (属性別)

結婚している夫婦が、別々の姓を名のってもかまわないについては、男性より女性の方がやや賛成の割合が高くなっています。また、年代では、「40～49歳」で、「賛成」、「どちらかといえば賛成」の割合が5割を超え高くなっています。



問5. 結婚や家庭観 (6) 結婚しても相手に満足出来ない場合には離婚すればよい (属性別)

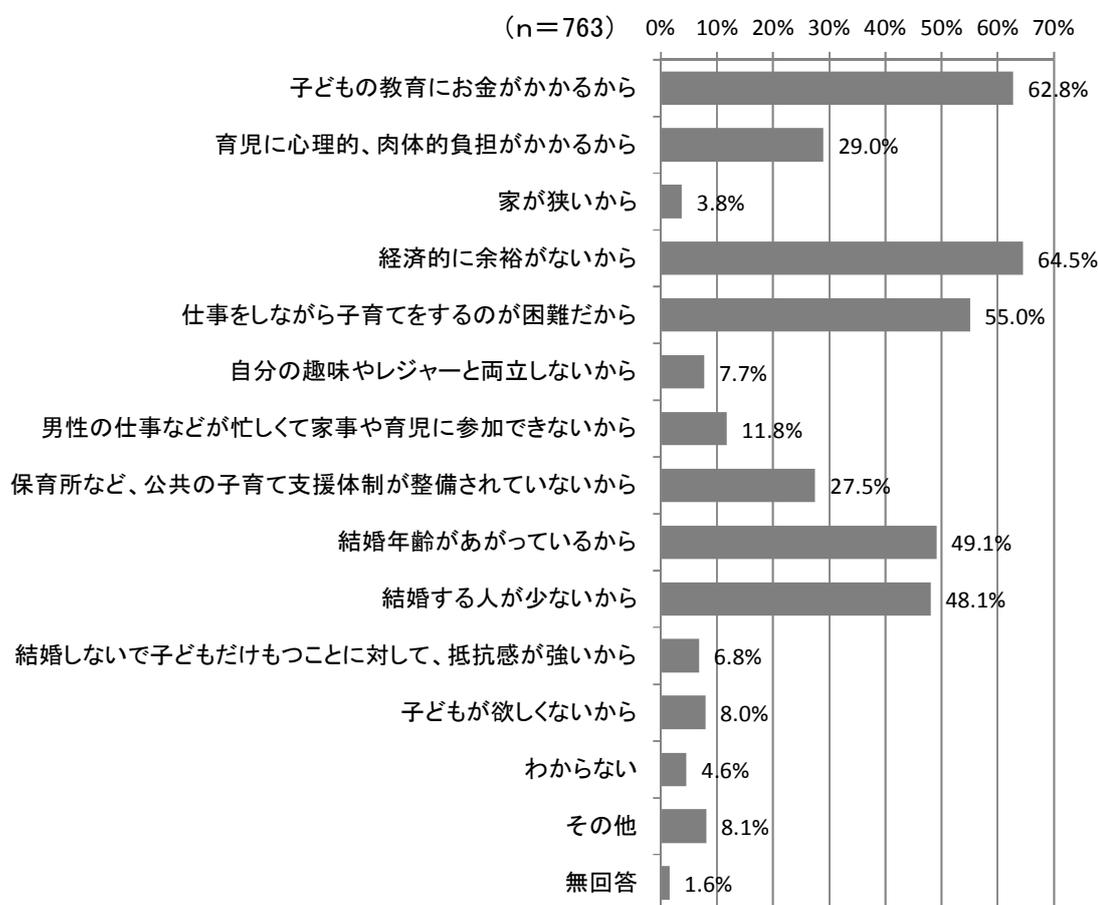
結婚しても相手に満足出来ない場合には離婚すればよいについては、結婚の有無で結婚している方で、「どちらかといえば反対」、「反対」の割合が高くなっています。



4. 子育てや介護について

問6. 全国的に少子化が進んでいますが、沼田市においても年々出生率が低下し、平成15年の出生数は503人でしたが、25年には339人に減っています。その理由は、どのようなことだと思いますか。(〇はいくつでも)

「経済的に余裕がないから」と回答した方が64.5%、「子どもの教育にお金がかかるから」の62.8%となっており、金銭的な理由が上位を占めています。続いては、「仕事をしながら子育てをするのが困難だから」が55.0%、「結婚年齢があがっているから」が49.1%、「結婚する人が少ないから」が48.1%となっています。



<その他の回答>

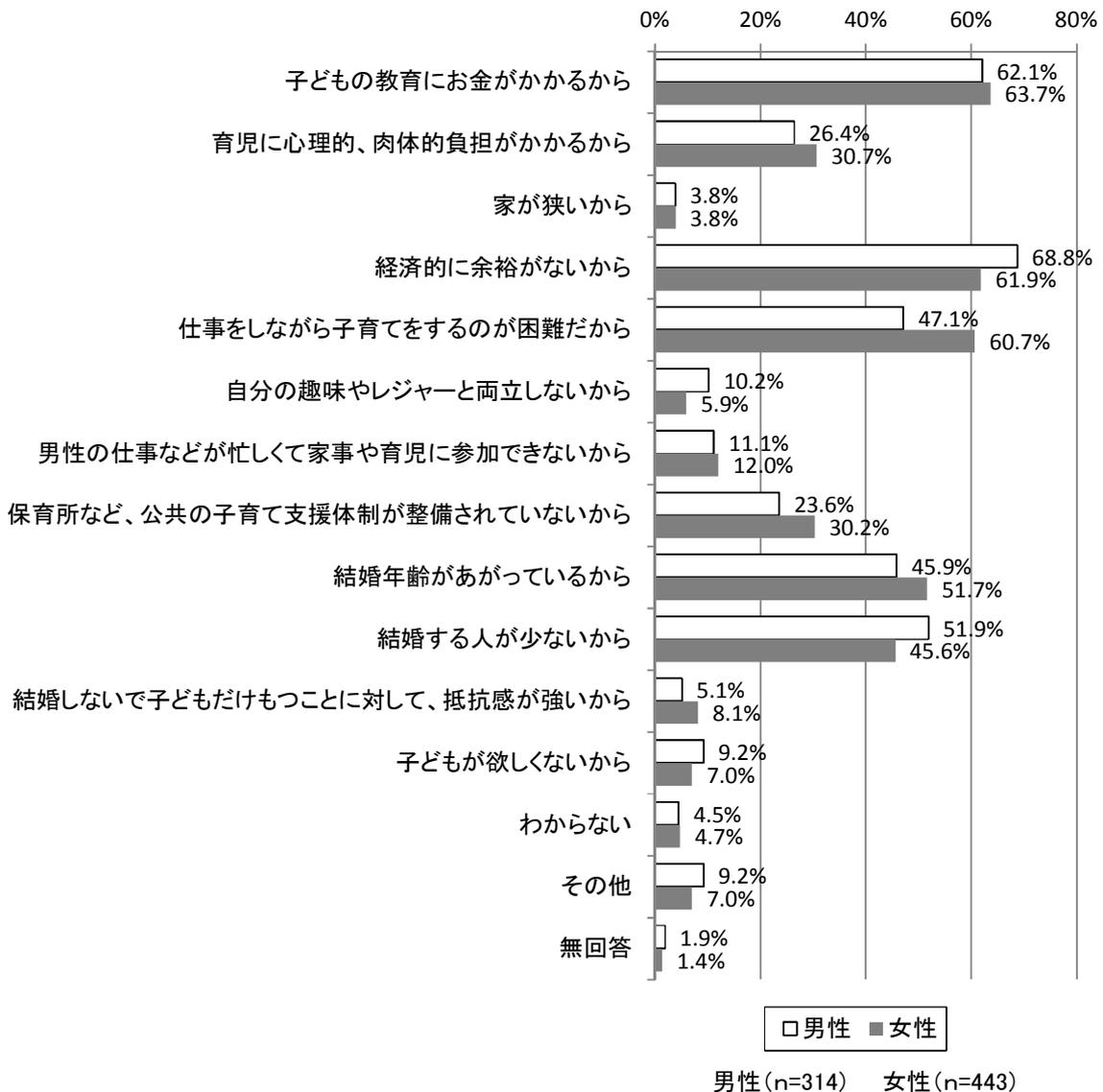
- 産婦人科を扱っている病院が少なく、選択肢が限られているから。(沼田市内の産婦人科医院、産婦人科医の減少)
- 自分の楽しみを優先するために、国(社会)を大切にするという意識が低下してきている。
- 仕事が無い→金が無い→結婚できない。
- 出産適齢期の男女の人口が減っているから。

- 子供は国の子としてもっと子供を持つ人の事を中心に政治をしないと、国の滅びる元になる。(沼田市も同じ)
- 子供1人以上には国で育てるようにする。
- 将来を考えたら子供が大変そうなので。
- 相手の長所を見つける「見識」の欠如。
- 職が無い。若者が精神を病む。お金が無い。自信が無い。社会の底辺をみてください。悲惨です。ニート、ひきこもりは必然的なのです。子供が少ないと言いますが、ネグレクトなどで失ったり、若いうちに精神的に辛くなる次代です。どうお考えですか？
- 産婦人科(産めるところ)が不安定、少ない。(例)来年度利根中がどうなるかなど・・・保育園中はよいが、小学校に入ると希望した学童に入れない。
- 働き場所が少ないので、もっと仕事と子育てを両立できる場所へ出てしまう？
- 制度・経済ではなく、自然環境に不安があるから。
- そもそも沼田市の人口が少ないから。
- 育児休暇を心よく思わないバカな社長がいるから。
- へたれが増えた。
- 子供は社会の子という考え方が薄い。結婚に対して多様な考え方が認められているから。
- 若い人たちが市外に行ってしまうから。
- 先が不安。
- 沼田市の場合、若い人の人口流出が大きいと思う！！学業の為、市外に出たら戻りたいと思う市になってほしい。仕事のないのが大きい問題かもしれない。あってもブラック企業で定着していないようだ。
- 不妊の人もいると思う。で！！不妊治療にお金がかかる。
- 環境・経済等、未来の日本に希望が見出せない。
- 保育所の保育料が高く、子供を預けて働くのが大変。
- 沼田市は前橋市などに比べて非常に妊娠から出産・育児に対して不安に思うことが多く、子育ても非常にしづらいと実感している。
- 自分のことだけで未来のことまでは・・・余裕がない？
- 人口そのものが減っているから。

問6. 少子化の理由 (男女別)

男女の回答に差のあるものは、「仕事をしながら子育てをするのが困難だから」で男性よりも女性の方が13.6ポイント高い回答となっています。また、「保育所など、公共の子育て支援体制が整備されていないから」や「結婚年齢が上がっているから」でも男性よりも女性の方が高い回答となっています。

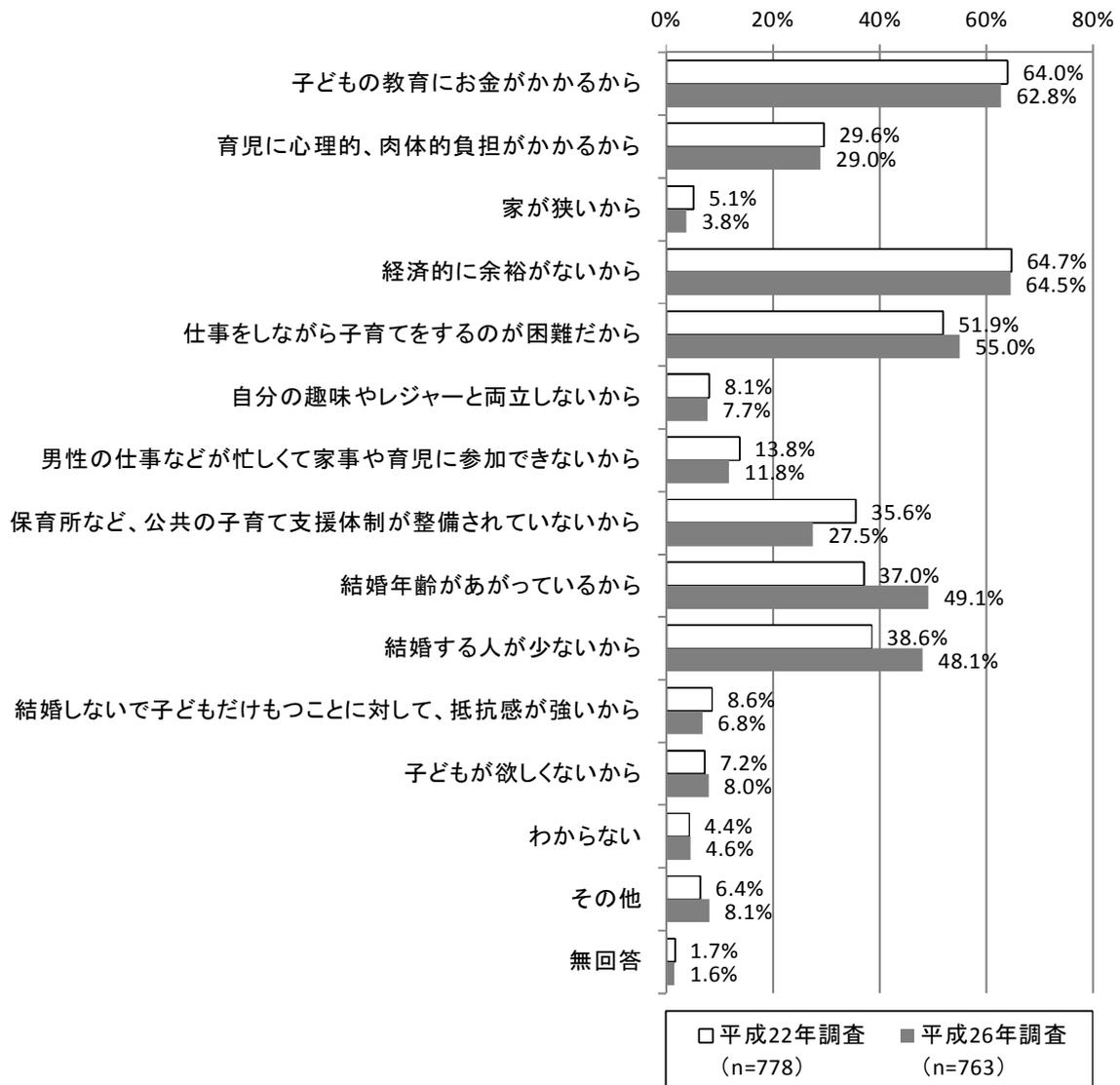
女性よりも男性の方が高い回答となっているものは、「経済的に余裕がないから」や「結婚する人が少ないから」となっています。



問6. 少子化の理由 (前回調査との比較)

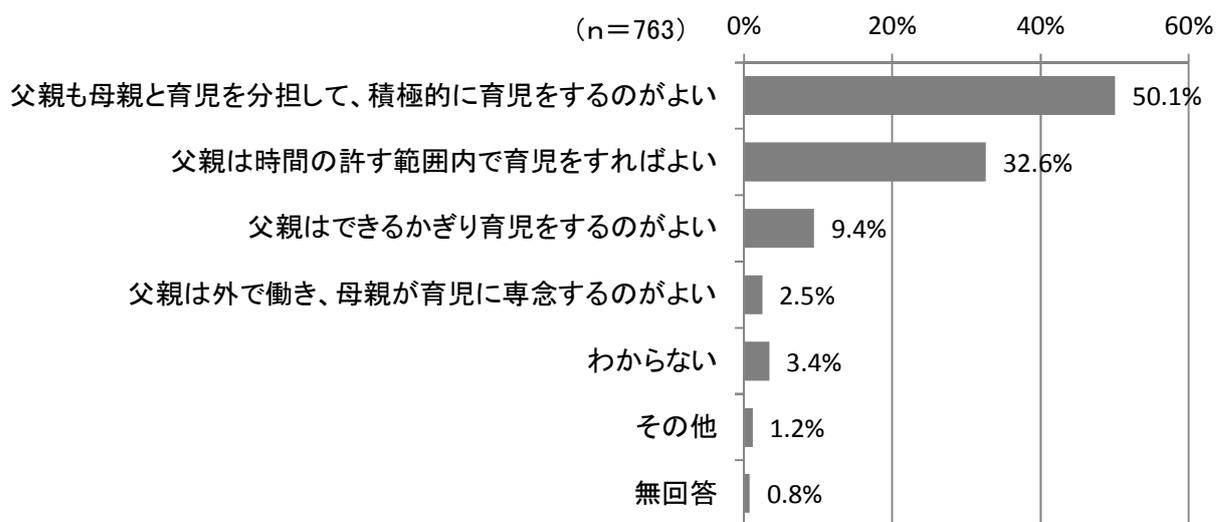
前回調査より回答の割合が高くなっている項目は、「結婚年齢があがっているから」が12.1ポイント、「結婚する人が少ないから」が9.5ポイント高くなっています。

また、回答の割合が低くなっている項目は、「保育所など、公共の子育て支援体制が整備されていないから」が8.1ポイント低くなっています。



問7. 父親の育児参加について、どのようにお考えですか。あなたの考えに最も近いものを選んでください（1つだけに○）

「父親も母親と育児を分担して、積極的に育児をするのがよい」と回答した方が50.1%と最も多く約半数となっており、続いては、「父親は時間の許す範囲内で育児をすればよい」の32.6%となっています。また、「父親は外で働き、母親が育児に専念するのがよい」と回答した方は2.5%となっています。

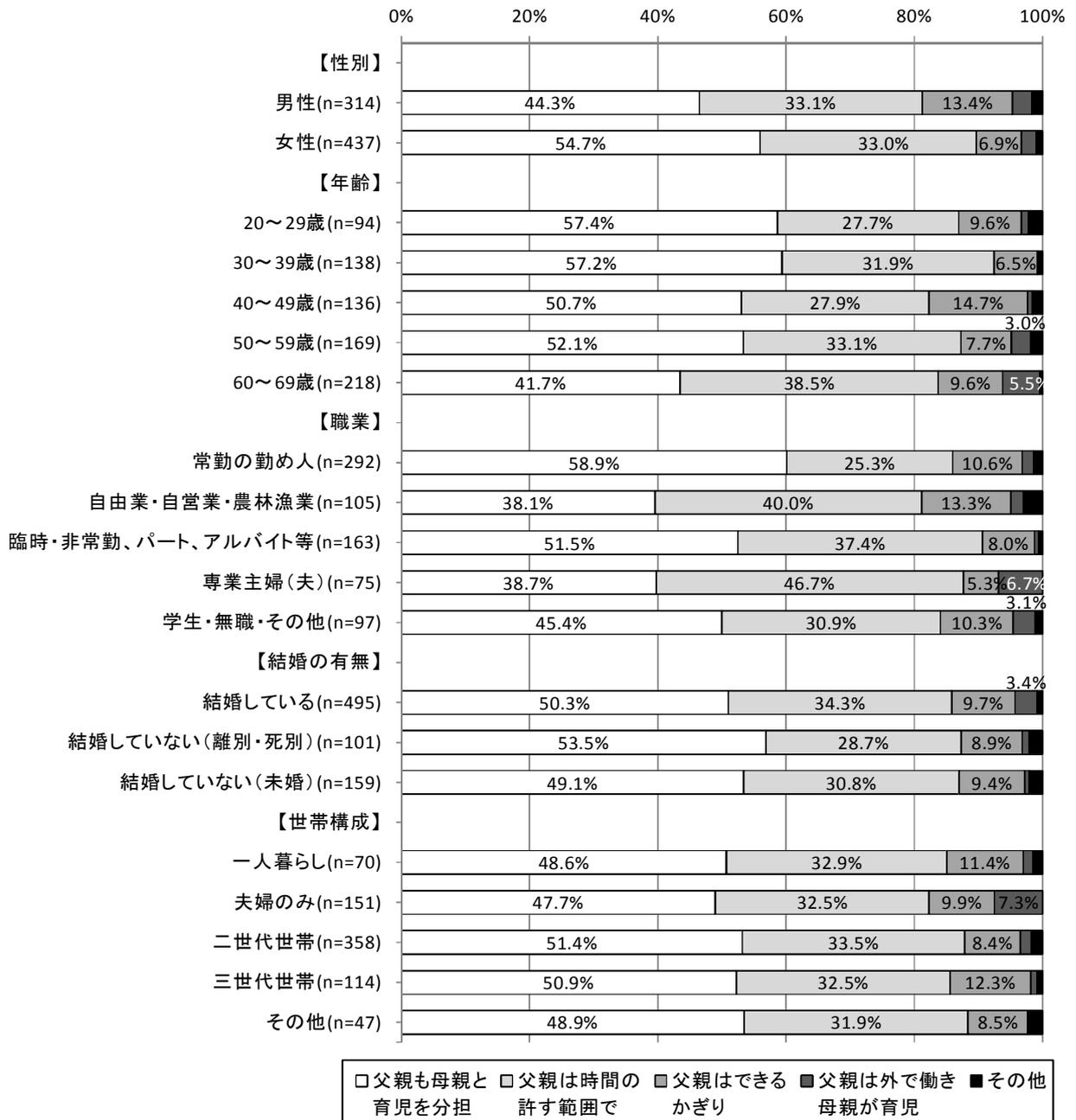


<その他の回答>

- 父も母も協同して育児すべき(分担ってどういう意味ですか?)。
- 母親の方が稼げるのなら逆でも良い。
- 女性の意識が低いので変わらないと難しいと思います。
- 男性も職場で有休を取りやすくなればよい。また、歩合制の給料の廃止、月給制へ。
- しばらくこの社会情勢であれば、男性は仕事優位に決まっている。

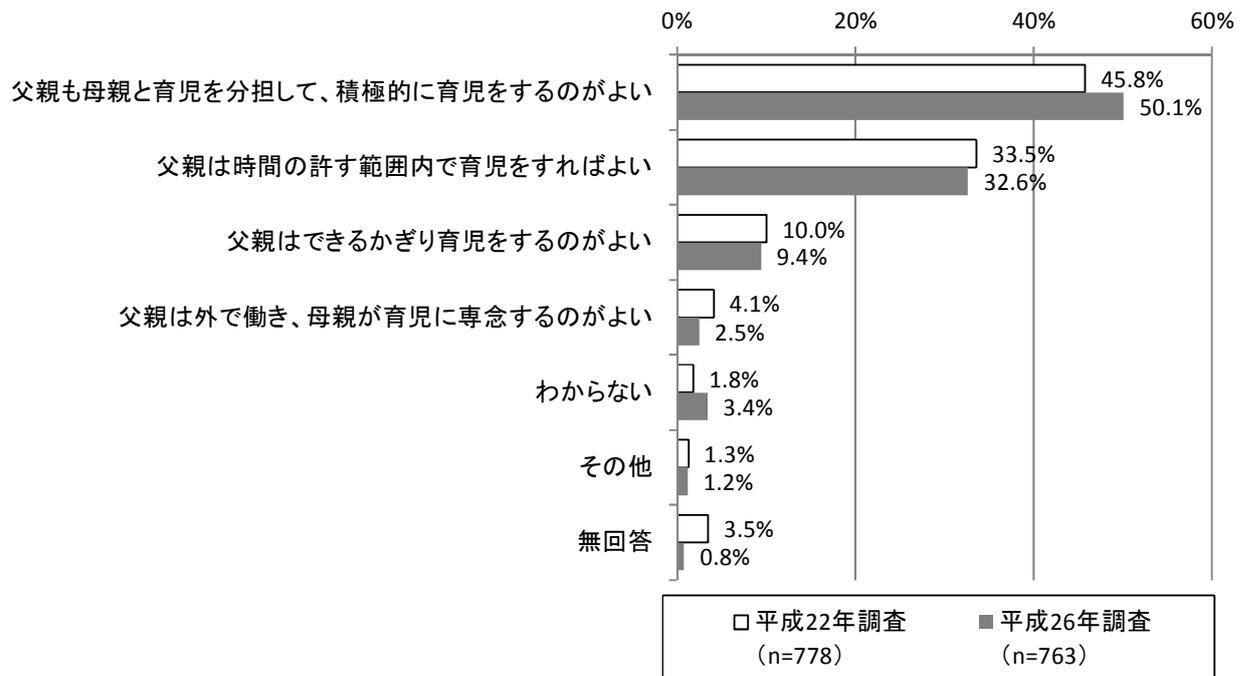
問7. 父親の育児参加について (属性別)

父親の育児参加については、男性より女性の方が「父親も母親と育児を分担」の割合が高くなっています。また、年代では、40歳未満で「父親も母親と育児を分担」の割合が高く、「60～69歳」で「父親は時間の許す範囲で」の割合が高くなっています。



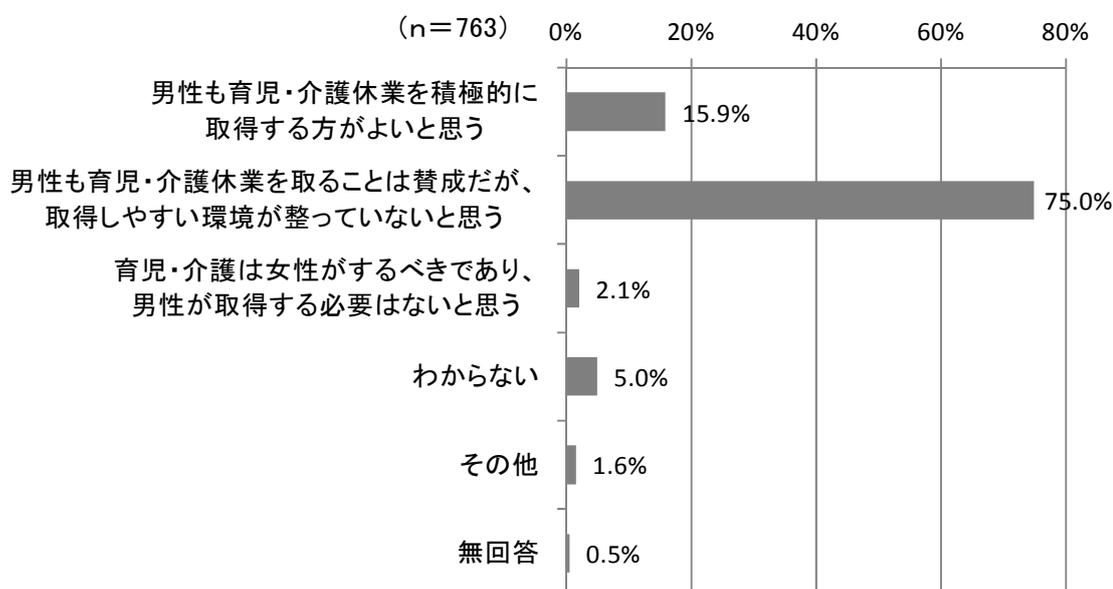
問7. 父親の育児参加について (前回調査との比較)

前回調査より回答の割合が高くなっている項目は、「父親も母親と育児を分担して、積極的に育児をするのがよい」が4.3ポイント高くなっています。



問8. 育児や介護を行うために、育児休業や介護休業を取得できる制度が「育児・介護休業法」により定められています。あなたは、男性の育児・介護休業の取得について、どのようにお考えですか。あなたの考えに最も近いものを選んでください。（1つだけに○）

「男性も育児・介護休業を取ることは賛成だが、取得しやすい環境が整っていないと思う」と回答した方が75.0%と最も多く、4人に3人の方が回答しています。続いては、「男性も育児・介護休業を積極的に取得する方がよいと思う」の15.9%となっています。また、「育児・介護は女性がすべきであり、男性が取得する必要はないと思う」と回答した方は2.1%となっています。

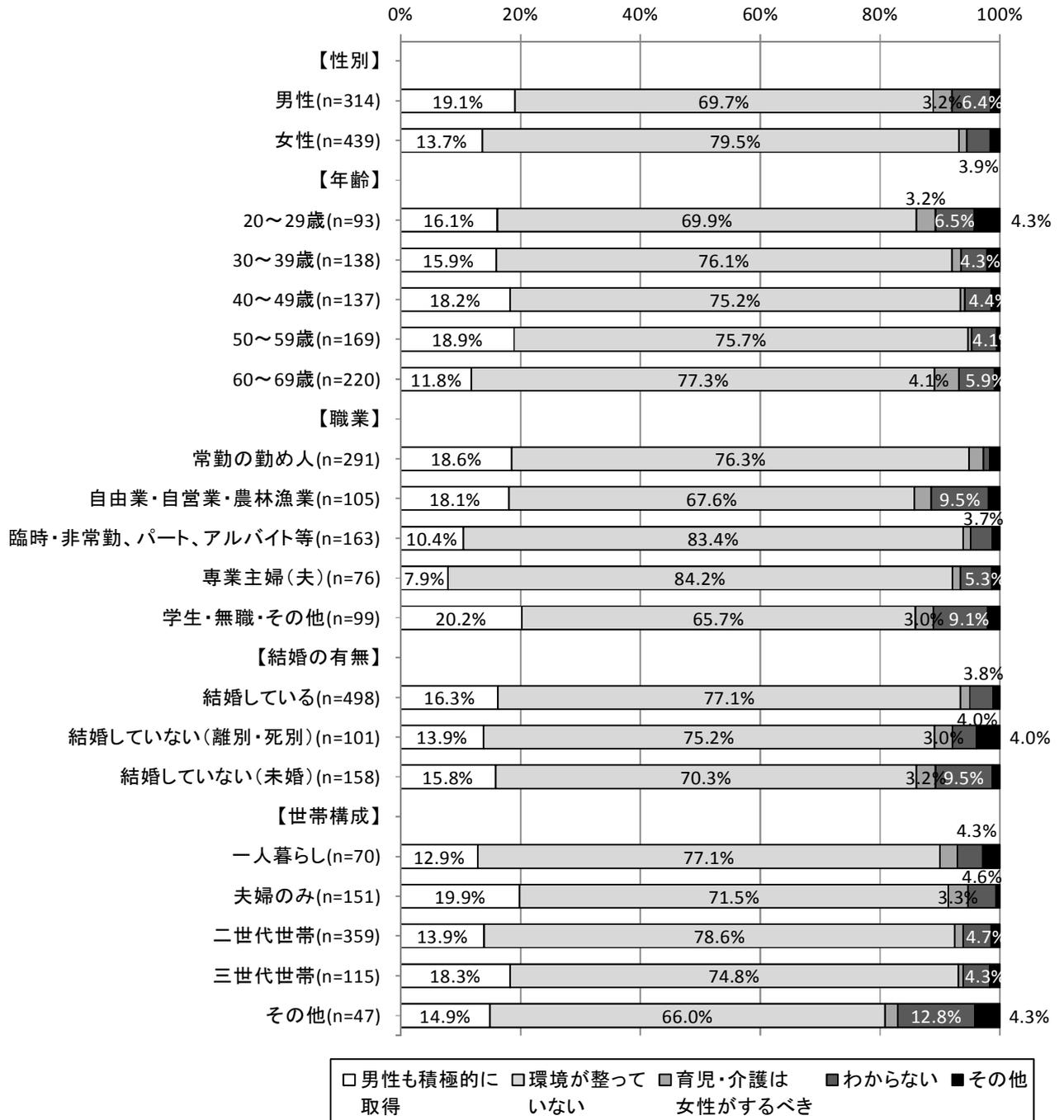


<その他の回答>

- 家庭環境やその時の状況による。
- 全員にあてはまるわけではなく問7と同じでその家庭で必要であればとればよいと思う。
- 沼田あたりでこんな制度は有名無実。私の会社は社保すらない。
- 若い人の事です、それは育児昔は親がみてやれた今は別で仕事するので介護ですがいい親子で近くに住み、決まり事作る事でやって行ける。遠い所へ住む人は育児介護になります。
- 男性は時間のゆるすべし協力すべし。
- 職種によってどうしても違うのでわからない。
- 男性の仕事は休めるほど生優しい物ではない。責任の重さが違う。女性がすべきとも思わない。
- 取得には賛成だが、経済的に厳しいと思う。
- 3.に近いが男女のどちらか一方にしたほうがよいと思う。
- 仕事の内容によっても異なるので一概に言えない。
- 男性も育児・介護は参加した方がよいと思うが、仕事を休んでまでする必要はないと思う。

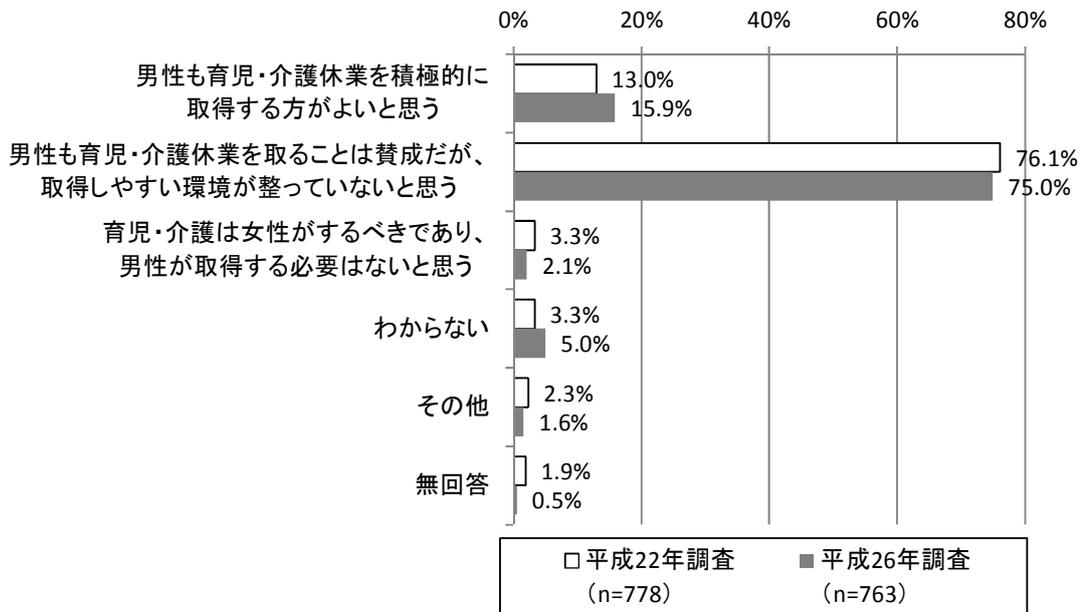
問8. 男性の育児・介護休業の取得について (属性別)

男性の育児・介護休業の取得については、あまり大きな差はありませんでした。



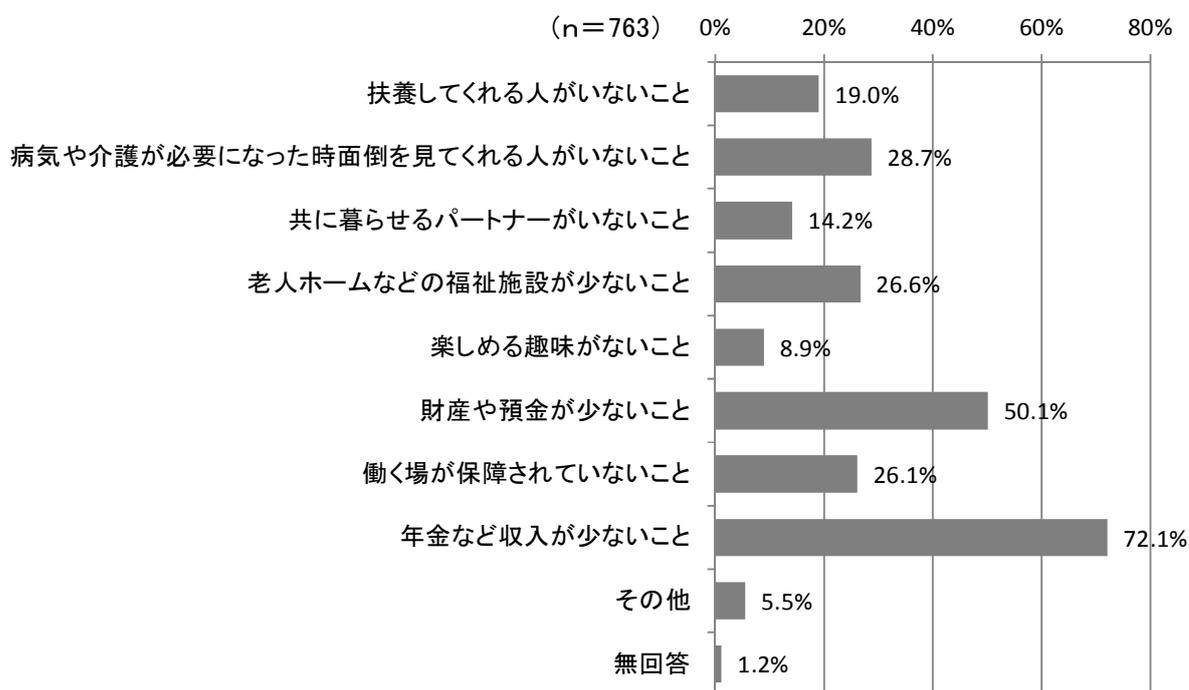
問8. 男性の育児・介護休業の取得について (前回調査との比較)

前回調査より回答の割合が高くなっている項目は、「男性も育児・介護休業を積極的に取得する方がよいと思う」が2.9ポイント高くなっています。



問9. 沼田市の高齢化率（総人口に対する65歳以上人口の割合）は高く、平成17年には23.4%でしたが、平成26年には28.6%と上昇を続けていますが、あなたは、老後の生活にどのような不安を感じますか。（〇はいくつでも）

「年金など収入が少ないこと」と回答した方が72.1%と最も多く、続いては、「財産や預金が少ないこと」が50.1%と約半数となっており、経済的な理由をあげています。その他の回答としては、「病気や介護が必要になった時面倒を見てくれる人がいないこと」の28.7%、「老人ホームなどの福祉施設が少ないこと」の26.6%となっています。



<その他の回答>

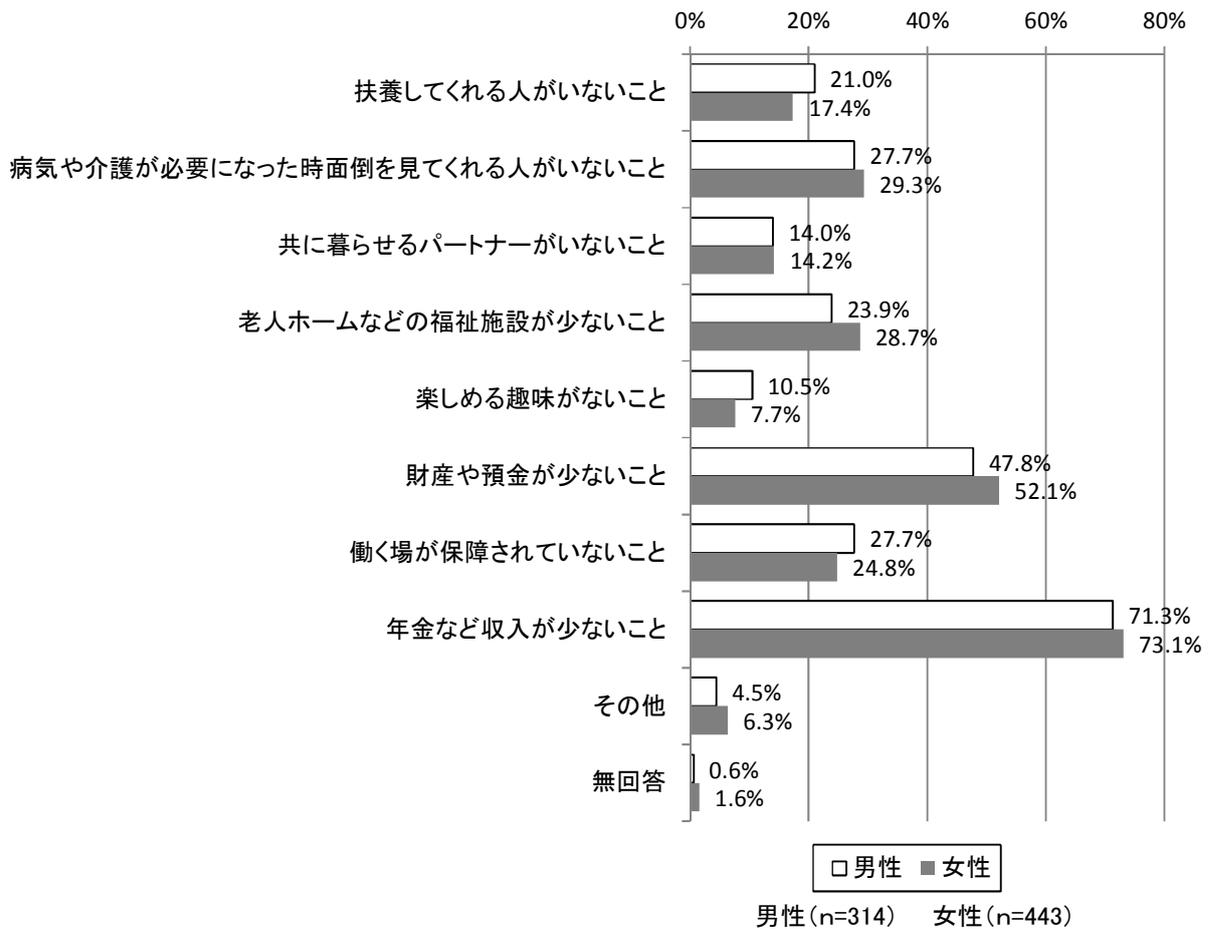
- 不安を感じていない。
- 病気、けがなどで体が不自由になってしまう事への(なった時の)不安や心配。
- 病気や介護が必要になった時、最低額年金で入所できる福祉施設が欲しいです。
- 健康。
- 主として経済的な事だと思います。
- 子供に迷惑をかけたくない。
- 低価格な施設が少ないのでは？
- 老後元気に暮らせない病院に長くなると家庭もやって行けなくなる。施設も少なく、2年以上長くなると、本人も〇まるので何とか届けを出して楽に成った方がよいと友達も言っている。

- 国民年金をずっとかけていたのですが、あまりに少ししかもらえないのでびっくり。年金制度を考え直してもらいたいです。これからの人の為にも。
- 緊急の時に良い医師、医療施設が近くにない。
- 通院するための交通手段が不便なので自家用車に頼るしかないこと。
- 自分と妻の両親の介護、老老介護。
- 子供がいても子供に面倒は見てもらえない。
- 車の運転が出来なくなった時の交通手段、また、買い物した時の重い荷物の運搬など。
- 病気。
- 老後の心配する人は、余裕がある人です。今の情勢が辛いですから。
- 子供が1人だけなのでその子に負担がいく。
- その時になってみないと考えられない。
- 子供に世話に成る事が出来にくい。
- 高齢者でも働く場所の確保。
- 不安はない。
- まだ、具体的に考えていない。
- 医療制度に対する不安。3ヶ月での転院はなぜ？
- 体が動けるか。
- 雪かき等労働力不足。
- 長生きをしたくない。
- 後継者がいない事。
- 死後の処理をどうするか。
- 健康面の維持。
- サポート体制が非常に悪そう。
- 今は自分の好きな事をやっていて不安はない。
- 公的な福祉施設が少なすぎる。もっと積極的に作ってほしい。
- 特に不安は感じない。
- 子供達は皆、県外で住み働いている事。
- 健康面。
- 老人ホームなどの施設、料金が安い。
- あまりまだ感じない。

問9. 老後の生活の不安 (男女別)

男女の回答に大きな差はありませんが、中でも男性より女性の回答が高いものは「老人ホームなどの福祉施設が少ないこと」や「財産や預金が少ないこと」となっています。

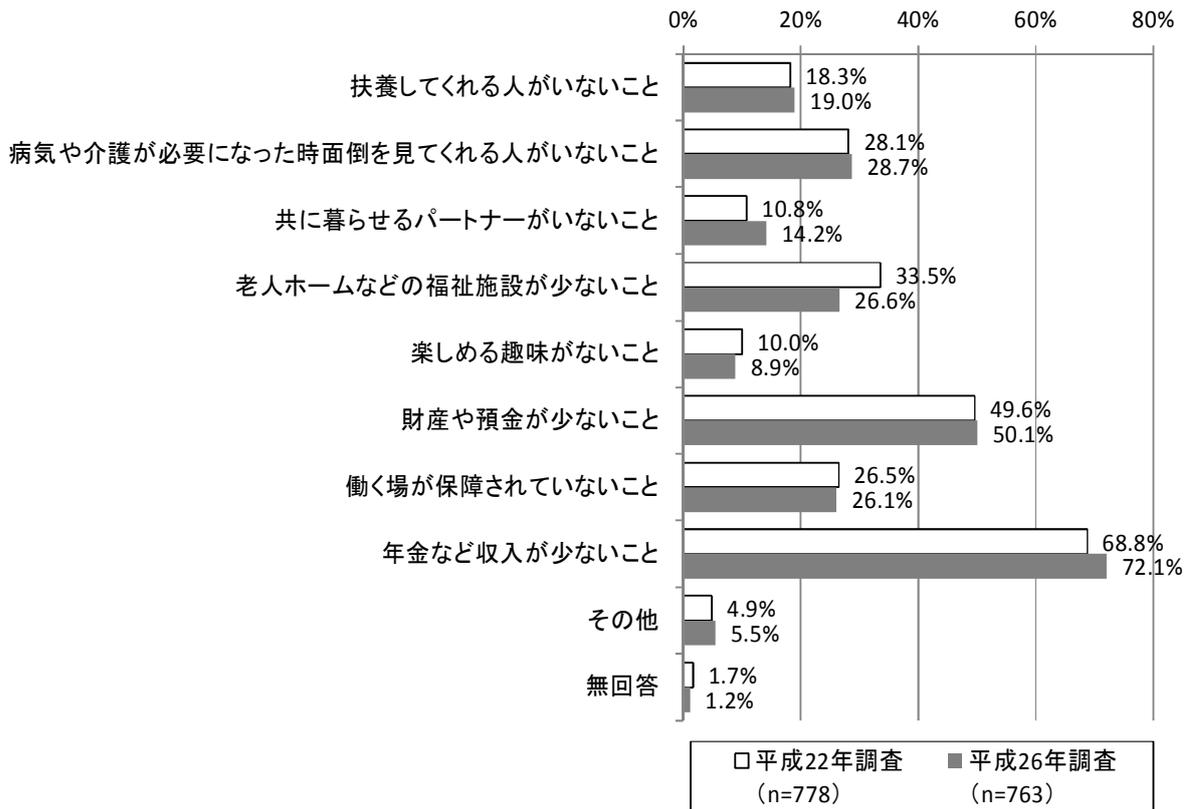
また、女性より男性の回答が高いものは、「扶養してくれる人がいないこと」や「楽しめる趣味がないこと」となっています。



問9. 老後の生活の不安 (前回調査との比較)

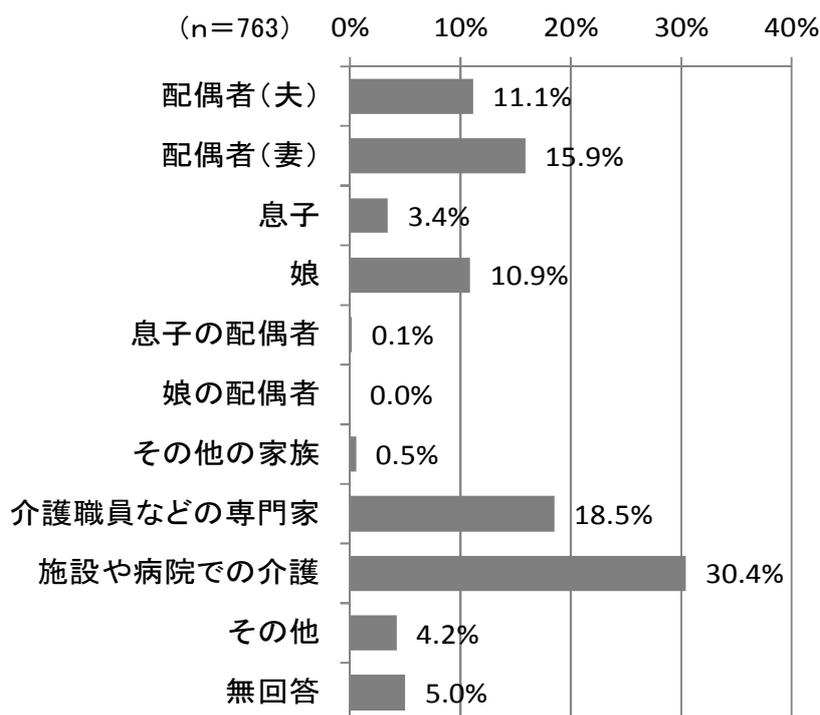
前回調査より回答の割合が高くなっている項目は、「共に暮らせるパートナーがいないこと」が3.4ポイント、「年金などの収入が少ないこと」が3.3ポイント高くなっています。

また、回答割合が低くなっている項目は、「老人ホームなどの福祉施設が少ないこと」が6.9ポイント低くなっています。



問10. 国民生活基礎調査では、介護者の68.7%（平成26年7月厚生労働省発表）が女性という実態が示されています。あなたは、介護が必要になった場合、誰に介護をしてもらいたいと思いますか。（1つだけに○）

「施設や病院での介護」と回答した方が30.4%と最も多くなっており、続いては、「介護職員などの専門家」の18.5%、「配偶者（妻）」の15.9%となっています。



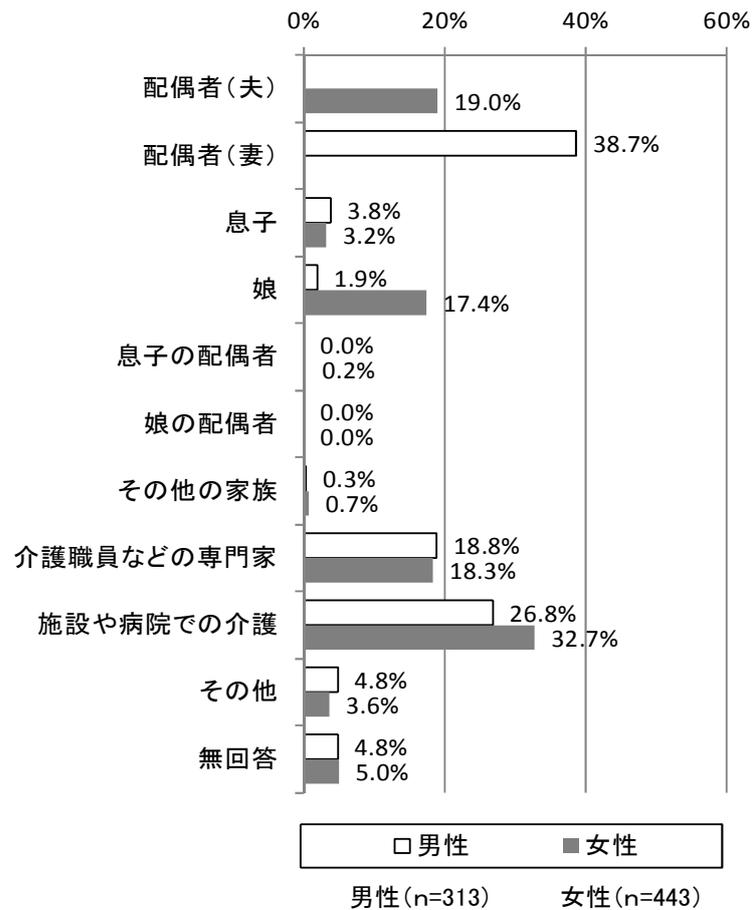
<その他の回答>

- 介護してくれる人もいない、施設に入る金もない(のたれ死に)。
- 多分見てくれるとは思いません。
- おばすて山。
- 4と8のミックス。
- 自分の子供なら息子でも娘でもどちらでもよい。
- 誰でも。
- 介護されたくない。
- 妹。
- 頼める人がいません。
- 施設で15万です。1年でやって行けません。年金は6万ですのでとても困りました。
- 老人施設。

- 働いている子供たちには頼む事が難しいと思います。
- 自分で死にます。
- 妹、姪。
- 誰でもよい。
- 妻、子供で分担。
- 姪。
- 家ぞくや介護職員関係なく、心の良い人。
- できるならばだれにもめいわくをかけたくない。
- その時の状況に応じて。
- 介護されるような生き方、年の取り方をしたくない。
- 独身なのでイメージ出来ない。
- 思い浮かばない。
- 介護されずになんとかなりたい。
- 考えられない。
- 友人。

問10. 介護してもらいたい方（男女別）

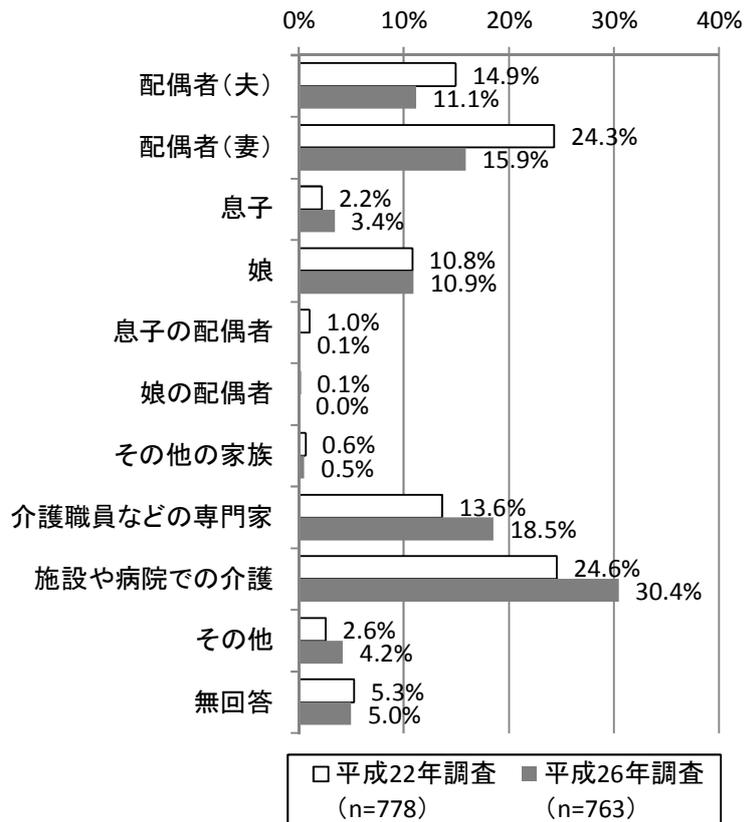
男性より女性の回答が高いものは「娘」が15.5ポイント高くなっています。
 また、女性より男性の回答が高いものは、「配偶者（妻）」が19.7ポイント高くなっています。



問10. 介護してもらいたい方（前回調査との比較）

前回調査より回答の割合が高くなっている項目は、「施設や病院での介護」が5.8ポイント、「介護職員などの専門家」が4.9ポイント高くなっています。

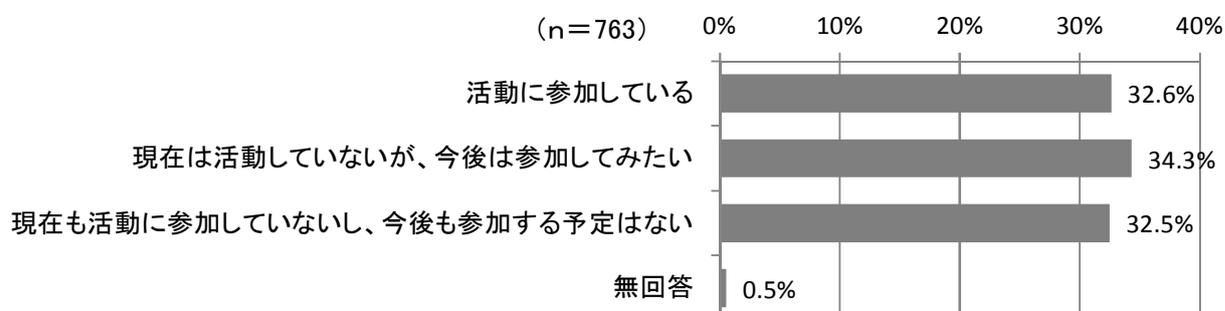
また、回答割合が低くなっている項目は、「配偶者（妻）」が8.4ポイント、「配偶者（夫）」が3.8ポイント低くなっています。



5. 社会活動・地域活動について

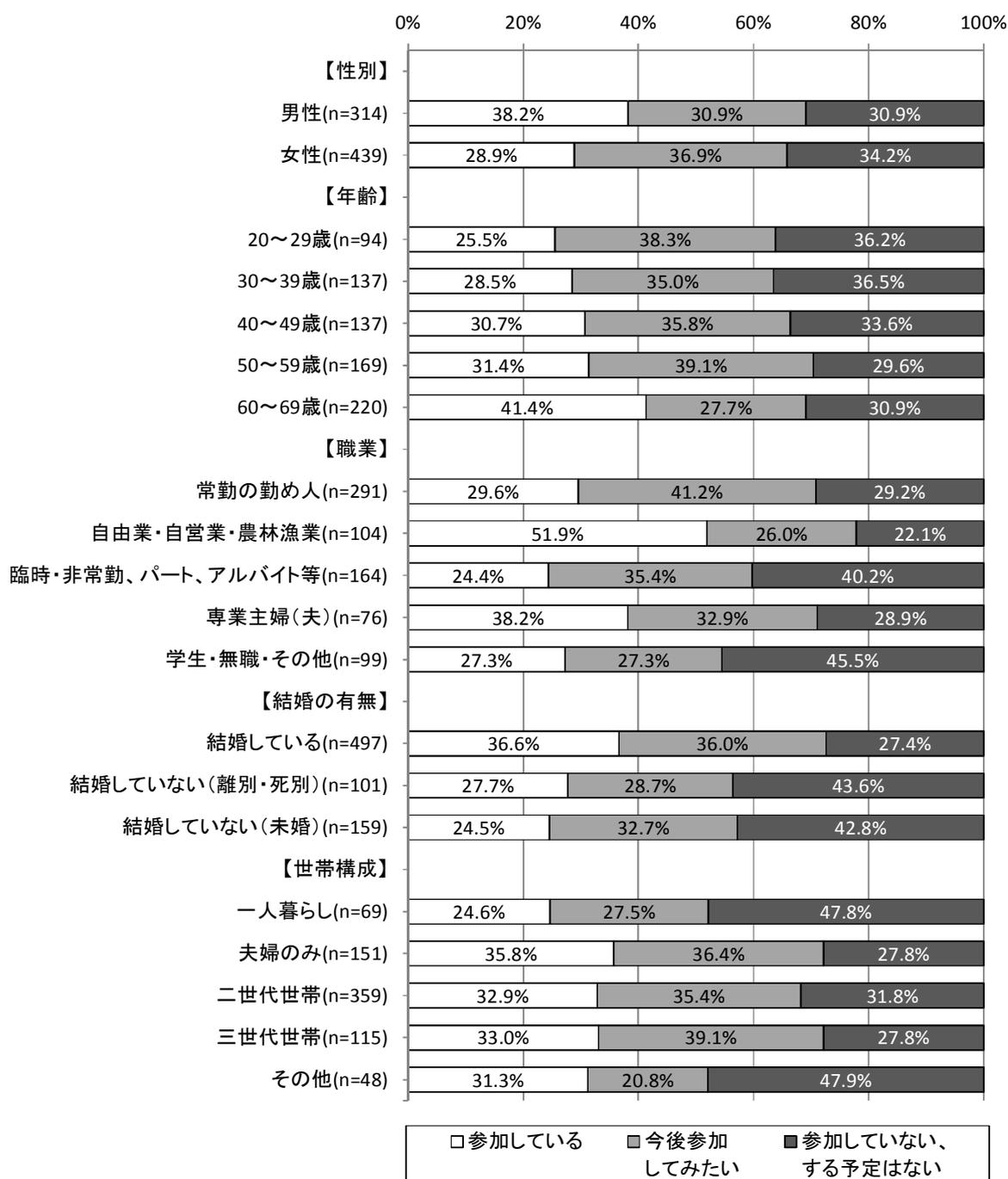
問11. あなたは、現在、家庭の外で何か活動に参加していますか。また、今後してみたいと思いますか。例えば、スポーツ・サークル活動、ボランティア活動、地域の活動など。(1つだけに○)

「現在は活動していないが、今後は参加してみたい」と回答した方が34.3%と多くなり、続いては、「活動に参加している」の32.6%、「現在も活動に参加していないし、今後参加する予定はない」の32.5%となっています。現在活動している方、今後参加してみたい方を合わせると7割弱で3人に2人は参加意思がある回答となっています。



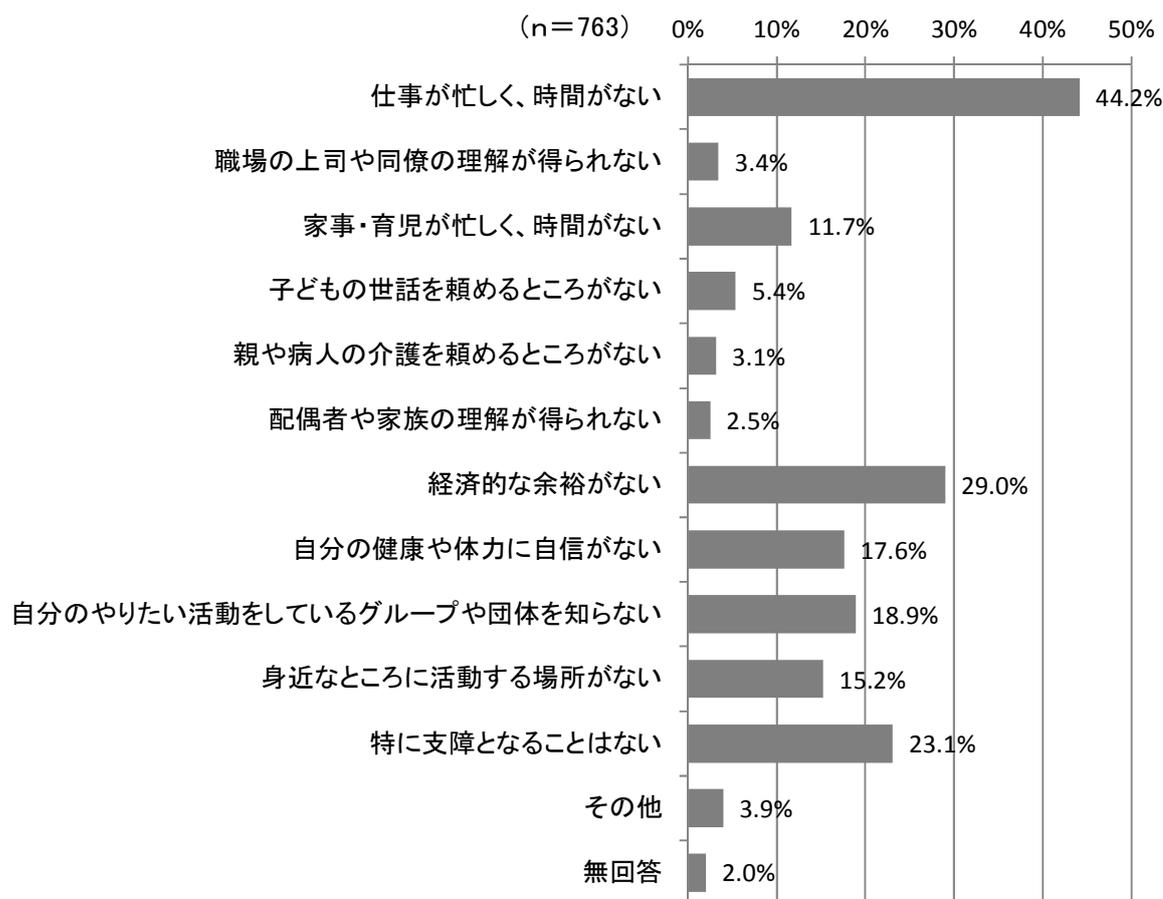
問 11. 現在、家庭の外で何か活動に参加もしくは参加の意向について (属性別)

現在、家庭の外で何か活動に参加もしくは参加の意向については、女性より男性の方が「参加している」割合が高くなっています。また、年齢が上がるにしたがって「参加している」割合が高くなっています。さらに、職業では「自営業・自由業・農林漁業」で「参加している」割合が高くなっています。



問12. あなたが社会活動・地域活動に参加しようとする際に支障になっていることは何ですか。(〇はいくつでも)

「仕事が忙しく、時間がない」と回答した方が44.2%と最も多くなっており、続いては、「経済的な余裕がない」の29.0%となっています。また、「特に支障となることはない」と回答した方は23.1%となっています。



<その他の回答>

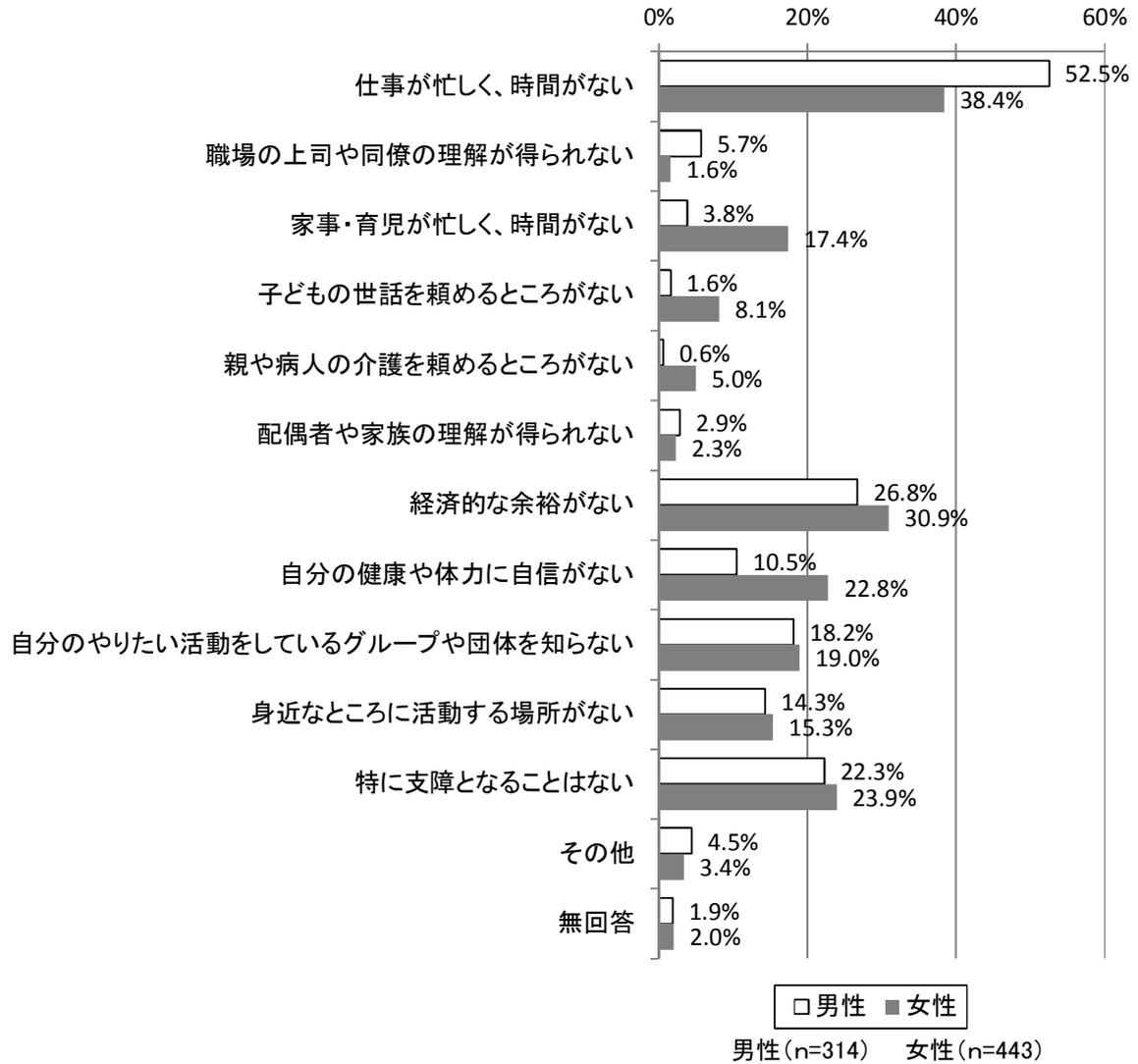
- 年とともに人付き合いが面倒になった。
- 何をするのにもお金がかかります。
- 妻が介護認定5になっているのを自宅で一人で介護していること。
- 現在親の介護が必要な時だから。
- 職場を辞めたらやろうと思う。
- 官民共に「国家意識」が欠如しているため。
- 一緒に参加してくれる友達がいない。一人では参加しづらい。

- 精神が病んでいてリハビリ中だから。
- 年齢的なことのみ。
- 社会活動、地域活動に参加する気がない。
- 子供を連れて参加したいと思っても、おむつを替えるところや授乳室など、必要と思える設備がないところが沼田市は多いです。
- 他人との関わりに自信がない。疲れる。
- 地域の活動にはあまり参加していない。
- 地域の活動に参加した事はありません。
- 引越してきて、輪に入れない、入りづらい。
- 地域で男女の参加方法の違いはあるが不満はない。
- 特に不満な事はありません。
- 参加できていないのでわからない。
- 地域の代表は男性世帯主。
- 地域の団体に興味はない。
- 地域活動に参加する事があまりないのでよくわかりません。
- 女性が活動に出てこない。
- 地域活動が何をしているか自体知らない。
- 地域の活動に参加したことがないためわかりません。
- いまだに地域のことは両親にまかせきりなので知らない。
- 会長男性、副会長女性のことが多い。女性会長はあまりない。
- 地域活動にあまり参加出来ていないためわかりません。
- 1年しか住んでいないのでわからない。

問 1 2 . 社会活動・地域活動に参加しようとする際に支障になっていること (男女別)

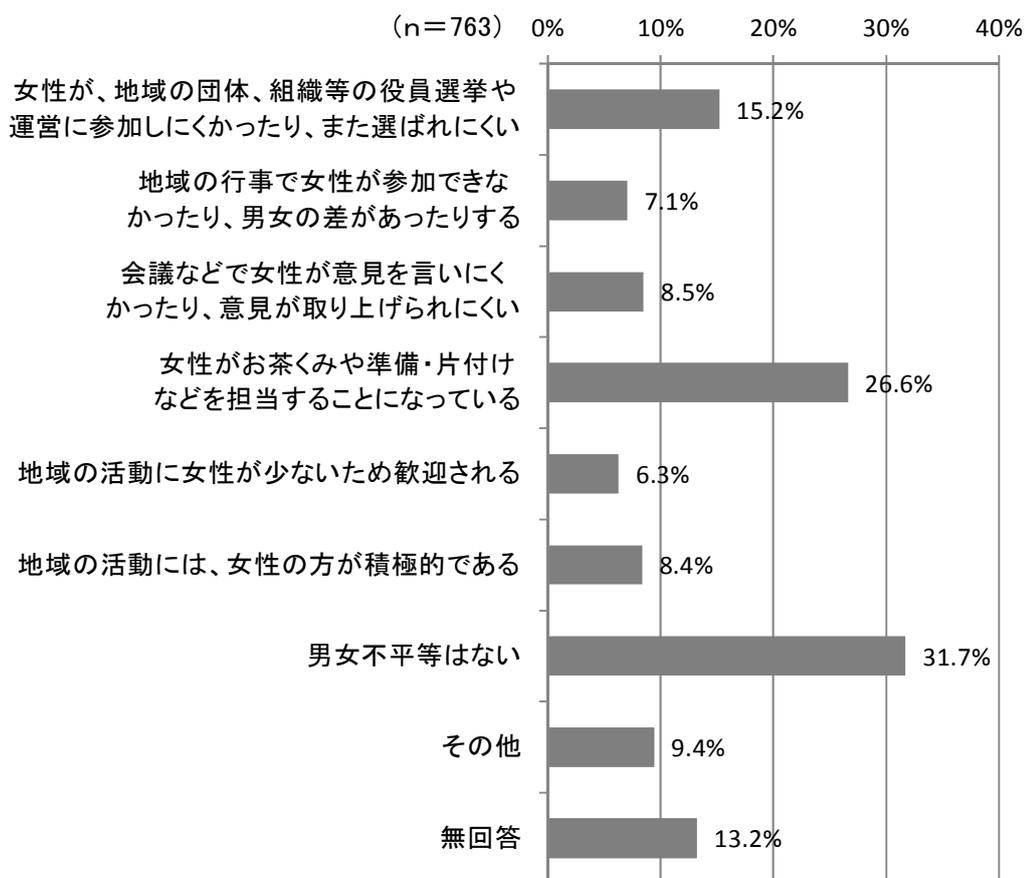
男性より女性の回答が高いものは「家事・育児が忙しく時間がない」が 13.6 ポイント、「自分の健康や体力に自信がない」が 12.3 ポイント高くなっています。

また、女性より男性の回答が高いものは、「仕事が忙しく、時間がない」が 14.1 ポイント高くなっています。



**問13. あなたが住んでいる地域において、次のようなことがありますか。
(〇はいくつでも)**

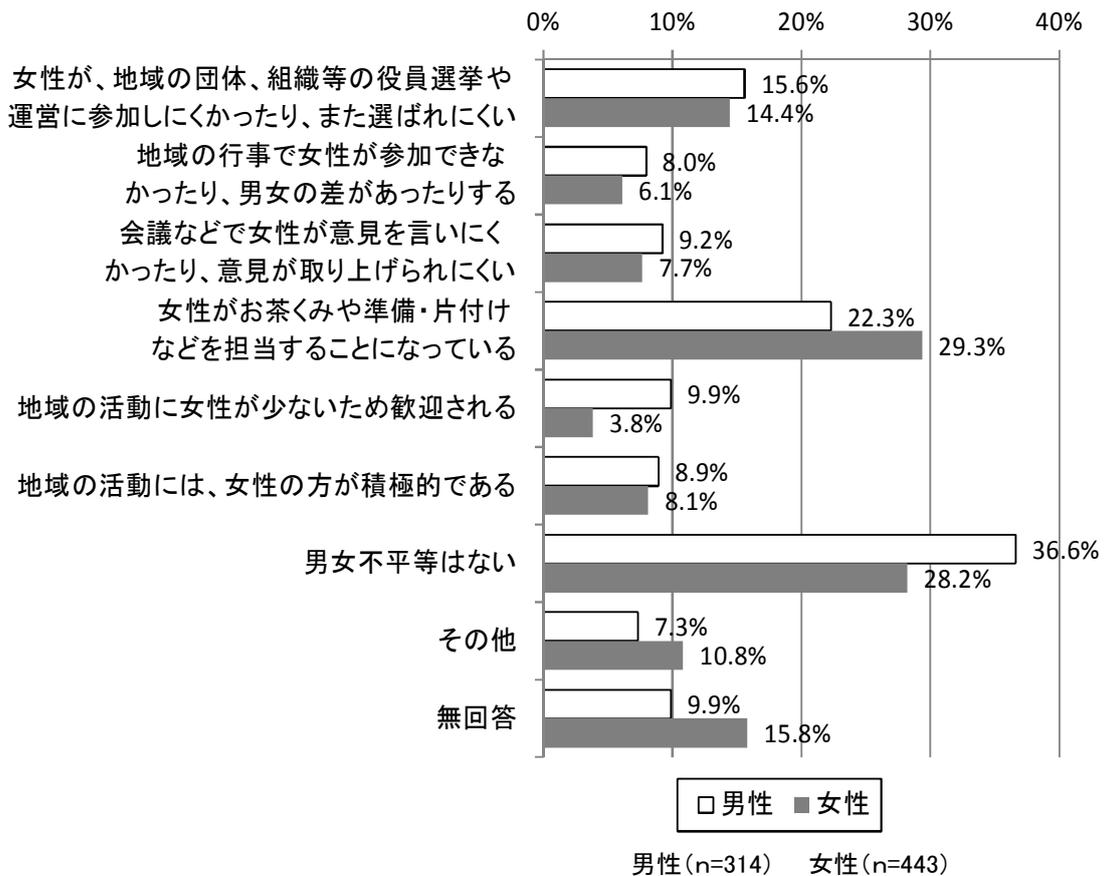
「男女不平等はない」と回答した方が31.7%と最も多くなっており、約3割の方が男女不平等はないと回答しています。続いては、「女性がお茶くみや準備・片付けなどを担当することになっている」の26.6%、「女性が、地域の団体、組織等の役員選挙や運営に参加しにくかったり、また選ばれにくい」の15.2%となっています。



問13. 住んでいる地域の実情 (男女別)

男女の回答に差のあるものは、「女性がお茶くみや準備・片付けなどを担当することになっている」で男性よりも女性の方が7.0ポイント高い回答となっています。

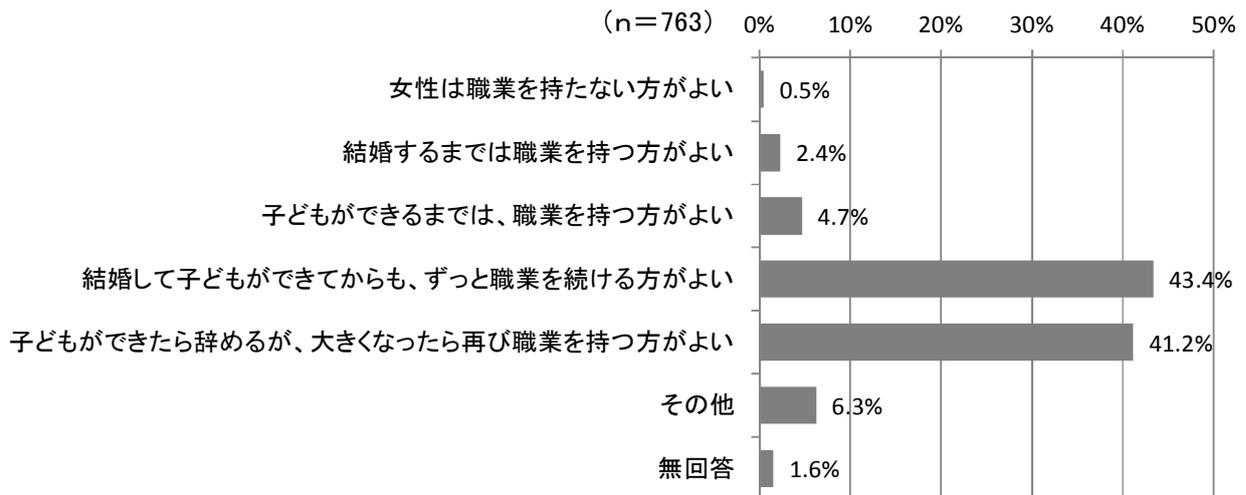
また、女性よりも男性の方が高い回答となっているものは、「男女不平等はない」が8.4ポイント、「地域の活動に女性が少ないため歓迎される」が6.1ポイントとなっています。



6. 就労について

問14. あなたは、一般的に女性が職業を持つことについて、どう考えますか。
(1つだけに○)

「結婚して子どもができてからも、ずっと職業を続ける方がよい」の43.4%と最も多くなっており、続いては、「子どもができたなら辞めるが、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」と回答した方が41.2%となっています。

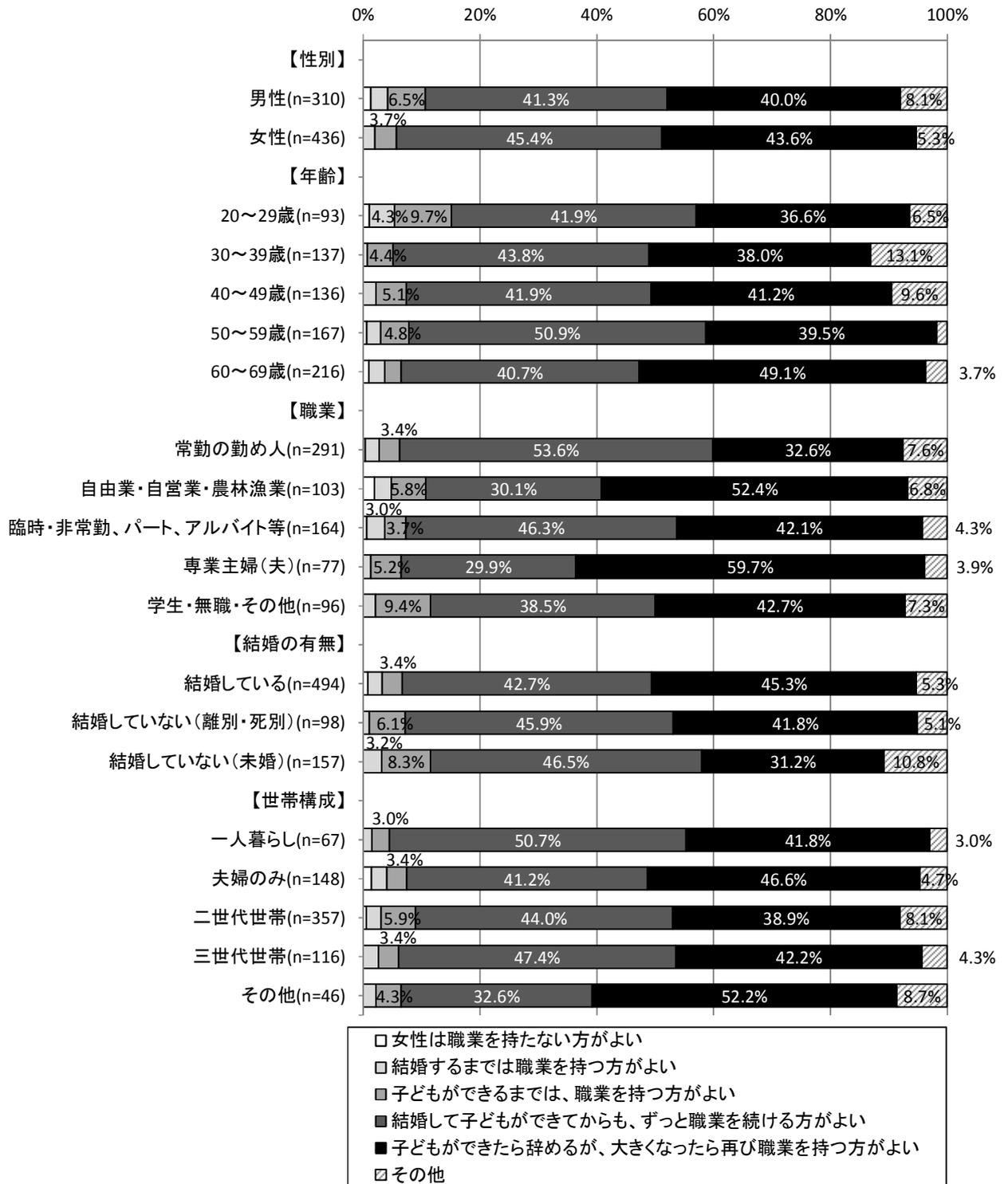


<その他の回答>

- 性差ではなく個々人で考えるべき。
- 育児の場の有無、互いの収入や職の環境によって話し合っ決めて決めるのがよい。
- 人が働くのは当たり前だ。女性とか男性とかの性差でとらえるのはいかなものか。
- 本人の意志と環境。
- 各自の環境によると思います。
- じゃないと男女平等はあり得ない。今の時代じゃ無理です。
- 男女問わず人による。
- したければ仕事をすればよい。
- 女性の自由意思で良い（個々の）。
- その場かその時の状況でいいと思う。
- サポートがあるなら、4。
- 個人個人が好きにすればいい。
- 各々の家庭の事情により、一口では言えない。決められない。
- 女性の希望通りにするのがよい。
- ケースバイケースなので「～がよい」という考えは持っていない。
- 個人の意見を尊重すべきだと思う。（女性が社会に出ることには賛成）
- 男女区別はない。
- できる範囲(パート)でも何か仕事をした方がよいと思う。

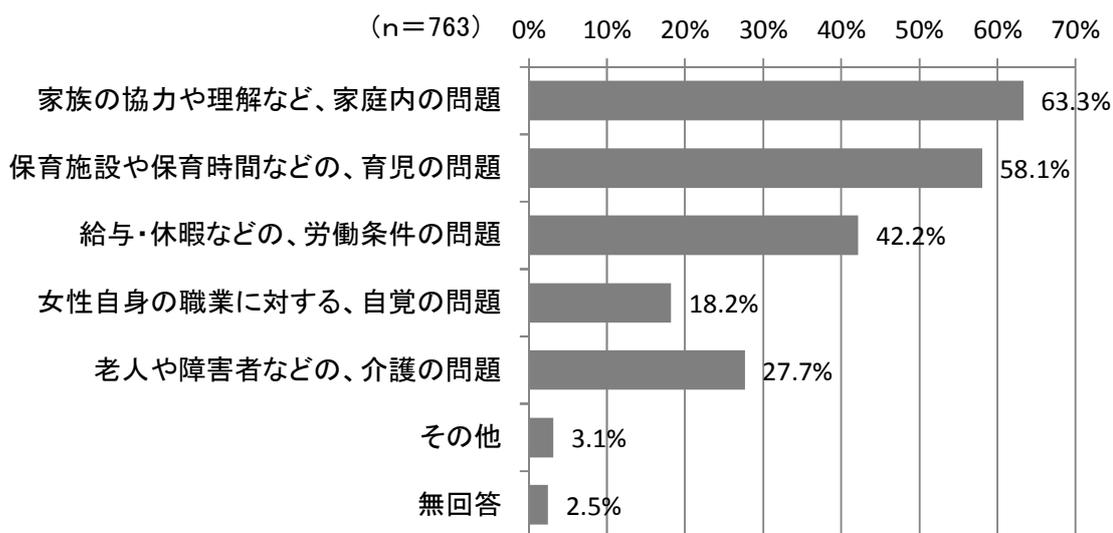
問14. 一般的に女性が職業を持つことについて (属性別)

一般的に女性が職業を持つことについては、年代で「50～59歳」で「結婚して子どもができてからも、ずっと職業を続ける方がよい」の割合が高くなっています。



**問15. あなたは、女性が仕事をしていると、どのような問題があると思いますか。
(〇はいくつでも)**

「家庭の協力や理解など、家庭内の問題」が63.3%と最も多く6割以上の方が回答しています。続いては、「保育施設や保育時間などの、育児の問題」の58.1%、「給与・休暇などの、労働条件の問題」の42.2%となっています。

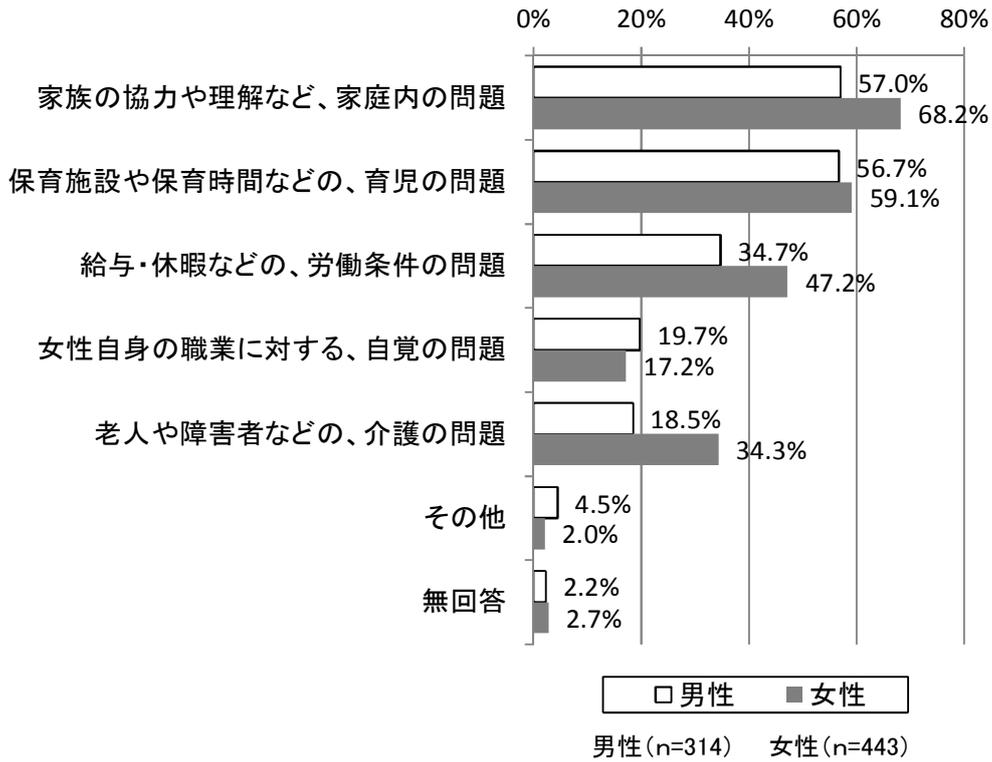


<その他の回答>

- どこにでも居ると思いますが、女性のやっかみやいじめが有るので辛抱が必要。働くのは家計を少しでも楽にと同じなのに・・・特に女性は大変ですね。
- 子育てを人まかせにすることが多くなり、せつかくの子育ての機会を楽しめなくなってしまふ。
- 育児は流れ作業ではありません。生んだ親が愛情を注いでやるべき(育て上げる事)女性が仕事を持てば、子供が戦争の中で育つような物だと思う。
- 女性は仕事をしない方が良い家事が充分に出きる。
- 今のままではどれも女性の負担が大きいようです。
- 自分の健康(体力、気力)。
- その場にたたないと分からない。
- 「女性が仕事をすると問題が発生する」のであればそれは男女差別なのでは？

問15. 女性が仕事することの問題点 (男女別)

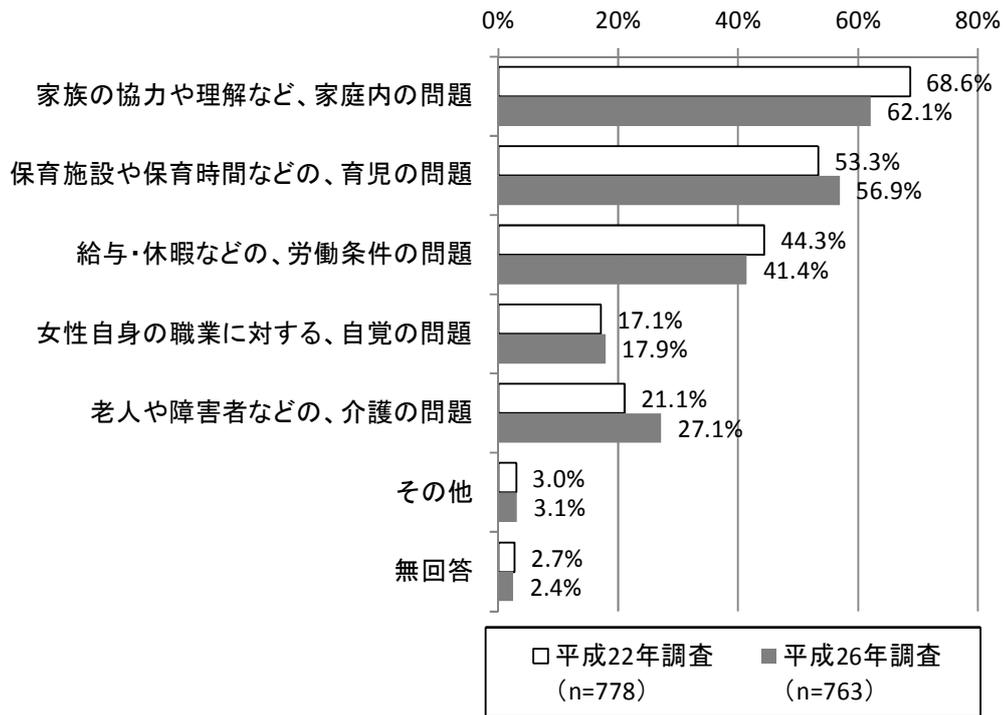
男女の回答に差のあるものは、「老人や障害者などの、介護の問題」で男性よりも女性の方が15.8ポイント高い回答となっています。同様に「給与・休暇などの、労働条件の問題」で12.5ポイント、「家族の協力や理解など、家庭内の問題」で11.2ポイント男性よりも女性の方が高くなっています。



問15. 女性が仕事することの問題点 (前回調査との比較)

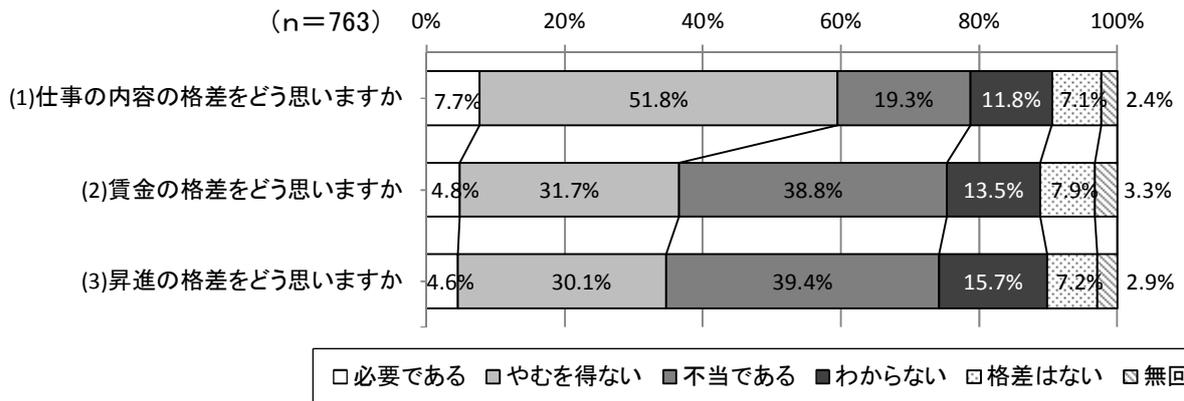
前回調査より回答の割合が高くなっている項目は、「老人や障害者などの、介護の問題」が6.0ポイント高くなっています。

また、回答の割合が低くなっている項目は、「家族の協力や理解など、家庭内の問題」が6.5ポイント低くなっています。



問16. あなたは、仕事の上で一般的に男性と女性が異なる立場に置かれていることについて、どう思いますか。(それぞれ1つに○)

仕事の内容格差は、「やむを得ない」の回答が 51.8%で約半数の回答となっています。また、賃金の格差と昇進の格差では、ともに「不当である」と回答した方が約4割で多くなっています。

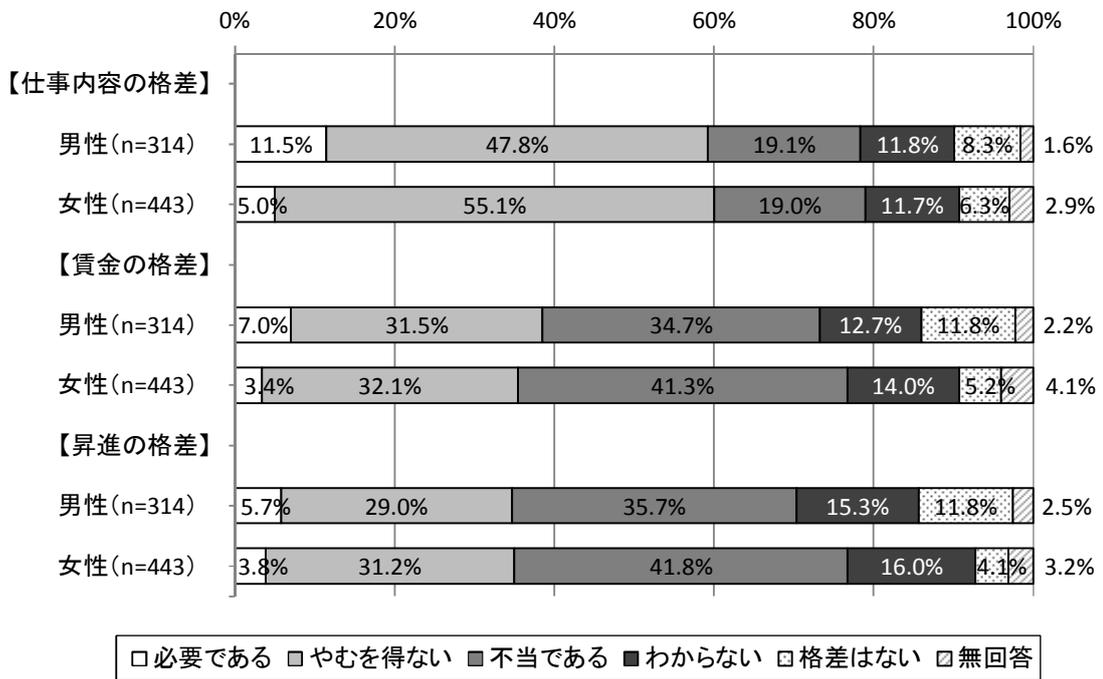


問16. 仕事上の男女の立場 (男女別)

男女の回答に差のあるものは、【仕事内容の格差】で「必要である」が女性より男性の回答が高く、「やむを得ない」が男性よりも女性の回答が高くなっています。

【賃金の格差】では、「必要である」が女性より男性の回答が高く、「不当である」が男性よりも女性の回答が高くなっています。

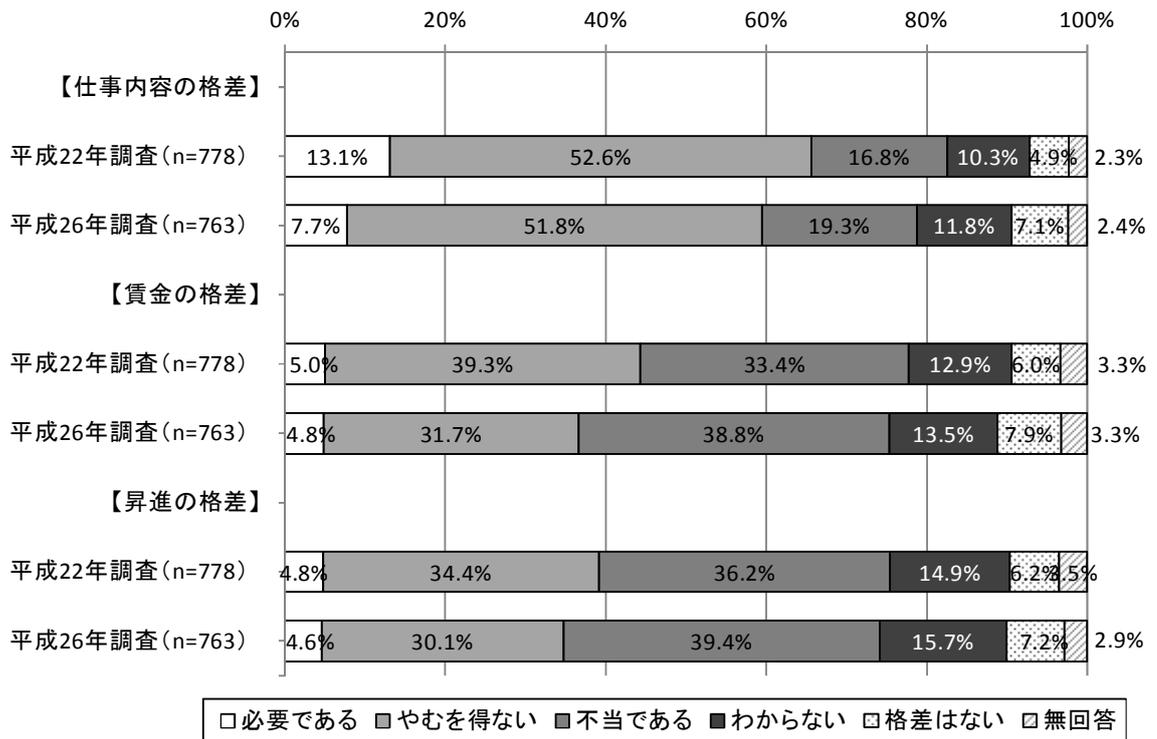
【昇給の格差】では、「格差はない」が女性より男性の回答が高く、「不当である」が男性よりも女性の回答が高くなっています。



問16. 仕事上の男女の立場 (前回調査との比較)

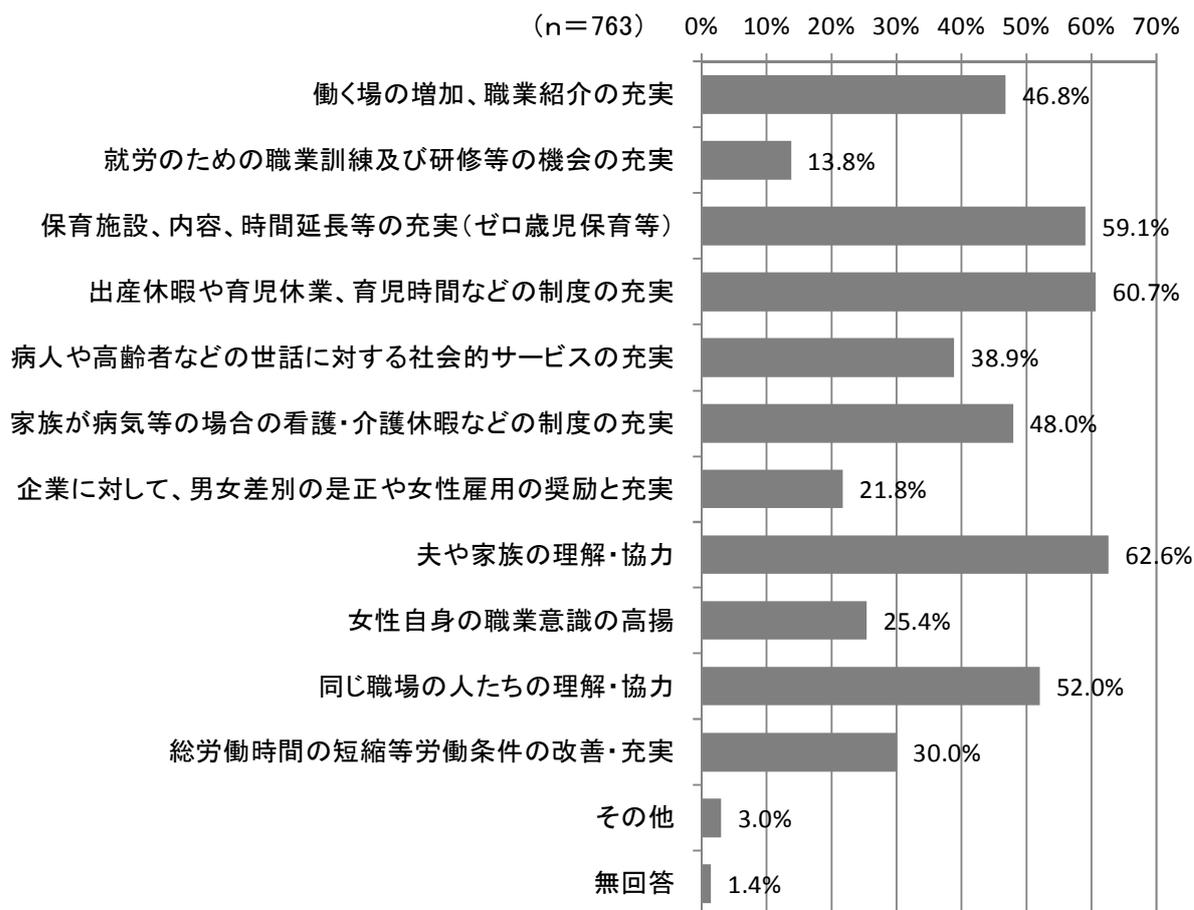
前回調査より【仕事内容の格差】で「必要である」の割合が低く、「不当である」の割合が高くなっています。

【賃金の格差」と【昇給の格差】では、「やむを得ない」の割合が低く、「不当である」の割合が高くなっています。



**問17. あなたは、女性が働き続けるために特に必要なことは何だと思いますか。
(〇はいくつでも)**

「夫や家族の理解・協力」と回答した方が 62.6%と最も多くなっており、続いては、「出産休暇や育児休業、保育時間などの制度の充実」の 60.7%、「保育施設、内容、時間延長の充実（ゼロ歳児保育等）」の 59.1%となっており、この3項目が約6割の回答となっています。



<その他の回答>

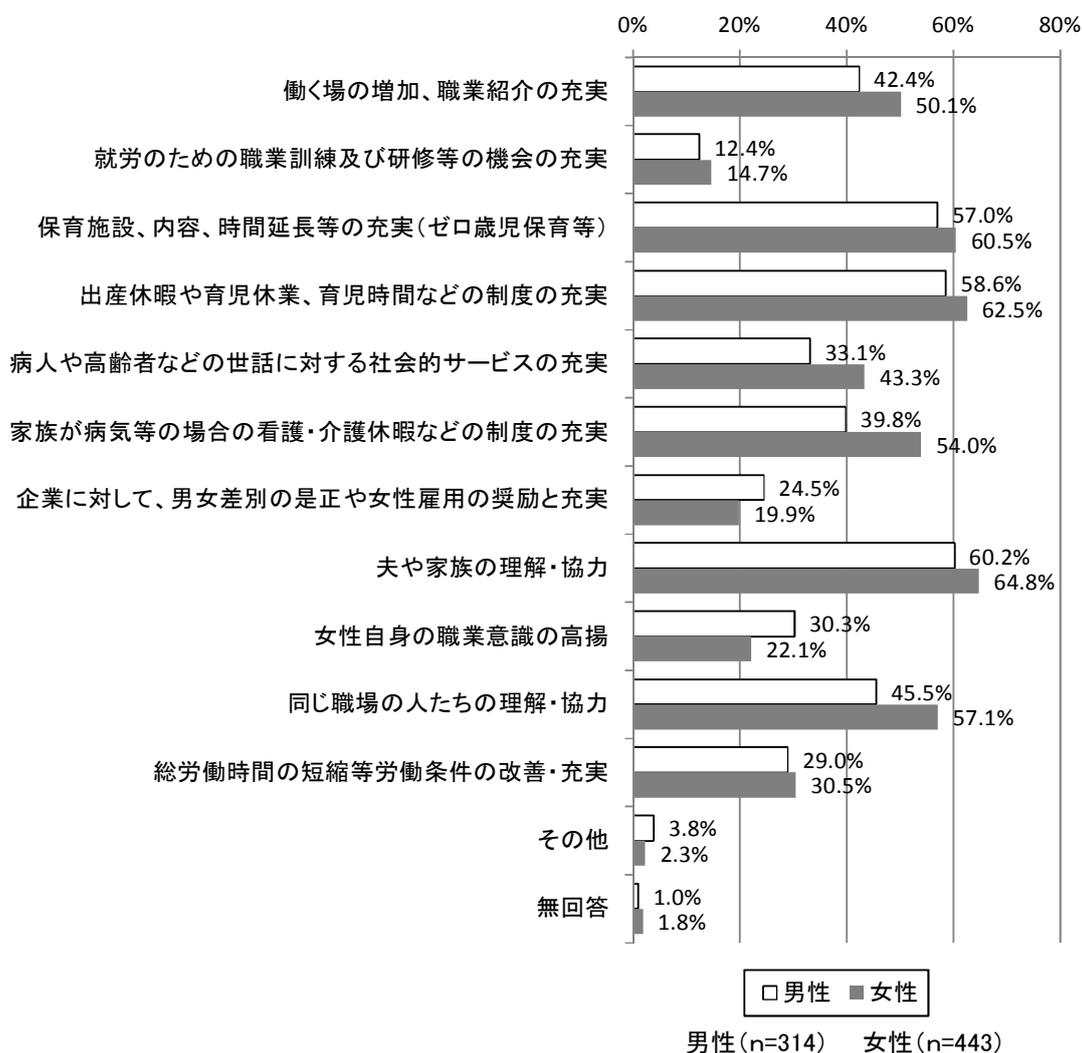
- 夫の両親の理解と育児の協力。
- 女性にこだわらず生涯働ける環境を作るべき。
- 女性の一番の仕事は家庭を守り子供の教育しつけなど、産まれてから巣立ちするまでの間たくさん愛情をもって育てることだと思うので、妻の立場、母の立場であることが一番大切だと思います。その上で仕事をするので、その優先順位が保たれる仕事につくことが望ましいと思います。それ故仕事。賃金・昇進の格差はやむを得ないと思います。
- すべて男性にもあてはまります。男性も家庭(自分の生活)が大切だという意識が低すぎます。仕事は大切ですが、仕事人間になりすぎないように男女が力を合わせて家庭を作っていくという思いを強くしないと難しいのでしょうか。

- 職業に貴賤がある事を周知すべき。
- 意識が高いのは一部の女性だけ。
- 正社員での求人。
- 育児で休みがちになる事に対する会社の理解。
- 女性が外で働き、男性の職がなくなる。子供を産めるのは女性だけ、にもかかわらず女性を外で働かせ、充実感を得させようとする社会。20代～30代前半で仕事に充実感があるうちは、子供など産む選択などしないものです。仕事に虚しさを感じる頃には、妊娠のタイムリミットも近付き、焦っても遅い。「働き続ける」とあるが、女性を外で働かせて、どういう結果につながったのか、昔と比べて考えてほしいです。
- 国レベルで女性の社会進出を支援し、男女平等が人間の基本であることをしっかりと教育すること。
- 特に育児時間と同様に介護時間なども充実されるとよい。
- 働き続ける必要はない。

問17. 女性が働き続けるために必要なこと (男女別)

男女の回答に差のあるものは、「家族が病気等の場合の看護・介護休暇などの制度の充実」で男性よりも女性の方が14.2ポイント高い回答となっています。同様に「同じ職場の人たちの理解・協力」で11.6ポイント、「病人や高齢者などの世話に対する社会的サービスの充実」で10.2ポイント男性よりも女性の方が高くなっています。

また、女性より男性が高い回答は、「女性自身の職業意識の高揚」で8.2ポイント高くなっています。



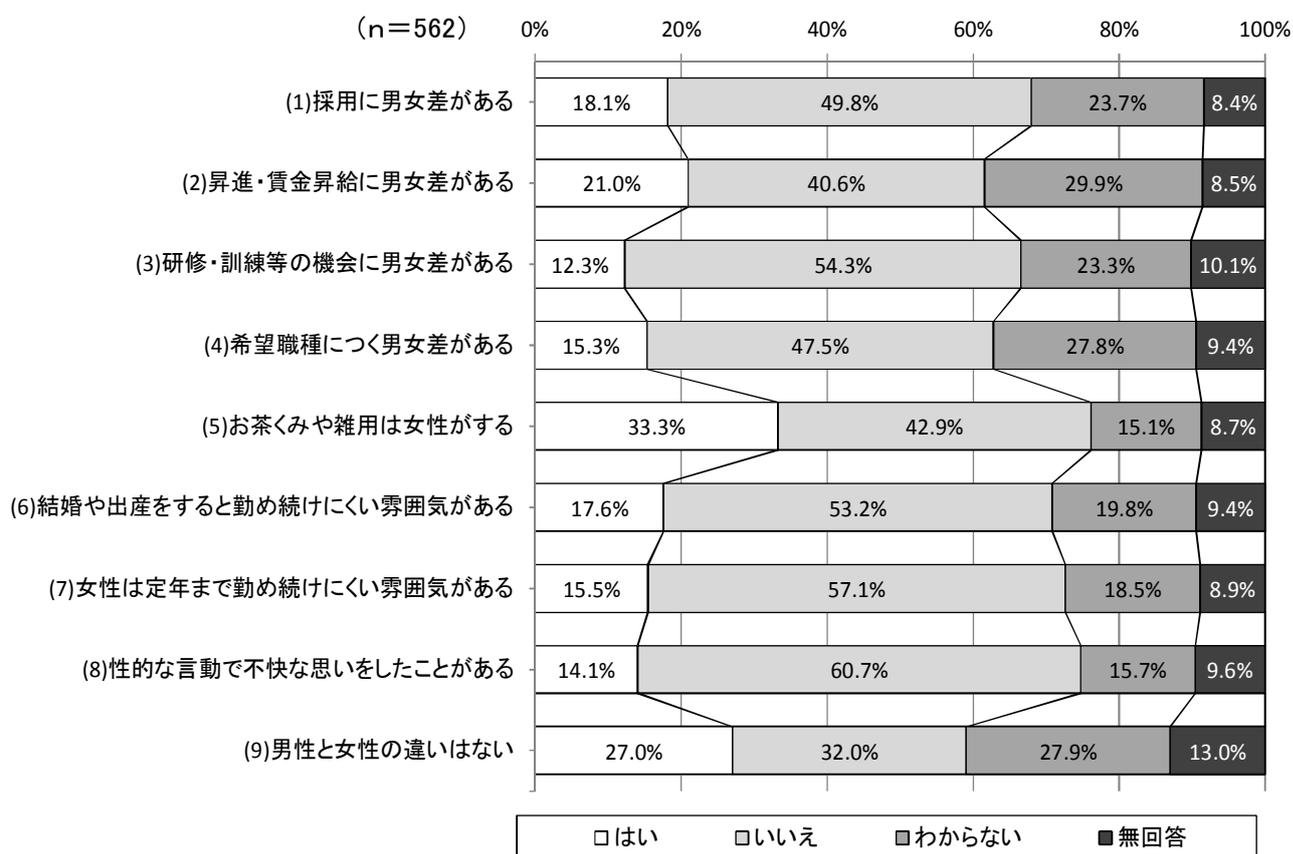
問18. 【現在、働いている方に伺います】

あなたの職場では、次のようなことがありますか（それぞれ1つに○）

「はい」という回答が多い項目としては、「お茶くみや雑用は女性がする」が33.3%と最も多く、続いて「昇進・賃金昇給に男女差がある」の21.0%、「採用に男女差がある」の18.1%となっています。

一方、「いいえ」という回答が多い項目は、「性的な言動で不快な思いをしたことがある」が60.7%と最も多く、続いて「女性は定年まで勤め続けにくい雰囲気がある」の57.1%、「研修・訓練等の機会に男女差がある」の54.3%、「結婚や出産をすると勤め続けにくい雰囲気がある」の53.2%となっています。

また、「男性と女性の違いはない」の項目では、「はい」が27.0%、「いいえ」が32.0%となっています。



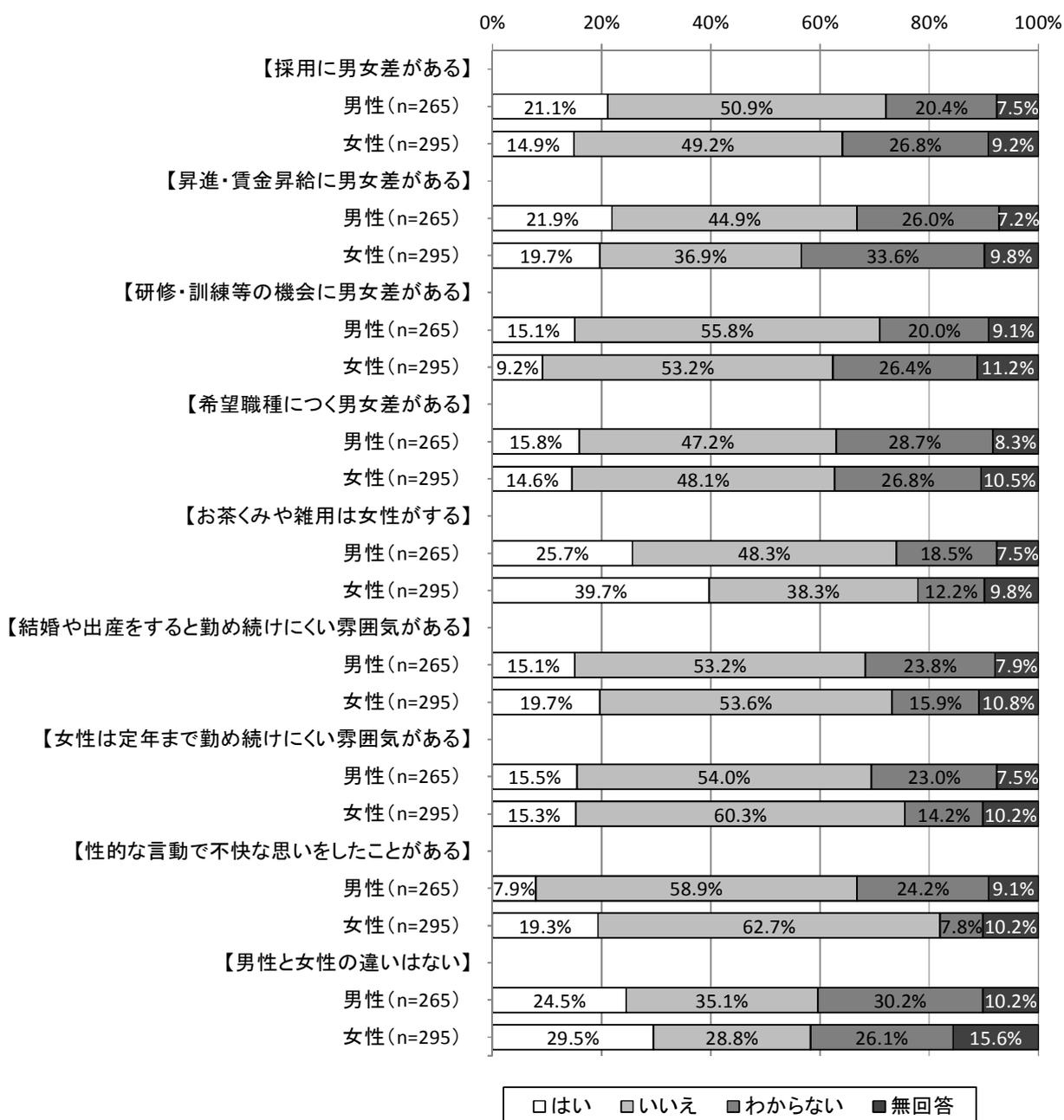
<その他の回答>

- 農業なので職場のことはわからない。
- 業務内容で逆差別があり、女性がシフトに入らない割りに男性職員の採用数が少ない。
- パート、パートの連続ですのできちっとした事がわかりません。
- 無識であり答えようがない。
- 長時間労働があるので育児していると勤務するのが難しそう。
- 人（能力）を見る。
- 体力面の違いを、男女差にするのは、まちがいだと（時間外労働をする、しないの差別は？）
思う。
- 意見が分かると女の意見を必ず取る。
- 重い物を扱う作業は、どうしても男性になる。
- 仕事ができないのに男というだけで給与が高いのが不満。

問18. あなたの職場の状況 (男女別)

男女の回答に差のあるものは、【お茶くみや雑用は女性がする】で男性よりも女性の方が「はい」と回答している割合が14.0ポイント高くなっています。同様に【性的な言動で不快な思いをしたことがある】でも「はい」が11.4ポイント男性よりも女性の方が高くなっています。

また、女性より男性の「はい」が高い回答は、【採用に男女差がある】や【研修・訓練等の機会に男女差がある】となっています。

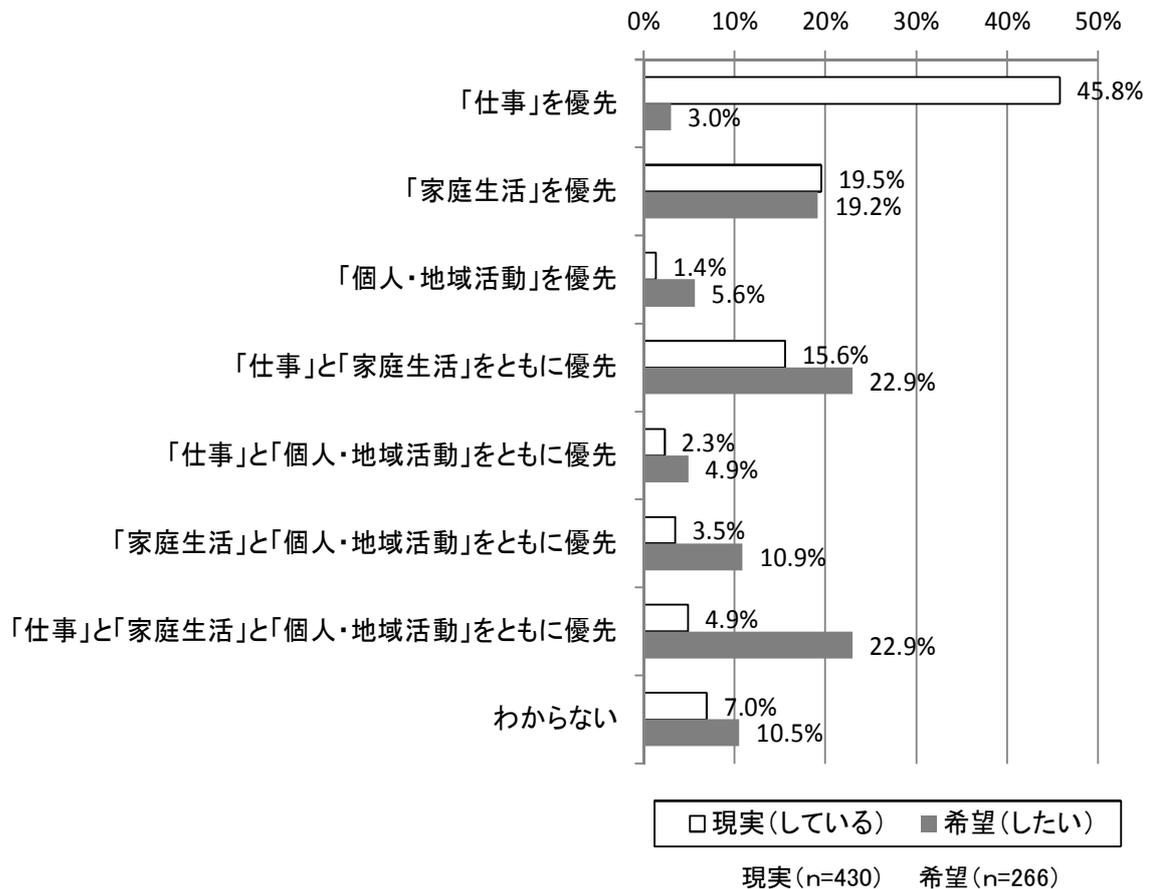


問19. 生活の中で、「家庭生活」、「仕事」、「個人・地域活動（趣味・町内会の活動・ボランティア活動など）」の優先度について、あなたの現実と希望に最も近いものを選んでください。（現実と希望の「1～8」それぞれについて1つだけに○）

現実では、『「仕事」を優先』と回答した方が45.8%と最も多くなっており、続いては、『「家庭生活」を優先』の19.5%、『「仕事」と「家庭生活」をともに優先』の15.6%となっています。

また、希望では、『「仕事」と「家庭生活」をともに優先』、『「仕事」と「家庭生活」と「個人・地域活動」をともに優先』と回答した方が同数の22.9%と多くなっており、続いては、『「家庭生活」を優先』の19.2%となっています。

現実と希望の差が大きいものについては、現実には『「仕事」を優先』してしまうが、希望はほとんどない回答となっています。一方で、『「仕事」と「家庭生活」と「個人・地域活動」をともに優先』では、現実には少ないですが、希望の割合が高くなっています。

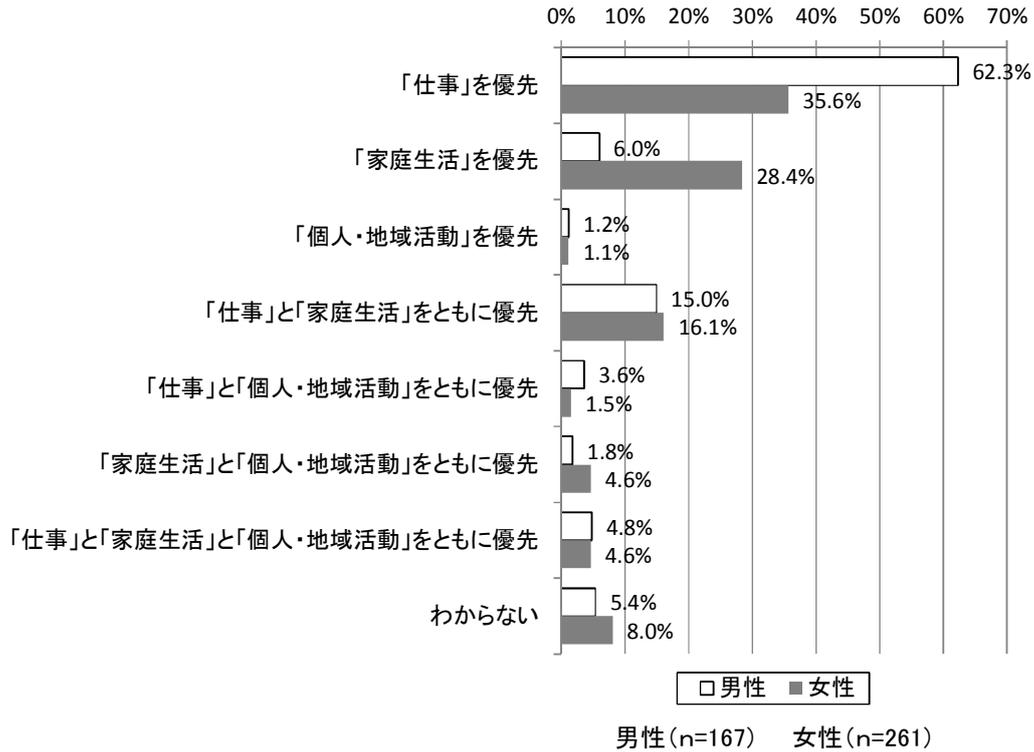


※ 問19は、現実と希望のそれぞれの項目で2つ以上に回答した無効回答が多いため、無効回答を除いて集計をしています。

問19. 生活の中の優先度の【現実】（男女別）

現実では、男女の回答に差のあるものは、『「仕事」を優先』が女性よりも男性の方が26.7ポイント高くなっています。

また、男性より女性の割合が高い回答は、『「家庭生活」を優先』が22.4ポイント高くなっています。

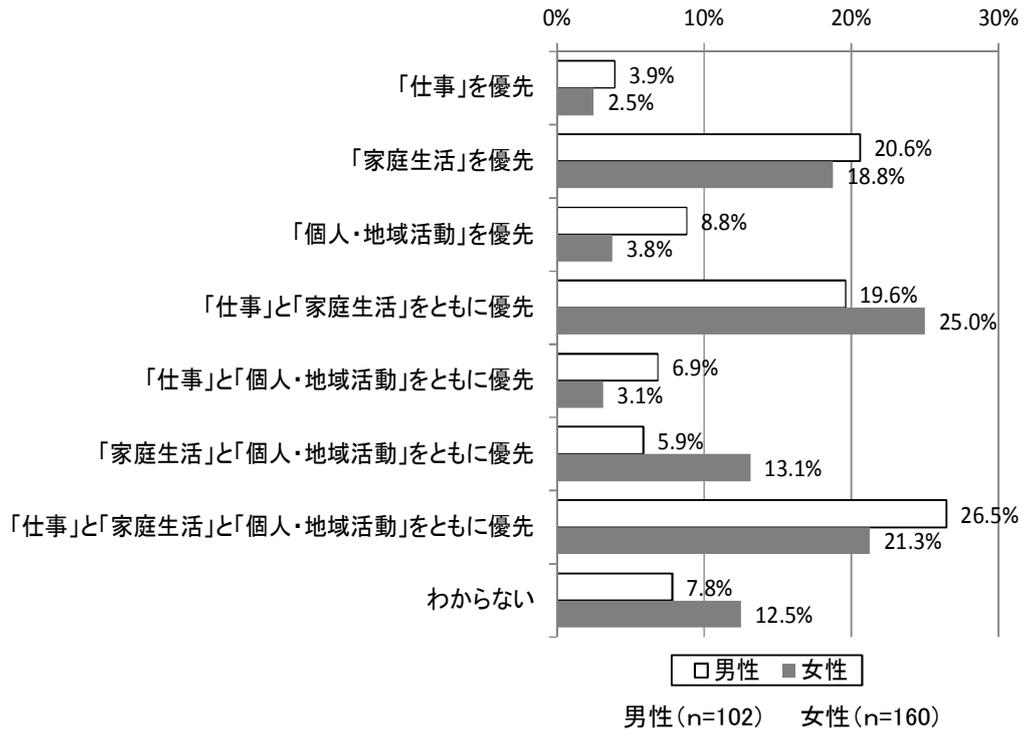


※ 問19は、現実と希望のそれぞれの項目で2つ以上に回答した無効回答が多いため、無効回答を除いて集計をしています。

問 19. 生活の中の優先度の【希望】（男女別）

希望では、男女の回答に差のあるものは、『「仕事」と「家庭生活」と「個人・地域活動」をともに優先』が女性よりも男性の方が 5.2 ポイント高くなっています。

また、男性より女性の割合が高い回答は、『「家庭生活」と「個人・地域活動」をともに優先』が 7.2 ポイント、『「仕事」と「家庭生活」をともに優先』が 5.4 ポイント高くなっています。

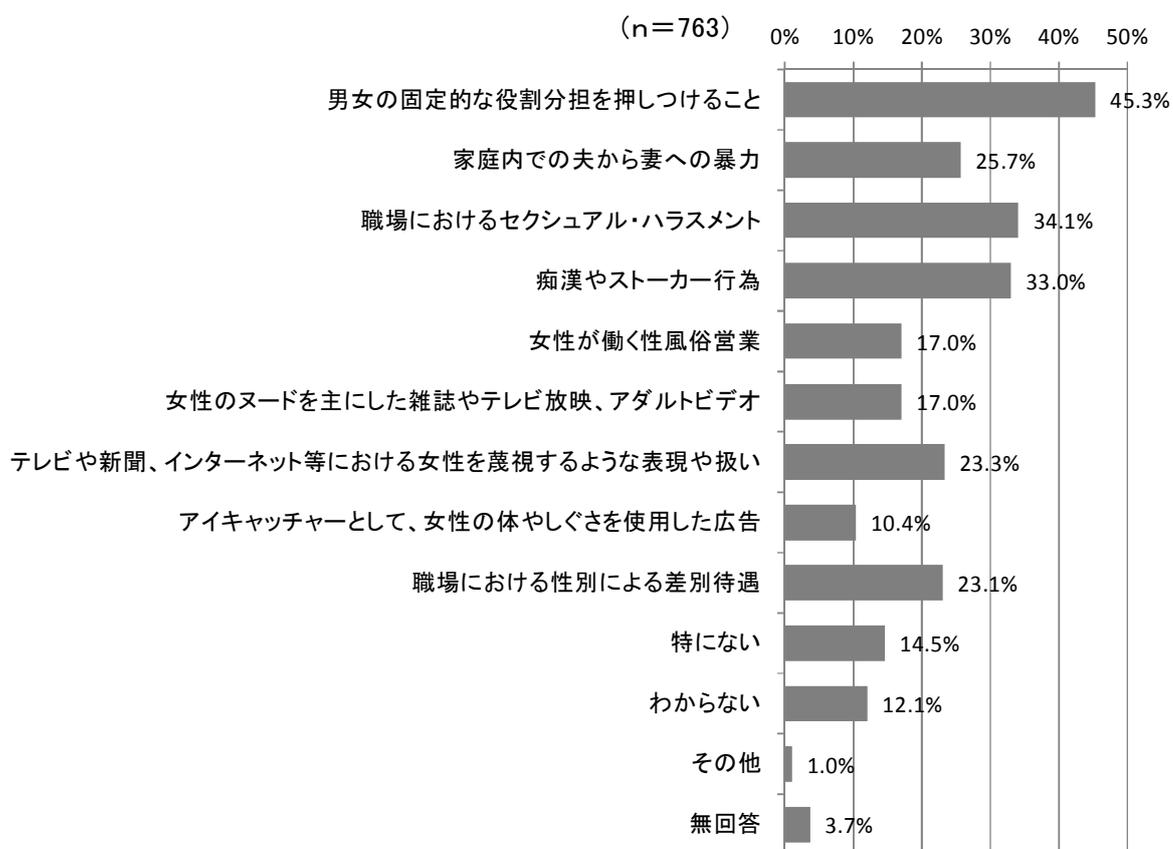


※ 問 19 は、現実と希望のそれぞれの項目で 2 つ以上に回答した無効回答が多いため、無効回答を除いて集計をしています。

7. 女性の人権について

問20. あなたは、女性の人権が尊重されていないと感じるのは、どのようなことについてですか。(〇はいくつでも)

「男女の固定的な役割分担を押しつけること」と回答した方が45.3%と最も多くなっており、続いては、「職場におけるセクシュアル・ハラスメント」の34.1%、「痴漢やストーカー行為」の33.0%となっています。



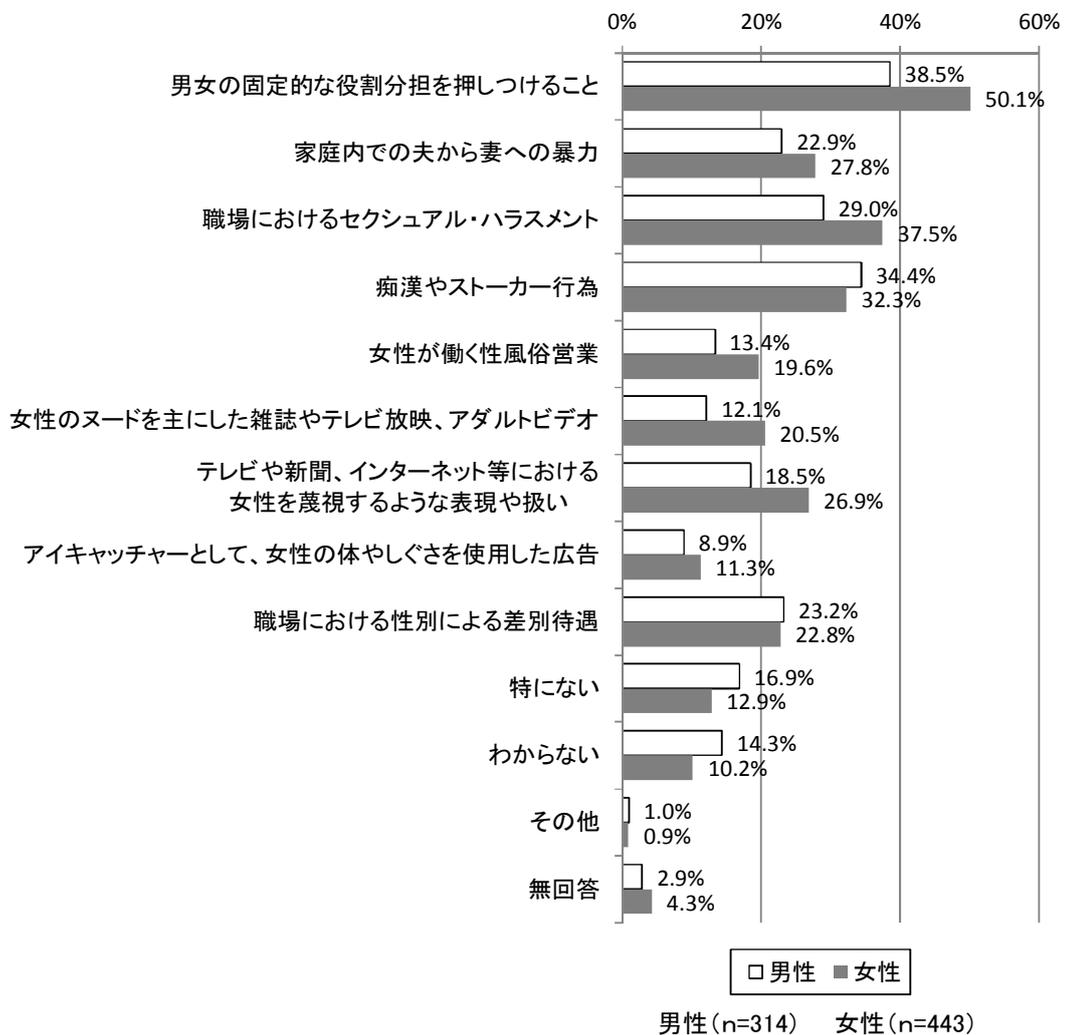
<その他の回答>

- 女性が自発的にする事は仕方ないです。
- このようなアンケート（質問）がある現状。
- 民間企業より公務員に感じる。
- 人権は尊重されている。

問20. 女性の人権が尊重されていないと感じること (男女別)

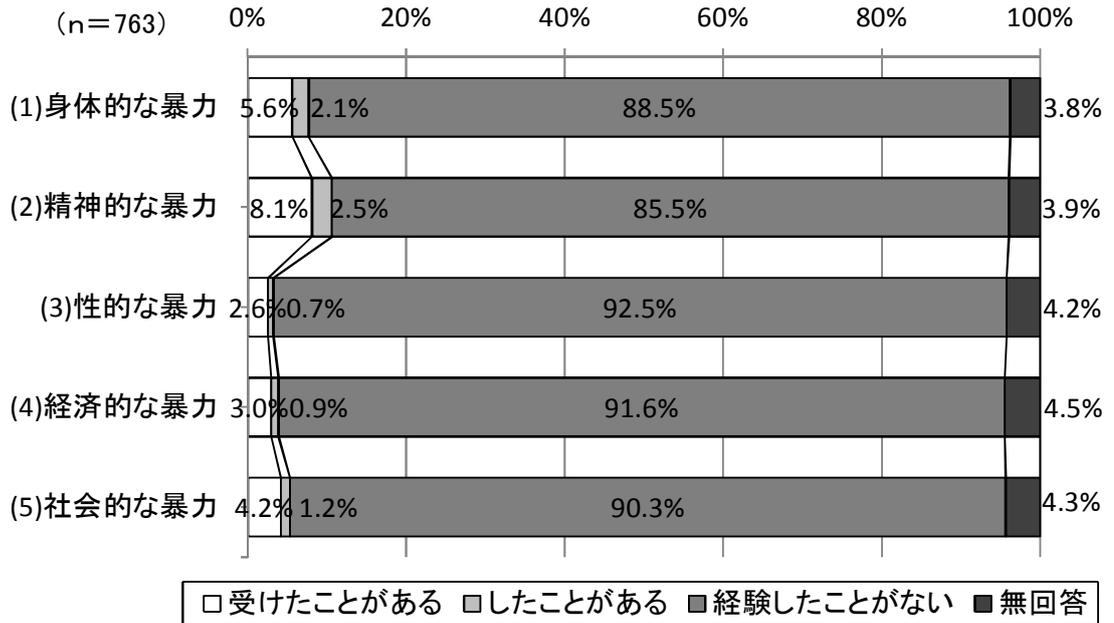
男女の回答に差のあるものは、「男女の固定的な役割分担を押し付けること」で男性よりも女性の方が11.6ポイント高い回答となっています。同様に「職場におけるセクシュアル・ハラスメント」で8.5ポイント、「女性のヌードを主にした雑誌やテレビ放映、アダルトビデオ」と「テレビや新聞、インターネット等における女性を蔑視するような表現や扱い」で8.4ポイント男性よりも女性の方が高くなっています。

また、女性より男性が高い回答は、あまり差はありませんが「特にない」や「わからない」となっています。



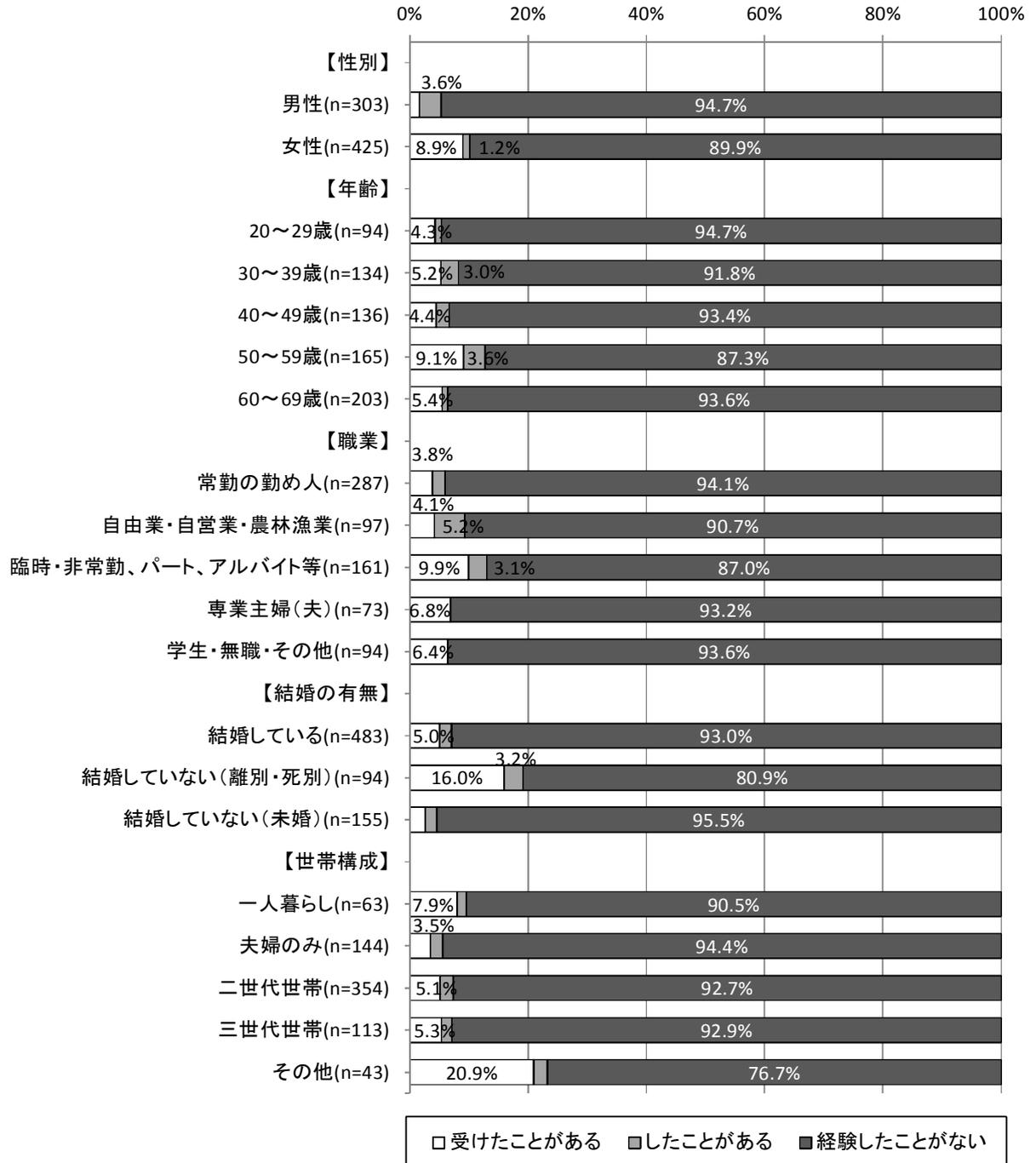
問 2 1. あなたは、ここ数年の間に、配偶者や恋人からの暴力（DV…ドメスティック・バイオレンス）について、経験したことがありますか。（それぞれ1つに○）

8割以上の方が「経験したことがない」と回答していますが、受けたこと、したことがある項目としては、「精神的な暴力」を受けた事がある方は8.1%、したことがある方は2.5%、「身体的な暴力」を受けたことがある方は5.6%、したことがある方は2.1%となっています。



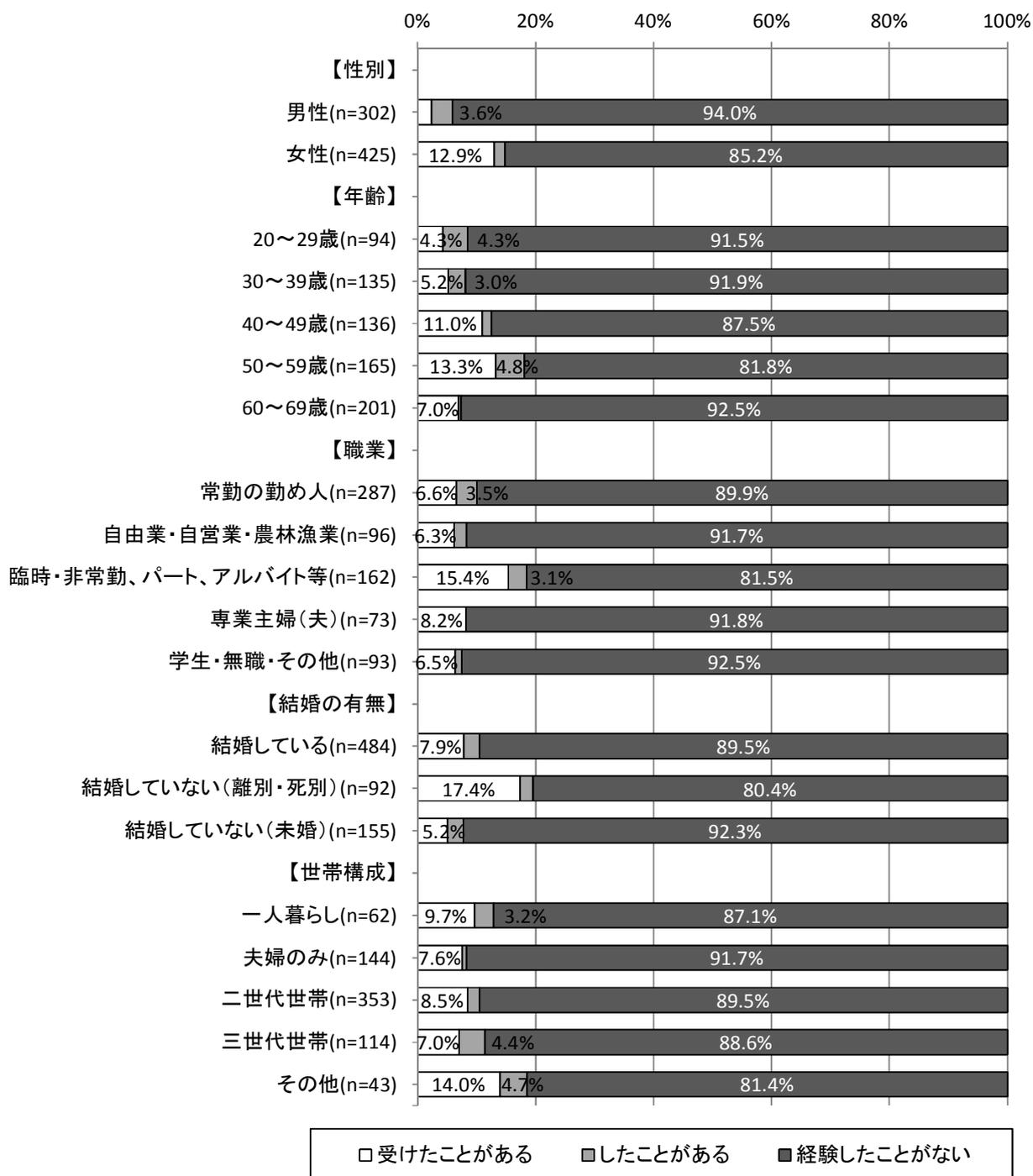
問21. DVについての経験 【身体的な暴力】 (属性別)

身体的な暴力では、「受けたことがある」で女性の割合が高く、結婚の有無では、「結婚していない(離別・死別)」の割合が高くなっています。



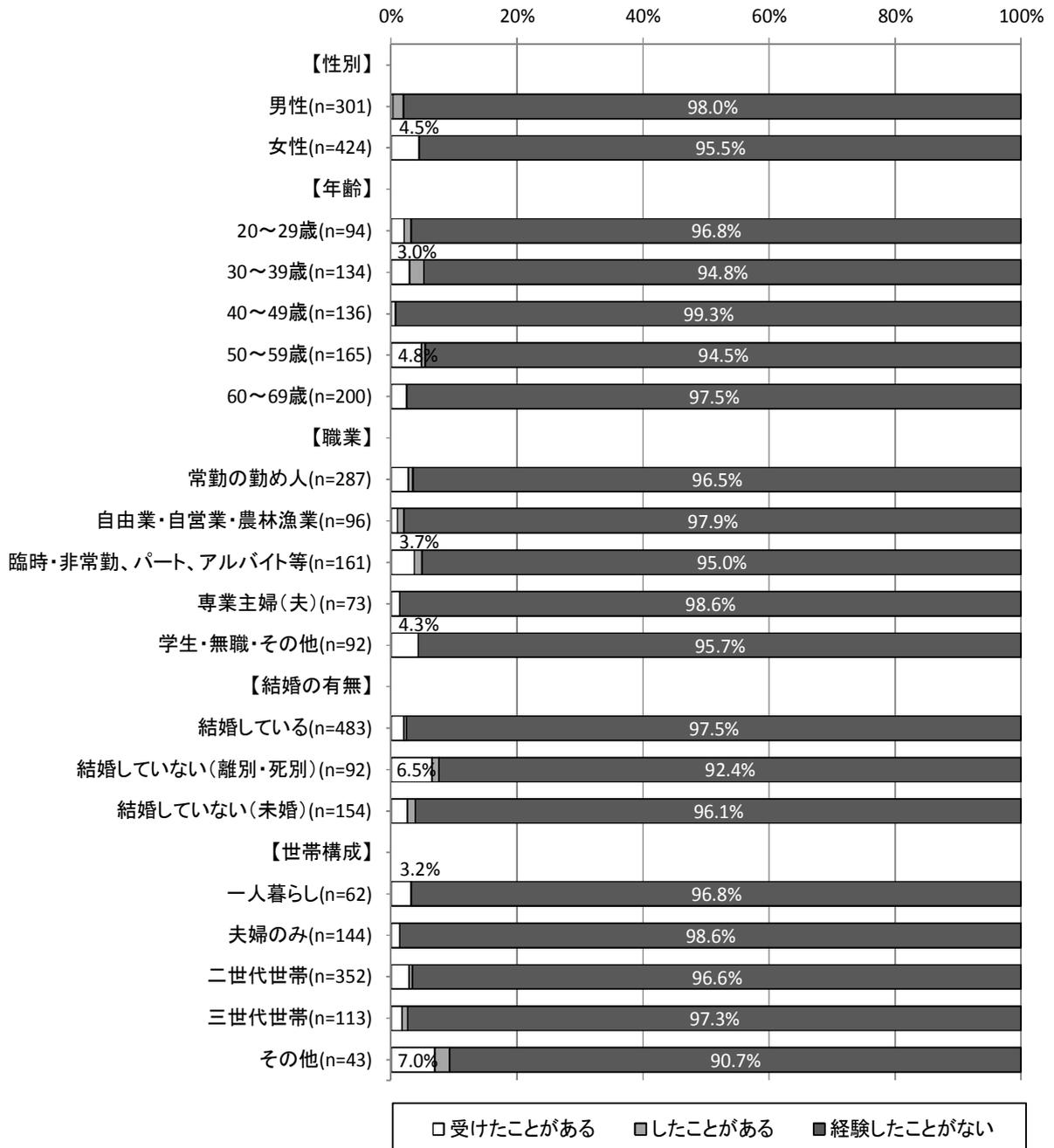
問21. DVについての経験 【精神的な暴力】 (属性別)

精神的な暴力では、「受けたことがある」で女性の割合が高く、年代では「40～49歳」、「50～59歳」で1割を超えています。また、職業では「臨時・非常勤、パート、アルバイト等」が、結婚の有無では「結婚していない(離別・死別)」の割合が高くなっています。



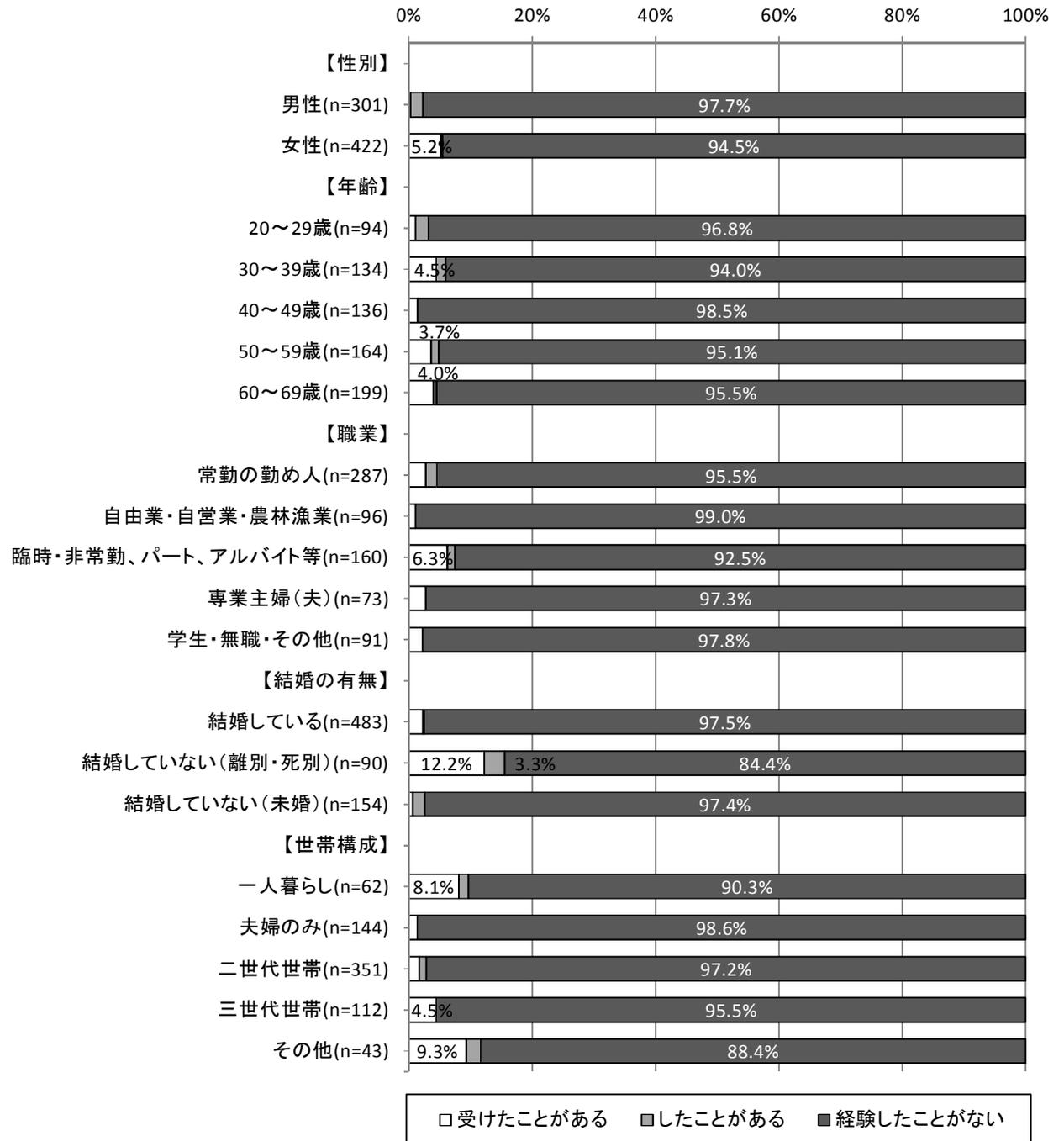
問21. DVについての経験 【性的な暴力】 (属性別)

性的な暴力では、「受けたことがある」で女性の割合が高く、結婚の有無では、「結婚していない(離別・死別)」の割合が高くなっています。



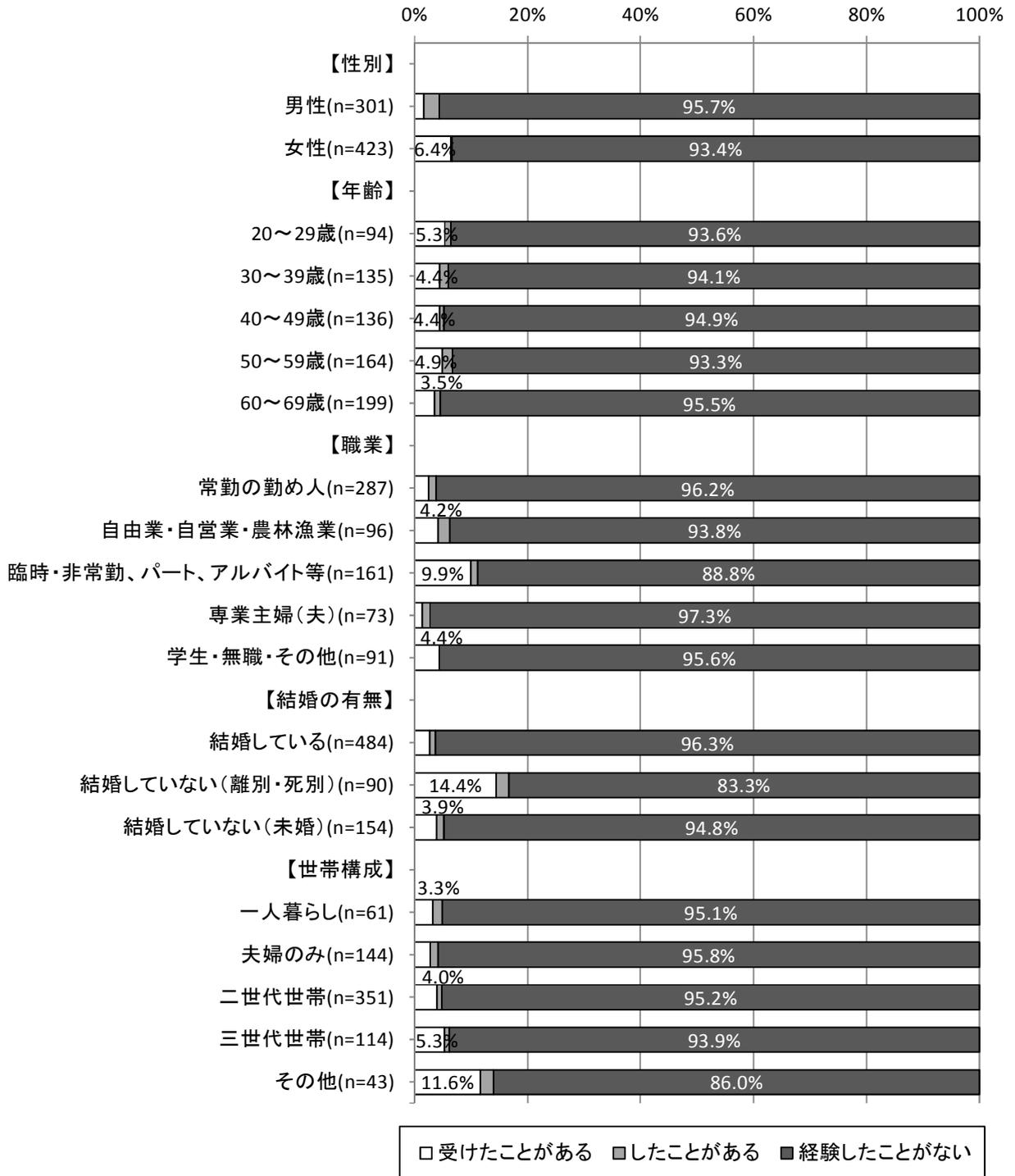
問21. DVについての経験 【経済的な暴力】 (属性別)

経済的な暴力では、「受けたことがある」で女性の割合が高く、職業では「臨時・非常勤、パート、アルバイト等」が、結婚の有無では「結婚していない(離別・死別)」の割合が高くなっています。



問21. DVについての経験 【社会的な暴力】 (属性別)

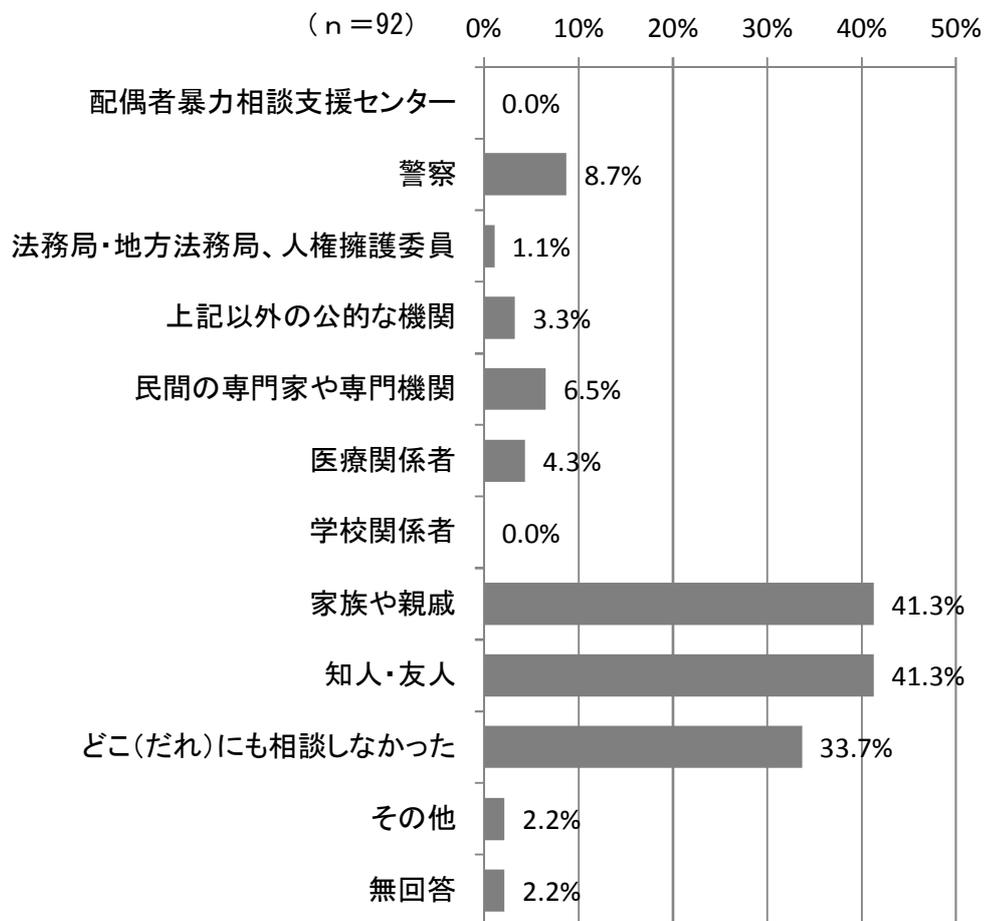
社会的な暴力では、「受けたことがある」で女性の割合が高く、職業では「臨時・非常勤、パート、アルバイト等」が、結婚の有無では「結婚していない(離別・死別)」の割合が高くなっています。



【問21. で、「1. 受けたことがある」と1つでも回答した方に伺います】

**問21-1. あなたは、あなたが受けたそのような行為について、誰かに打ち明けた
り、どこかに相談しましたか。(〇はいくつでも)**

「家族や親戚」、「知人・友人」と回答した方が同数の41.3%と最も多くなっており、続いては、「警察」の8.7%、「民間の専門家や専門機関」の6.5%となっています。また、「どこ(だれ)にも相談しなかった」とした方は、33.7%となっています。



【問 2 1-1. で、「10. どこ（だれ）にも相談しなかった」と回答した方に伺います】
 問 2 1-2. あなたが、どこ（だれ）にも相談しなかった理由はなんですか。
 （〇はいくつでも）

「相談しても無駄だと思ったから」と回答した方が 15 名と多くなっており、続いては、「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」、「自分にも悪いところがあると思ったから」、「相談するほどのことではないと思ったから」の 8 名と同数になっています。

項目	度数	構成比
どこ(だれ)に相談してよいかわからなかったから	4	12.9%
恥ずかしくてだれにも言えなかったから	3	9.7%
相談しても無駄だと思ったから	15	48.4%
相談したことがわかると、仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けると思ったから	2	6.5%
加害者に「誰にも言うな」とおどされたから	0	0.0%
相談相手の言動によって不快な思いをさせられると思ったから	1	3.2%
自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから	8	25.8%
世間体が悪いから	3	9.7%
他人を巻き込みたくなかったから	5	16.1%
他人に知られると、これまで通りのつき合いができなくなると思ったから	4	12.9%
そのことについて思い出したくなかったから	4	12.9%
自分にも悪いところがあると思ったから	8	25.8%
相手の行為は愛情の表現だと思ったから	0	0.0%
相談するほどのことではないと思ったから	8	25.8%
その他	5	16.1%
無回答	0	0.0%
回答者数	31	
非該当	732	
合計	763	

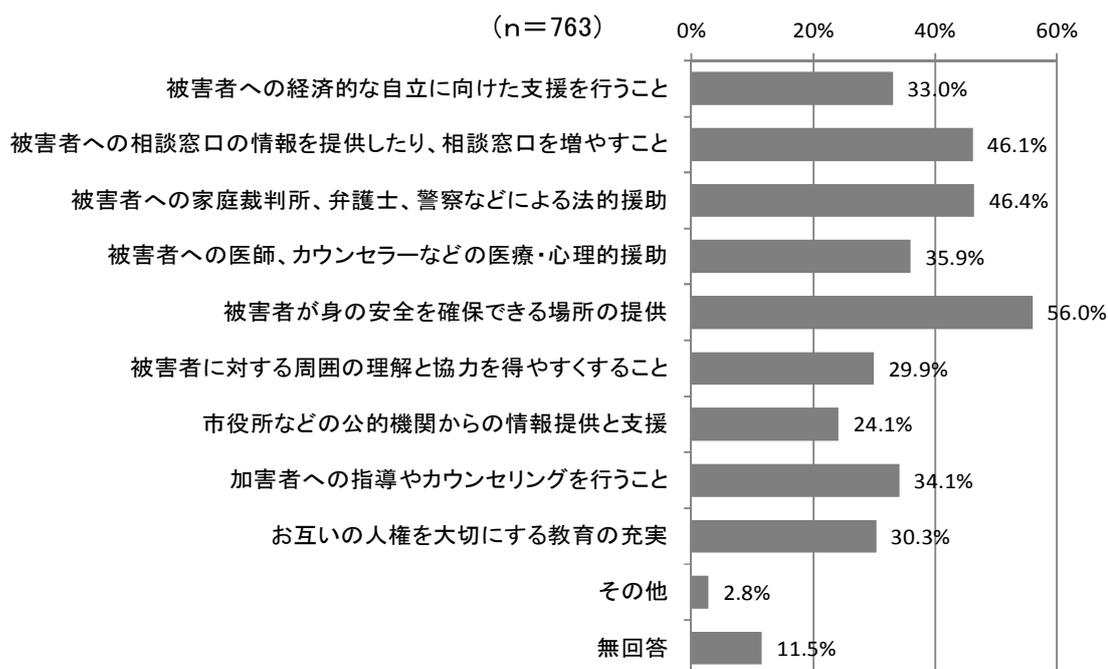
※問 21-1 で「どこ（だれ）にも相談しなかった」と回答した方で、回答者数が少ないため表のみ掲載しています。

<その他の回答>

- 女の言う事しか信じないと思ったから。
- はむかいたければはむかえばよし。
- 離婚することを決めたから。

問 2 2. パートナー（配偶者や恋人など）からの暴力に対して、どのような援助が有効だと思いますか。（〇はいくつでも）

「被害者が身の安全を確保できる場所の提供」と回答した方が 56.0%と最も多くなっており、続いては、「被害者への家庭裁判所、弁護士、警察などによる法的援助」の 46.4%、「被害者への相談窓口の情報を提供したり、相談窓口を増やすこと」の 46.1%となっています。



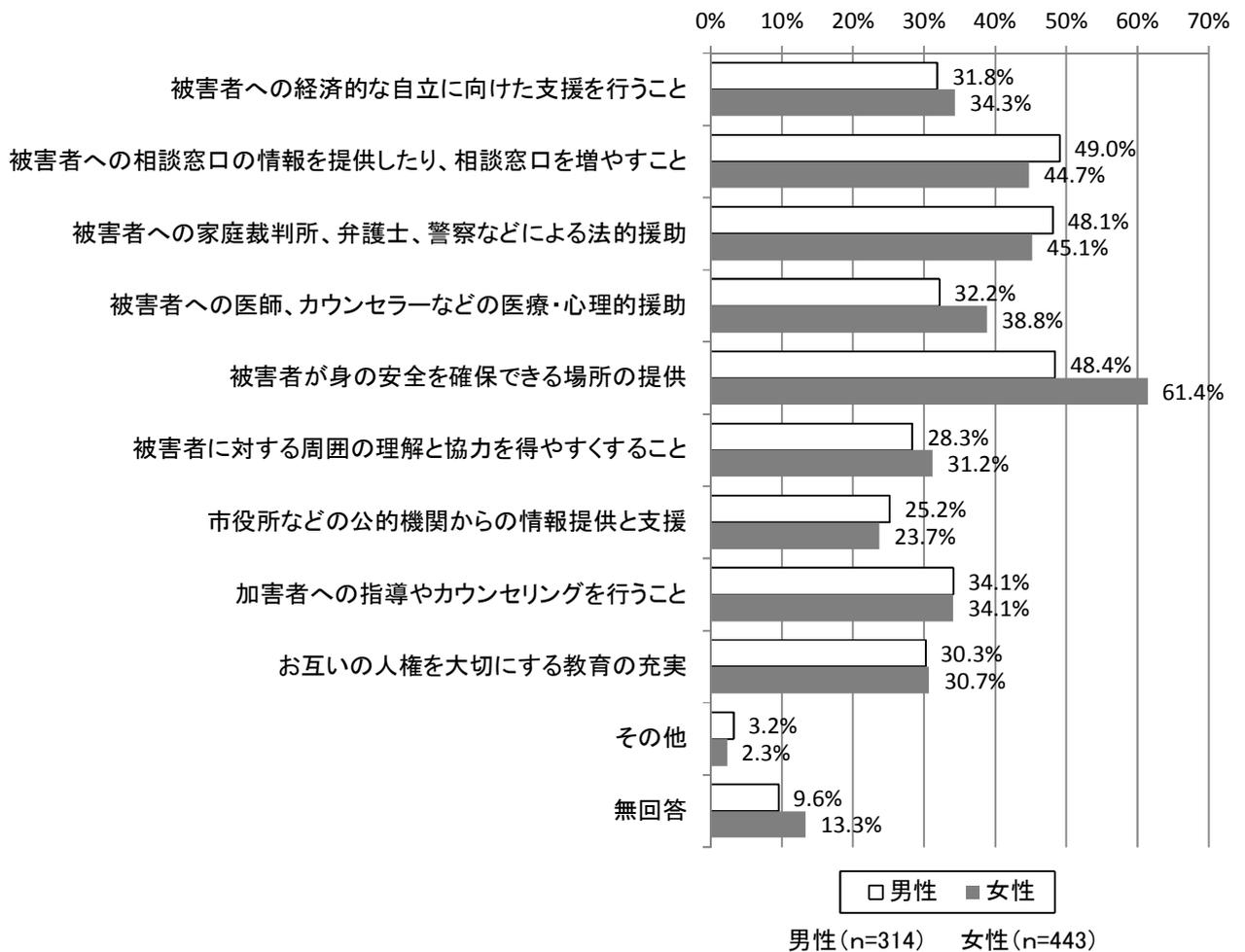
<その他の回答>

- お互いに話し合う事よい事悪い事を。
- 被害を受けている人は孤立しています。本来は特別な人ではないのですが日々の中で色々行動出来なくなっていくます。
- スクールカウンセラーの利用。親が学校に出向く、参観日などを利用して子供の事だけではなく、子供を取り巻く環境・・・親の事にも目を向けて行って欲しい。または、家庭訪問の際、担任だけでなく要望があればカウンセラーも同行するなど・・・。
- なぜ男性の心理も暴かない？DVをする心理をつきつめるべき。(精神的)等でないと、女性はいつまでも逃げているだけ。解決になっていないのではないか？
- 結婚後も女性が働き続けて経済的に自立できるように。
- 警察の介入。
- 加害者をムショ送り、または死刑。
- 被害者の親族への支援や保護。
- まず行政がDVや二次被害についてしっかり学び、どのように被害者と関わればいいのか勉強する。加害者への対処の方法もきちんと理解し、実施する。沼田市は非常に遅れている。
- 自分の意思。

問 2 2. パートナーからの暴力に対して有効な援助は (男女別)

男性より女性の回答が高いものは「被害者が身の安全を確保できる場所の提供」が 13.0 ポイント、「被害者への医師、カウンセラーなどの医療・心理的援助」が 6.6 ポイント高くなっています。

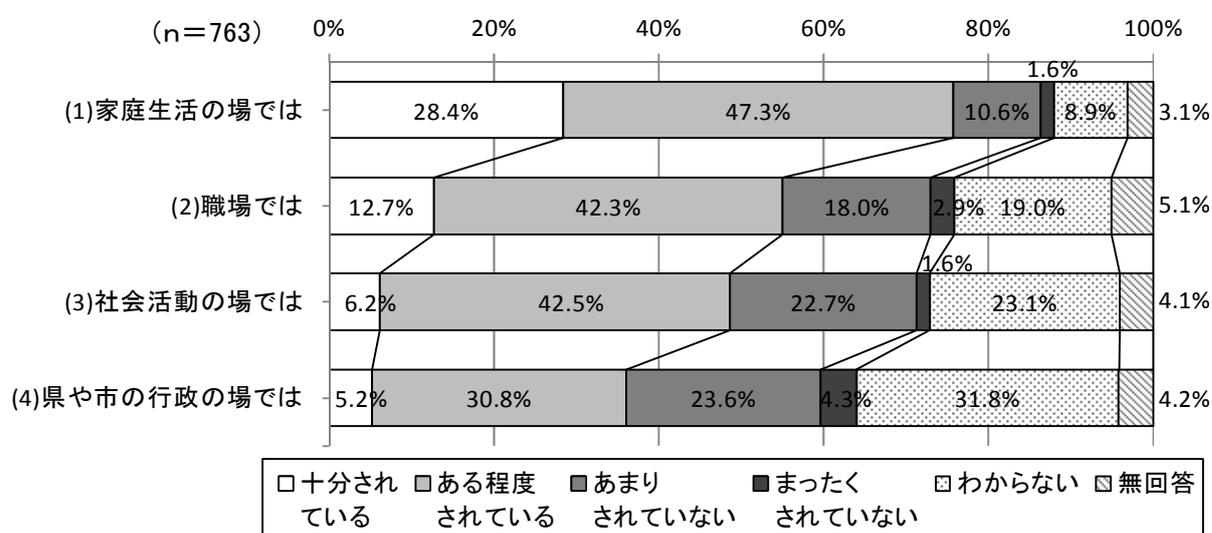
また、女性より男性の回答が高いものは、「被害者への相談窓口の情報を提供したり、相談窓口を増やすこと」が 4.3 ポイント高くなっています。



8. 男女共同参画社会について

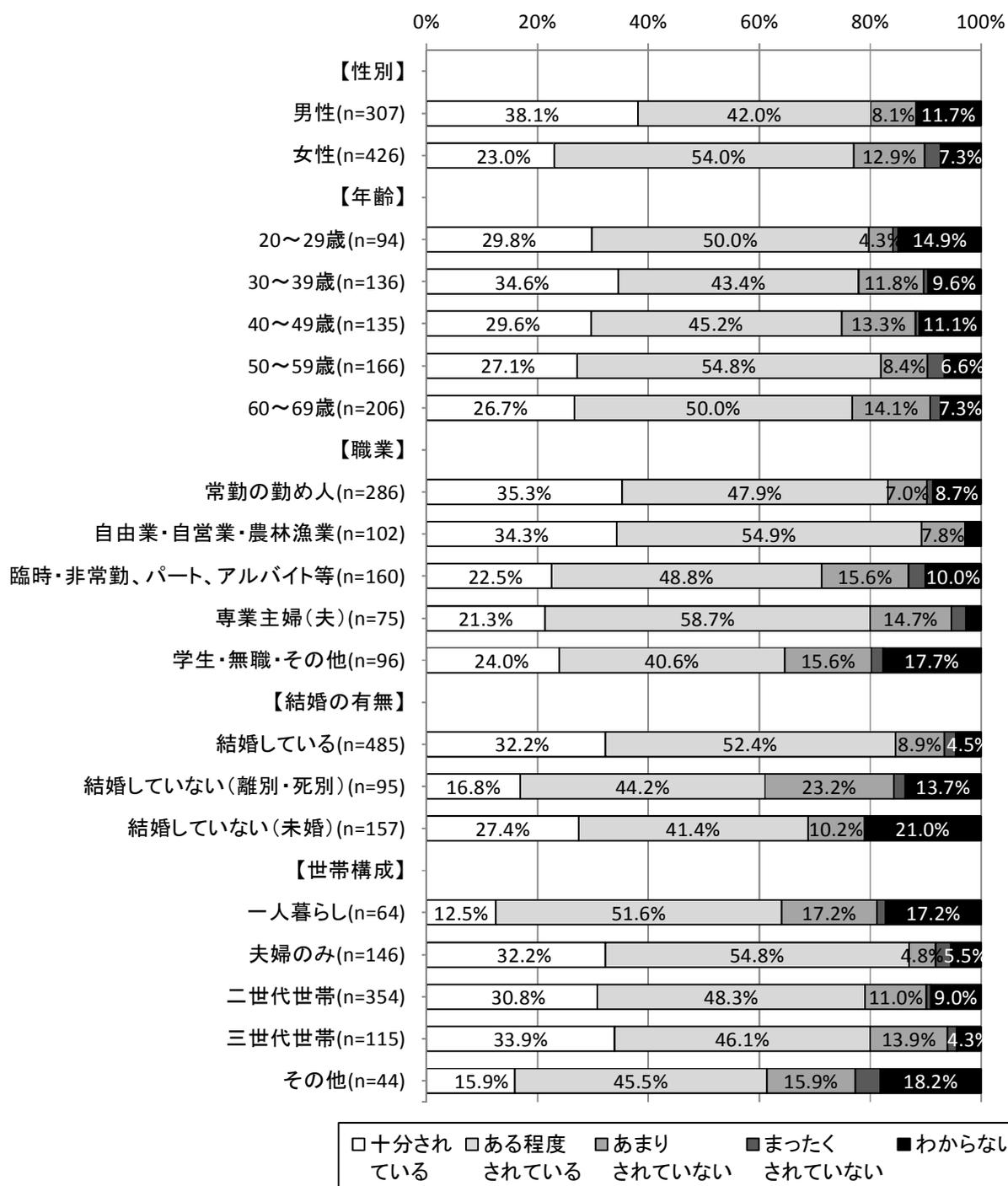
問23. あなたは、生活における各種の場で、その方針や政策が決められるときに、女性の意見がどの程度反映されていると思いますか。(それぞれ1つに○)

「十分されている」と「ある程度されている」を合わせると、家庭生活では、8割弱の方が「女性の意見が反映されている」としており、職場では6割弱、社会活動の場では約5割、県や市の行政の場では4割弱となっています。また、県や行政の場では27.9%の方が女性の意見が「あまり、まったく反映されていない」と回答しています。



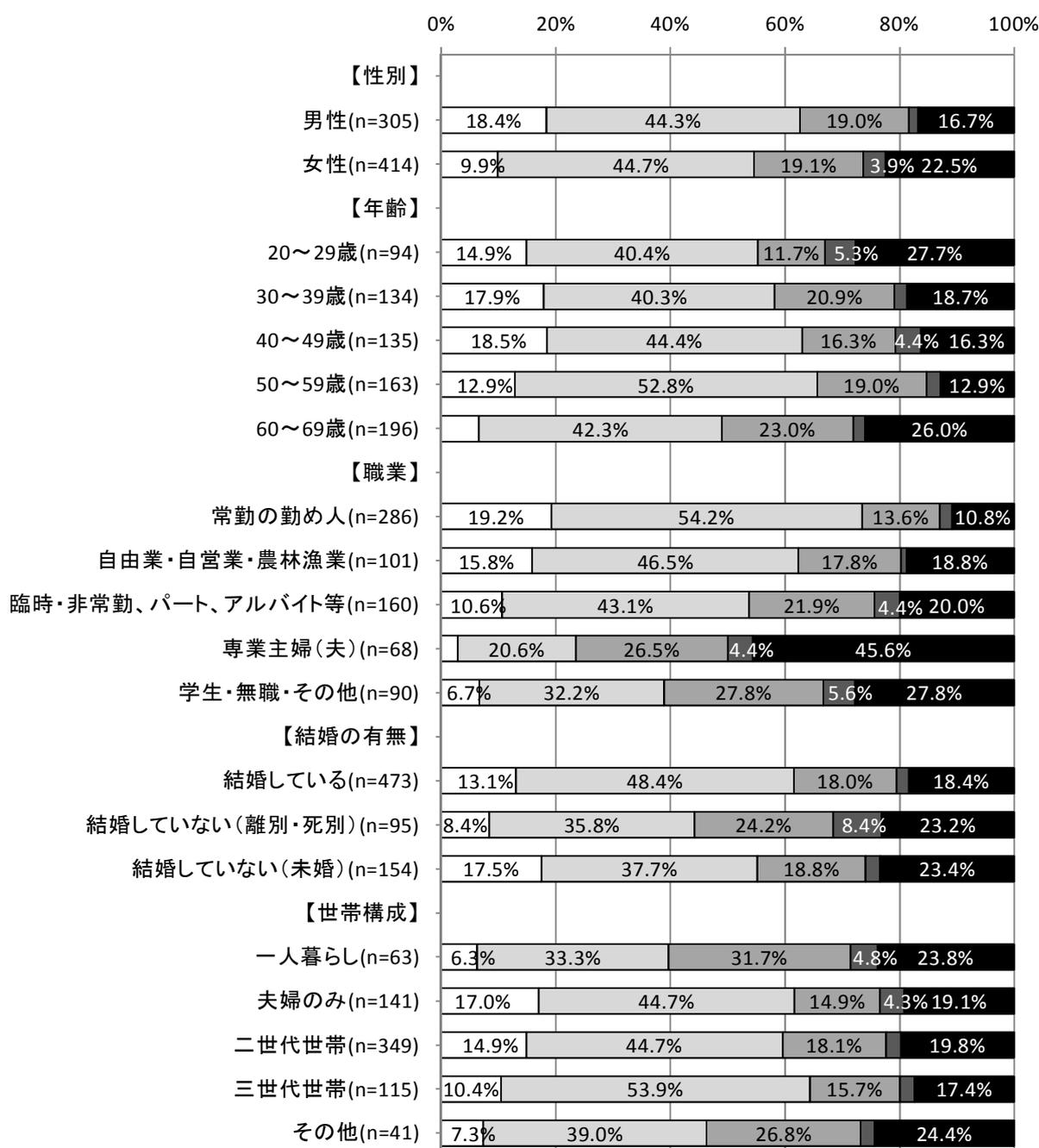
問 2 3 . 生活や施策への女性の意見の反映 (1) 家庭生活の場では (属性別)

家庭生活の場では、女性より男性の方が「十分されている」の割合が高くなっています。
また年代では、「30～39歳」で「十分されている」の割合が高くなっています。



問23. 生活や施策への女性の意見の反映 (2) 職場では (属性別)

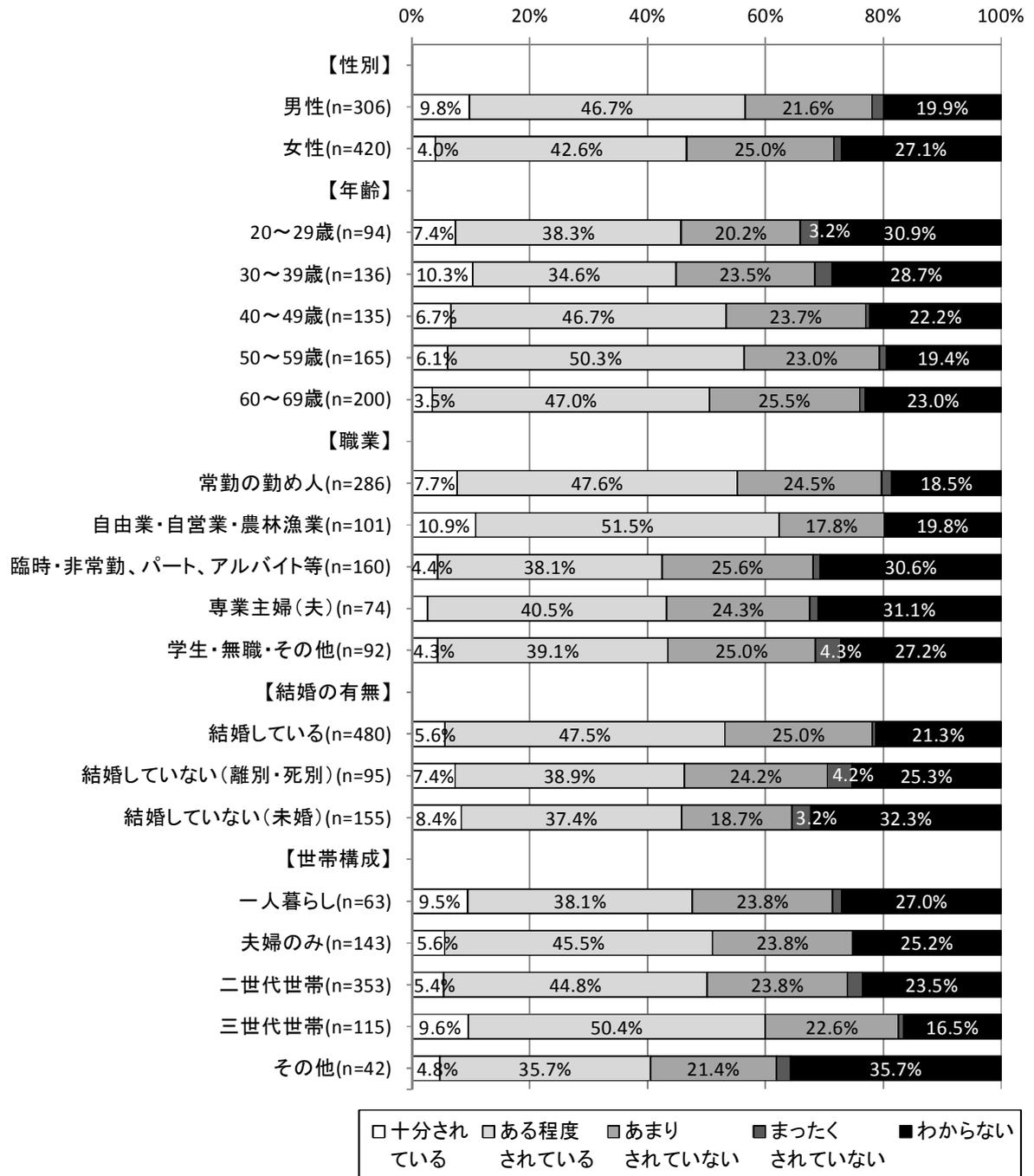
職場では、女性より男性の方が「十分されている」の割合が高くなっています。また、年代では、「50～59歳」で「ある程度されている」の割合が高くなっています。さらに職業では、「常勤の勤め人」、「自由業・自営業・農林業」の方が「十分されている」、「ある程度されている」の割合が高くなっています。



□十分されている □ある程度されている □あまりされていない □まったくされていない ■わからない

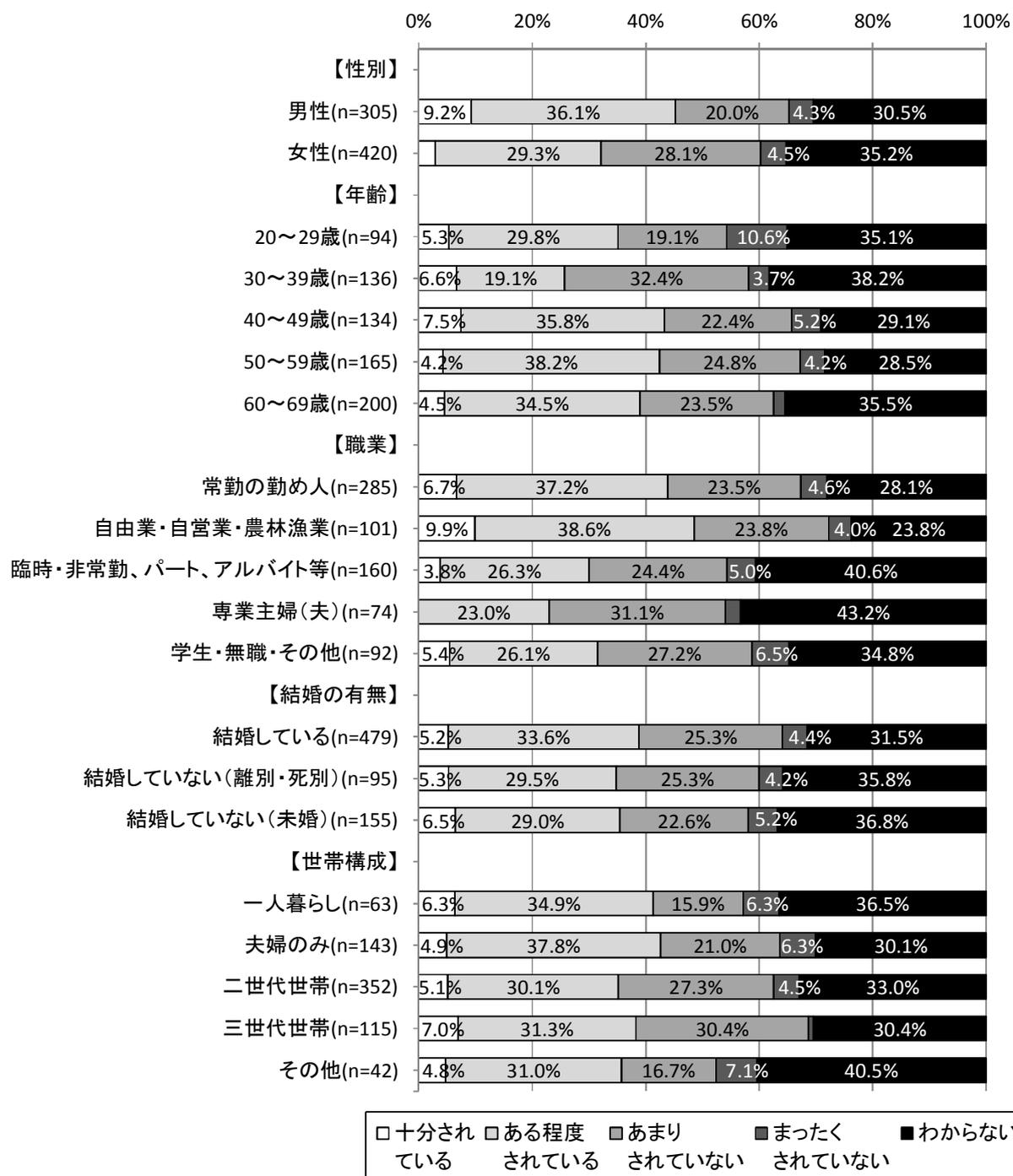
問23. 生活や施策への女性の意見の反映 (3) 社会活動の場では (属性別)

社会活動の場では、職業で「常勤の勤め人」、「自由業・自営業・農林業」の方が「十分されている」、「ある程度されている」の割合が高くなっています。



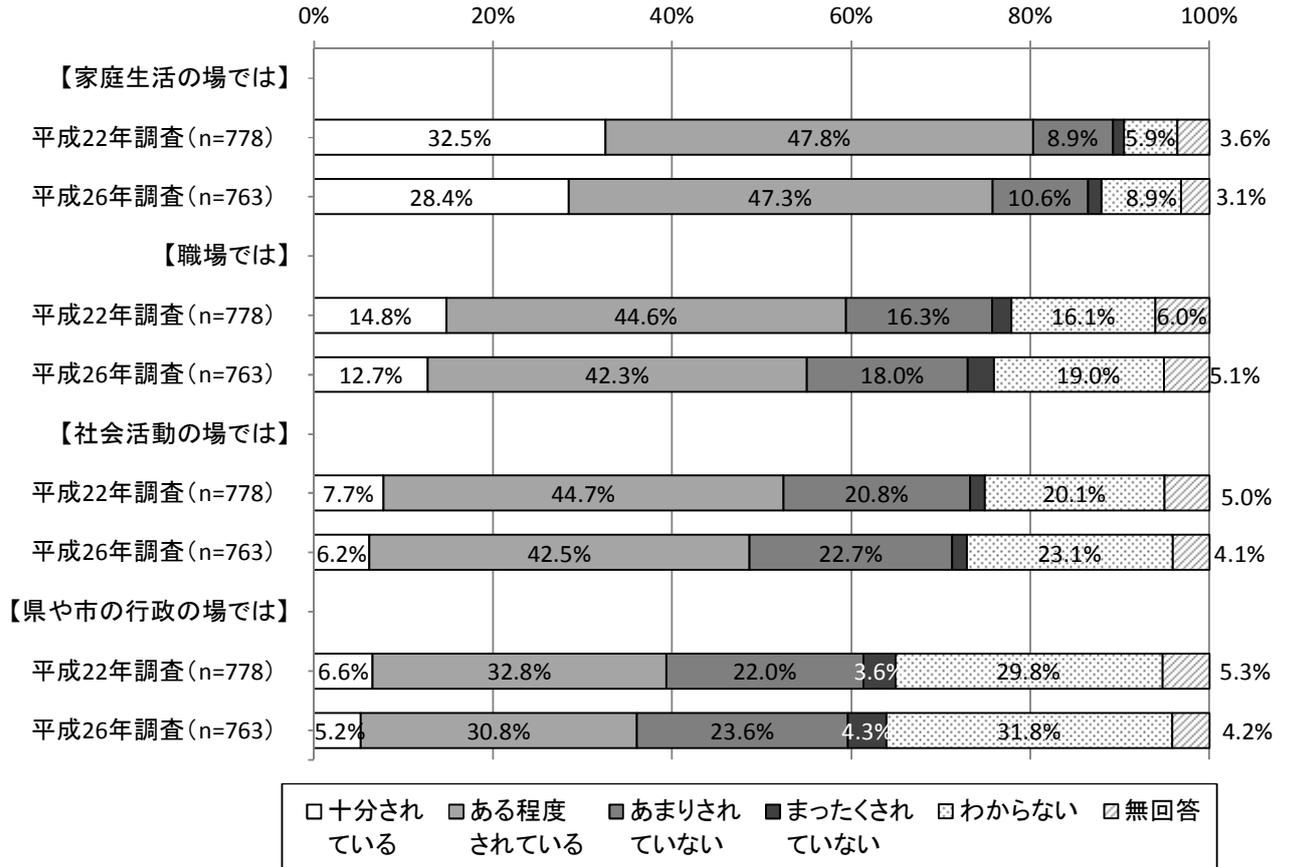
問 2 3 . 生活や施策への女性の意見の反映 (4) 県や市の行政の場では (属性別)

県や市の行政の場では、女性より男性の方が、「十分されている」、「ある程度されている」の割合が高くなっています。また、年代では「30～39歳」で「あまりされていない」の割合が高くなっています。さらに職業では、「常勤の勤め人」、「自由業・自営業・農林業」の方が「十分されている」、「ある程度されている」の割合が高くなっています。



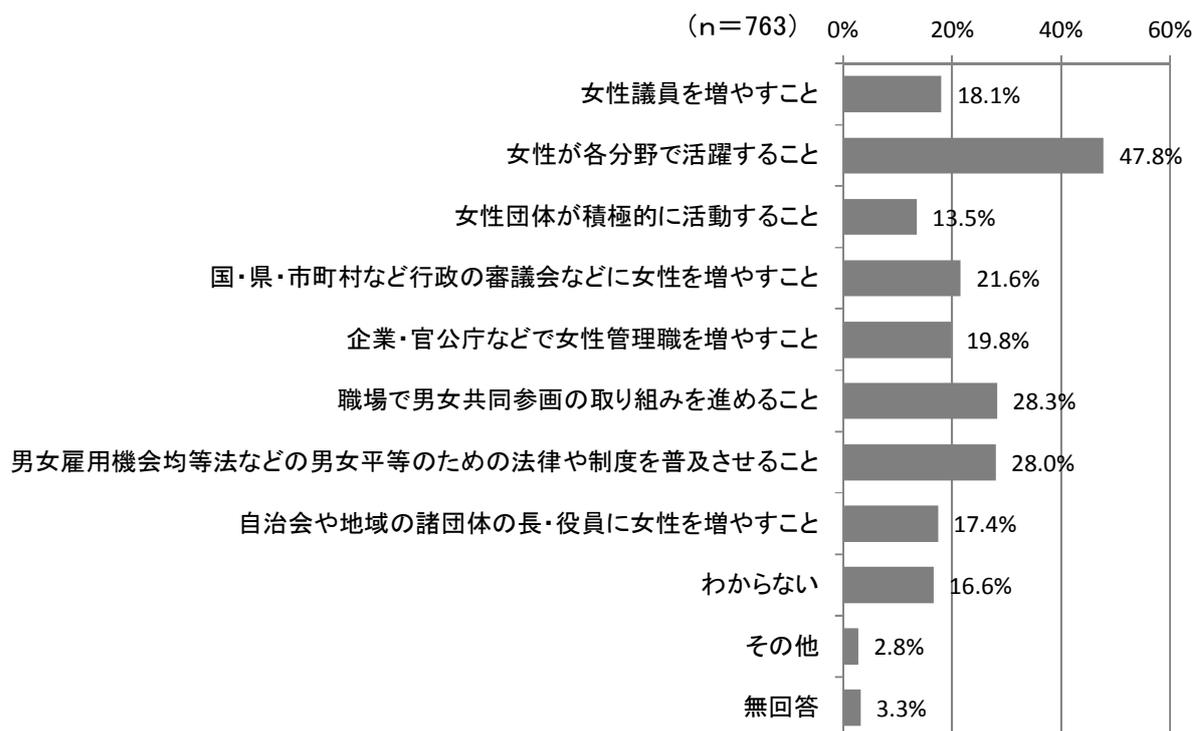
問 2 3 . 生活や施策への女性の意見の反映 （前回調査との比較）

前回調査より、すべての項目で「十分されている」や「ある程度されている」を合わせた割合が低く、「あまりされていない」や「まったくされていない」を合わせた割合が高くなっています。



問 2 4. 行政や企業、社会的活動などの方針決定への女性の参画を図るうえで、どのようなことが大切だと思いますか。(3つまで○)

「女性が各分野で活躍すること」と回答した方が 47.8%と最も多くなっており、続いては、「職場で男女共同参画の取り組みを進めること」の 28.3%、「男女雇用機会均等法などの男女平等のための法律や制度を普及させること」の 28.0%となっています。



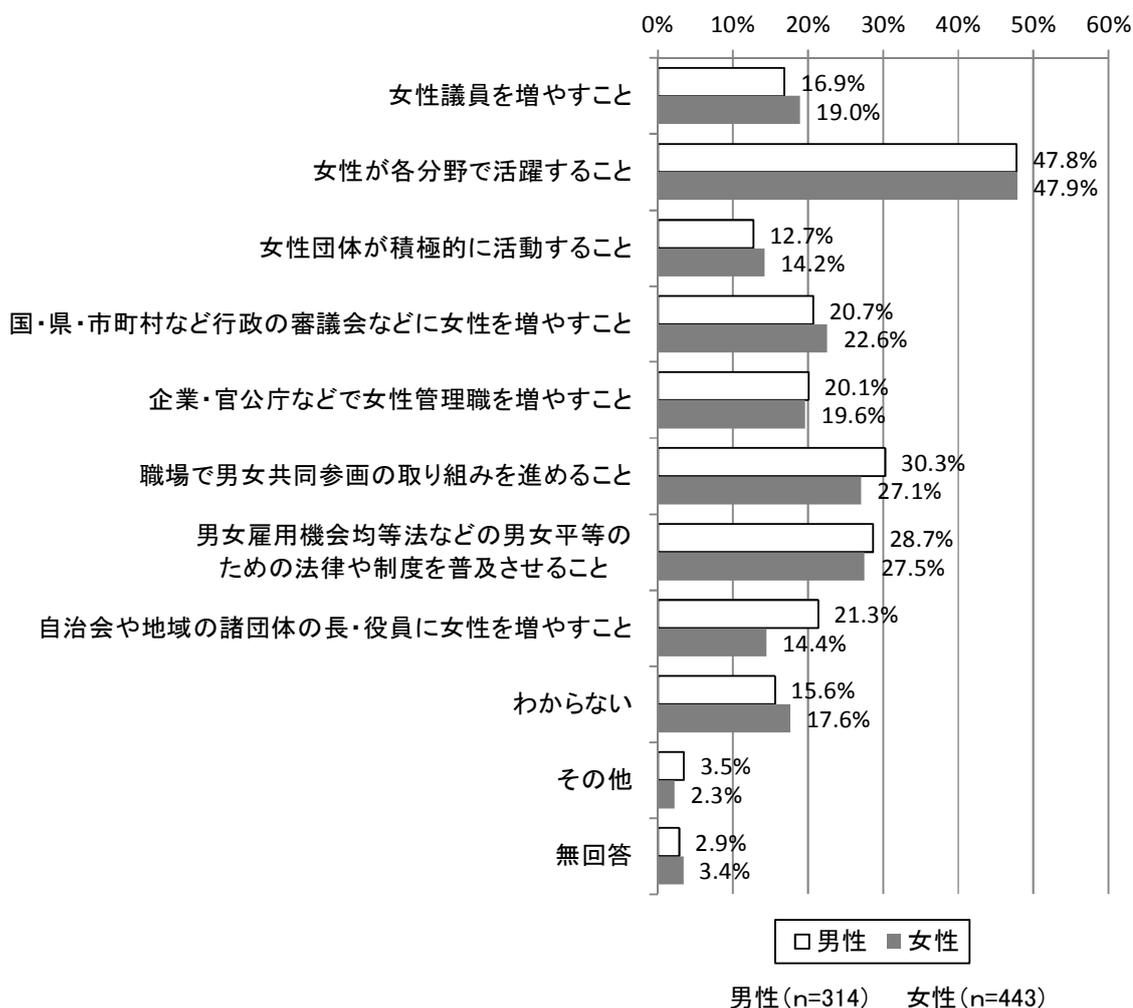
<その他の回答>

- 現男性政治家の意識改革なしには不可能だと感じる。(何をやっても無駄であると感じる)
- 各人がリベラルになること。
- 女性の意識向上が必要。
- 現状は女性の知的レベルが低い。レベルアップを。
- 自分のやりたいことをやれば良い。それが仕事に成れば良いと思う。ただし、趣味の延長ではないこと。
- 法律の理解を正しく、皆が理解を出来る様に考える方向に。
- 男女平等になるとかえって女性の負担がかかると思う。
- 女性の意識が変わること。
- 人間の意識の改善。
- なぜ女性女性というのか。男ががんばって。
- 女性が発言する場を増やす。
- 男女差別はなにもない。

**問 2 4. 行政や企業、社会的活動などの方針決定への女性の参画のために大切なこと
(男女別)**

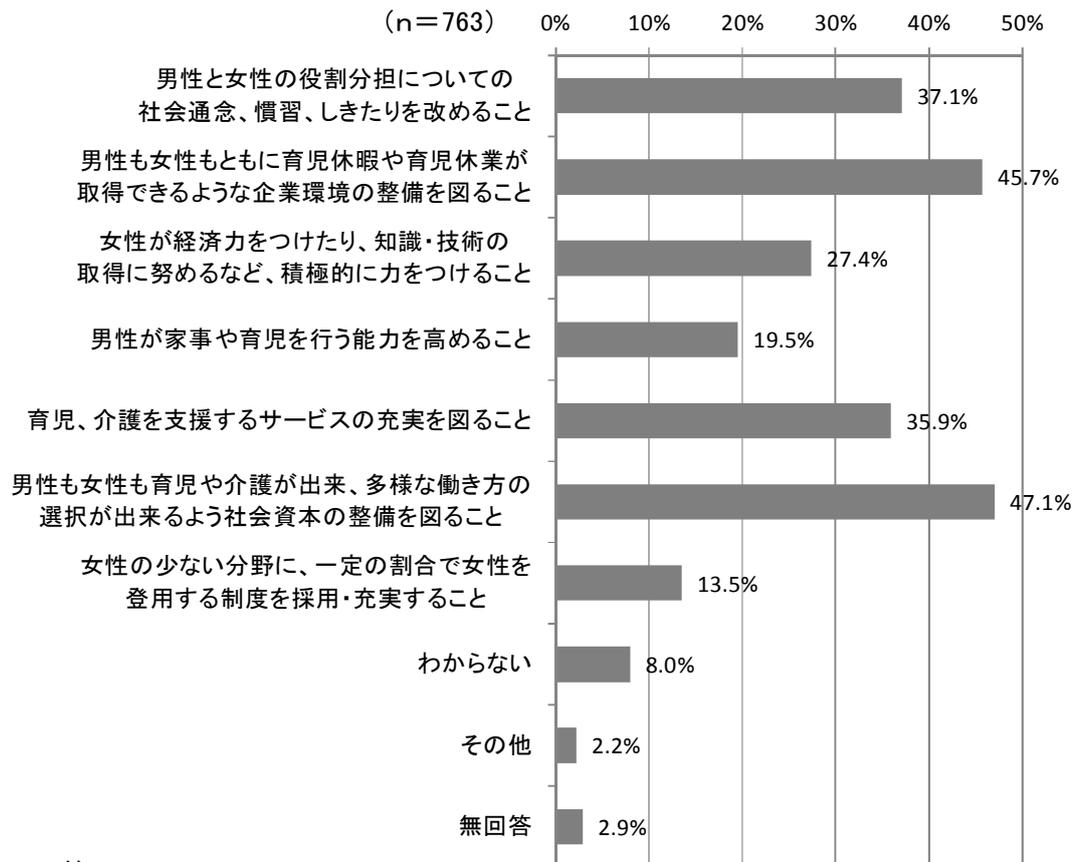
男女の回答に差のあるものは、あまり差はありませんが「女性議員を増やすこと」が男性より女性が高くなっています。

また、女性より男性が高い回答は、「自治会や地域の諸団体の長・役員に女性を増やすこと」で6.9ポイント高い回答となっています。



問25. あなたは、今後、男性も女性もともに社会のあらゆる分野に積極的に参画していくためには、特にどのようなことが必要だと思いますか。(3つまで○)

「男性も女性も育児や介護が出来、多様な働き方の選択が出来るよう社会資本の整備を図ること」と回答した方が47.1%と最も多く、「男性も女性もともに育児休暇や育児休業が取得できるような企業環境の整備を図ること」で45.7%の方が回答しています。続いては、「男性と女性の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること」の37.1%となっています。



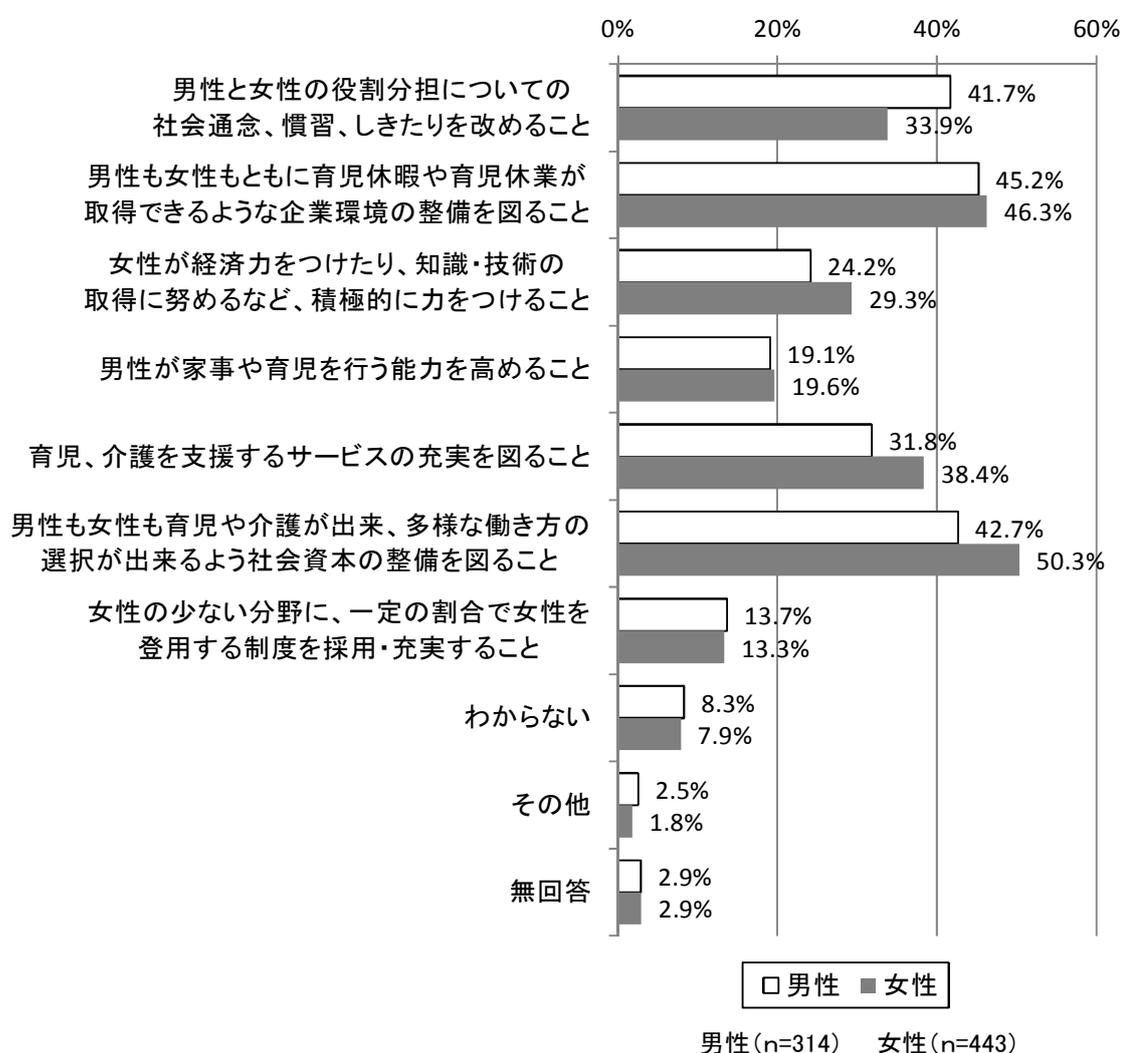
<その他の回答>

- 人が人として生きている社会にする。
- 企業のトップの考え方を変えてもらうこと。
- 女性が男性でなく親の近くに住む、親もみてやれる事。いい関係にしてある程度のきめて最後にもめない安心して老後にして。
- 男性と女性は特徴や性質が元々違います。先入観など「受け入れないこと」が一番の問題。
- そもそも暗黙の了解で”結婚・妊娠したら退職”というのをなくしないと話にならない。
- 意識の改善。
- そもそも女性の参画に反対。男ががんばって。
- 身のづくりが違うのだから役割分担が大切と思う。同じ力仕事を同じくできないと思う
- 積極的に参加する必要はない。
- 気軽に参画できる場を多く設ける事。

**問25. 男女ともに社会のあらゆる分野に積極的に参画していくために必要なこと
(男女別)**

男女の回答に差のあるものは、「男性も女性も育児や介護が出来、多様な働き方の選択が出来るよう社会資本の整備を図ること」で男性よりも女性の方が7.6ポイント高い回答となっています。同様に「育児、介護を支援するサービスの充実を図ること」で6.6ポイント男性よりも女性の方が高くなっています。

また、女性より男性が高い回答は、「男性と女性の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること」で7.8ポイント高くなっています。



**問 26. あなたが日頃家庭や職場などにおいて、男女平等や男女共同参画について感じる
 ことがありました、お聞かせください。**

自由意見は 1 2 3 件の意見を得られた。意見については以下のように分類しました。

カテゴリー	件数
① 男女共同参画に関すること全般	33 件
② 男女共同参画に関する市政について	11 件
③ 女性の社会進出や仕事に関すること	24 件
④ 家事や家庭に関すること	3 件
⑤ 子育てや子どもに関すること	11 件
⑥ 男女の役割や性差に関すること	20 件
⑦ その他	21 件
合計	123 件

①男女共同参画に関すること全般

男女共同参画に関すること全般	性別	年代
職場によって違うと思います。家では母と二人暮らしなのでわかりません。	女性	40 歳代
男女の平均給与に差があり、一番活気を持たなければいけない世代の給与が低いと出生率や社会貢献など消極的になり地域の活性化につながらないと思います。自治体も大きなところに目をつけるのではなく、小さなところから目をつけ、改善していかなければならないと思います。	女性	20 歳代
家庭での介護の不十分→女性の介護による職の不参加が問題であると思う。そこには各病院の看護師の減少があり、沼田市における高看護師の教育の不十分があると感じる。沼田市内に学校がないことや奨学金サービスの不十分がある。	男性	20 歳代
男女平等という事においては、以前ほど違和感を感じる事は無くなった様に思う。共同参画については、地域の差がまだまだ有るのではないかと思います。	女性	60 歳代
平等が第一ですが、男性の良いところ女性の良いところを優先させた平等が良いと思います。男女に得意なものはその得意をいかしてもらいたい。	女性	50 歳代
今まで農家で、畑をやって来て、弟妹に土地を買って出してやっているのに、今は近所もそうですが親が死んで土地を分ける事に成り平等です。こんな事があたり前です。これでは長男と親がすむ事はないです。とてもやりきれない社会の法律が出来ていない。	女性	60 歳代
男性は育児・介護休業の取得が少なすぎます。企業や一緒に働く同僚の理解がまだまだないためだと思います。「休みを取れ」という前に意識の改善が先決だと思います。	女性	50 歳代

男女共同参画に関すること全般	性別	年代
男女平等にはならない考える方がおかしい。そんな事より女性に子供生んでもらう事を考えた方が良く。共働きを考えるのはおかしい。もっと男性に給料を増やした方が良く。女性は家庭を守ったり子育てで専念すべし。	男性	60 歳代
「男女平等」とか「男女共同参画」という言葉は偏った共産党系の人々が使う社会批判の道具であり、行政としては使用すべきではない。「平等」も「共同」も「公正」がその基となるべきで、良識なくして達成できない。	男性	60 歳代
男女平等に対して大賛成である。ただ男と女では色々異なるところがある(身体特徴、物事の考え方等)したがって立場によって異なってくるのは仕方ない場合多いのが現実である。	男性	60 歳代
男女平等を理由にしてそれに甘える構造が社会に広がってる様に思う。その本質の教育を小中高生から行うべきではないか。	男性	60 歳代
・男女は、同じではない。特性を生かして、性別ではなく、個々の人格、能力に対して評価されるべきです。・女性があまり重要なポストについてた場合、果たして男性が家庭内でどこまでフォローできるのか。例えば子供にとって父と母の存在理由は違うはず。	女性	50 歳代
「仕事が無い。結婚できない」社会をまず変えない限り、そもそもこの問題に関われない。若者にとってみれば、贅沢な質問ばかりです。独身社会人が困っています。以上。無職の若者より	女性	20 歳代
男性の育児休暇が取りやすい環境と、嘱望の利活が社会全体で広がること。	女性	30 歳代
家庭でも職場でも男女ともに平等で、こころ良い毎日を送れたら良いと思います。	女性	30 歳代
男女共に、出来ることを出しおしめしない気持ちを日々持つ事が大事。自分発信の生活を心がければ、考えの差もなくなるのでは。	女性	50 歳代
企業のトップの頭を変えるのが一番だと思います。	男性	50 歳代
今は、女尊男卑になっていると思う。	男性	30 歳代
特に男性が今までの通念を考え直して、自分の行動や役割について新たな気持ちで勉強したり、行動を起こして欲しい。	女性	50 歳代
男だから女だからではなく、男に子供が産めないように、できること、できないことがあるのだから、「男女平等」ということだけではなく、互いに思いやりと理解をもつことが大切ではないかと思います。	女性	30 歳代
男女平等でなくて良いと思います。言いすぎなのでは？男性のやるべき（出来る事）事、女性のやるべき（出来る事）事は違うし、男性はとてども気を使って下さっています。	女性	40 歳代
近ごろ”女性を〇〇%雇用すべき”などとメディアで見聞するが、能力があれば男女関係なく雇用すべきで、〇〇%を達成するために能力の無い女性を雇用してもしかたない。むしろ、その能力のない女性のせいで「これだからやっぱり女は. . .」と言われそうである。	女性	30 歳代
自分の年齢が年齢だけに意見も言える事が多くなっているが、それでも年配の方々には昔ながらの固定観念が拭えず、男女平等とまでは言えない時もある。（特に地域社会活動）	女性	60 歳代
家庭では配偶者、組織ではトップの考え方ひとつで男女平等はほぼ決まってしまうように思える。	男性	60 歳代
職種によっては男性向き、女性向き、家庭でも同様の適合性があると思う。全てを平等というのではなくて、焦点を絞った方が効果的ではないか。	男性	40 歳代

男女共同参画に関すること全般	性別	年代
小さな子供を抱える女性が働きやすい環境を整えてほしい。	女性	30 歳代
少子化・・・子供を増やす・・・女性は家庭、男性には経済力を向上できる社会制度が大切と考えます。	男性	50 歳代
女性は守られている感があるので、このまま待遇だけ良くなっても社会として良いこととは考えにくい。選択肢の幅を増やすことが重要だと思う。	男性	40 歳代
男女区別しすぎ	男性	40 歳代
男女共同参画でよく出るのが、女性をもっと「役」につけて・・・というものが多いが、女性は〇名以上出席して下さいなど、強制的にされるのは果たして正しいのかと思う。きっかけにはなると思うが、迷惑に思う人が多いだろう。	女性	30 歳代
“男である前に、女である前に、ひとりの人間である。”という考え方・感じ方が”アタリマエ”となるようなときがくれば、世の中もっと生きやすくなるのだろうか．．．？とよく思います。	女性	50 歳代
お互いの人権を尊重し、よりよい家庭や社会をつくる努力をしていくことが大切。	男性	50 歳代
子供がゆったりと育つゆとりが家庭・社会地域に欲しい。何の為に働くのか、家庭の役割の見直しとともに考えることが大切。	男性	50 歳代

②男女共同参画に関する市政について

男女共同参画に関する市政について	性別	年代
市役所は積極的に女性の雇用を増やすこと。	男性	60 歳代
あんまり男女の格差を感じられないので働きやすいですし、生活しやすい社会環境にあると思われまます。	女性	20 歳代
企業等はずっと女性を管理職等に登用した方が良い。日本は海外よりその方面が茫い	女性	60 歳代
国民年金の第3等被保険者という制度があること自体がおかしい。	女性	50 歳代
私たちの地域では区議員などは男中心ですが、女も必要だと思います。無理なくだんだんと女性が増えていけばいいと思います。	女性	60 歳代
平成22年から計画の策定と取り組みがあった事すら知りませんでした。	女性	30 歳代
男性管理職は女性なんてと軽視する、働きにくい職場。沼田市は他の市町村と比べても、かなり子育てしにくい環境にある。保険料を安く設定し、保育の充実をはかる環境を早急に求める。母子家庭や父子家庭にもっと援助してほしい。	女性	40 歳代
関係ないが、もう少し沼田をどうにかしないと若者がいなくなる一方。	男性	20 歳代
沼田市議会には女性議員が0である事は、女性の視点からの行政に組みにくい。男性市議会議員に「男女共同参画社会」の実現への意識を高めて欲しい。	女性	60 歳代
休暇制度が充実しながら会社ももうかっている。そんな社会になればいいのですが、会社も競争の中で大変な状況であり、会社も家庭も余裕が無い。大企業でない限り、難しい問題だと思います。国や県のようなバックアップを期待したい。	男性	50 歳代
現在、区長など地域役員など女性の積極的な参加は無いです。これは慣習であり、女性だから区長をやらない(できない)のでしょうか？沼田市で行政区の3割を女性区長に出来ますか。	男性	40 歳代

③女性の社会進出や仕事に関すること

女性の社会進出や仕事に関すること	性別	年代
職場は女性が子どもを産むことへの理解や環境整備をもっと充実させなければ少子化問題は改善されないと思う。出産を機に退職する女性が多い。	男性	20 歳代
今現在学生のため、詳しいことはわからないが、職場における女性の立場や地位は昔よりも向上している印象がある。	女性	20 歳代
男女平等はもちろん必要です。誰でも安心して暮らせる社会が望ましいと思います。職種の労働賃金格差をなくして欲しいと思います。	女性	60 歳代
地域の行事では女性がお茶くみするのが当たり前になっている。	女性	20 歳代
女性を優遇しすぎるのも、逆差別につながると思うので、入る扉は入り易く、そこからは男女平等の方がよいと思う。法律などではなく、女性の中で出世したい人や、特定の職業に就きたい人は就けばよいと感じる。	男性	20 歳代
育児に男性が進んで協力している姿もよくみかける。女性が出産してからも仕事を続けられるよう周りの協力はかせないと思う。	女性	30 歳代
女性の社会進出は思うほど発展していない。社会に出て受け入れる体制が整っていないと、これから先も平等な社会はないと思います。	男性	30 歳代
男女平等と言っても、やはり母親の方に子供がなつくし、仕事も平等になって、力仕事などやるのは大変です。そんな平等にならなくても……。男が弱くなってダメな世の中になってしまう。男は男らしいのが好きです。	女性	30 歳代
女性が自然体で社会に参加できることが男女共同参画社会の理想です。男性に対抗することを意識しているようではまだまだ未熟です。	女性	60 歳代
今でさえ仕事がない(あっても低賃金)のに女性への社会進出にそれを向ければ一般男性はもはや奴隷以下ですね。	男性	40 歳代
職場への女性の参画はだいぶ進んでいると思うが、シフト等で男女の待遇を同じにしてほしい。男性職員の数が不足し苦しい。	男性	20 歳代
女性自身が教養を高めないと、社会は変化していかないと考えています。	女性	60 歳代
自営業の共働きですので、男女平等にこだわると一緒にやっていけないのであまり考えた事がないが、男性も育児、介護の支援に協力的であって欲しい。仕事を離れた時の平等は望む。	女性	50 歳代
男性の中で同じ仕事をして働く女性には、男性とは異なる悩み等があるが、理解して直していくべき上司が男性では女性の悩みに気付かない事が多い。	男性	30 歳代
男女で結婚が可能になる年齢が異なることが納得できない。このことは女性が男性よりも職場での活躍や高度な教育を受けることなく早期に家庭を持つことを意図しているように思えてしまう。	男性	20 歳代
女性の雇用機会を因ること。	女性	60 歳代
女性管理職を増やすことが男女共同参画になるとは思えません。男女にかかわらず、人格的にも能力的にも適切な人物を選ぶことで職場、地域社会等は、良くなっていくと考えます。	男性	50 歳代
男性職員より女性職員の方が多い職場なので男女差別を感じることなく仕事ができている。でも世間では、まだまだ「男は外で女は家庭の中で」という思いを持っている人は多いと思う。	女性	40 歳代
職場では残業などは女性でも男性も区別なしとする事です。	女性	60 歳代
女性が職場で優遇されすぎていて不平等を感じる。小さな職場では、男女で育児とられたら会社がまわらないのも現実です。	男性	40 歳代

女性の社会進出や仕事に関すること	性別	年代
結婚、子育てがまだまだ女性のフェートが高過のかと思います。保育士など長期に働ける様な改善をして受入態勢の拡大をして頂きたいと思います。	男性	60 歳代
職員の中で男性が女性に対して見る目が違う方がいて、困っている。	女性	40 歳代
今の日常の生活で感じる事は、働く人と接するのは女性が多くて、いきいきと元気に働いているのは女性の方が多い。男性はバランスに偏りがあり、不健康そうに思える人が多いように思う。早急に企業や行政の中枢に市民生活をささえている、そういった元気な女性がどんどん参画すべきだと思います。	女性	50 歳代
職場や地域社会において男女平等であるべきかもしれませんが、現実的に男女それぞれが適している仕事内容があると思います。	女性	40 歳代

④家事や家庭に関すること

家事や家庭に関すること	性別	年代
家庭で自分がどのように家族と接しているか各自が考えて家族関係が上手くいってればその延長の社会も良くなると思います。	女性	60 歳代
男女関係なく能力に見合ったポジションにつければ良いと思う。(職場) 男性も楽しんで家事・育児に取り組めるようサポートしたい。	女性	30 歳代
各々の家庭の事情が違うことから、型にはめた制度はかえって辛い事が出てきそう？	女性	60 歳代

⑤子育てや子どもに関すること

子育てや子どもに関すること	性別	年代
男女共同参画の名の基に何もかもを平等にと考えないかがか。男性は男性として女性は女性として分担するべきことで全体が均等が取れることもあると思います。ただ働きたい女性が働けない環境は整備すべき。	男性	50 歳代
男女の性差で考えず人権の問題でとらえるべき	男性	50 歳代
仕事と育児を両立したい。今後、共働きを考えているので、職場に保育所があるような所がもっと増えてほしいです。(それか保育所と提携しているような企業が増えてほしい)	女性	20 歳代
子供を産まれてすぐ保育所へ、自分で育てず、問題がおきれば誰かのせいにし。欲しがればゲーム、携帯をあずけ・・・働くことは子供が大きくなってからでも十分出来ます。子育ては、その時しかないのです。世の中が歪んできていると思います。本来の男女の役割を忘れてはいけないと思います。私の考える「女性の参画」は子供が大きくなった方へです。	女性	50 歳代
女性が上に立つ上で、結婚は難しい(特に子供をつくることは)たとえば、子供が集団生活で病気をもらった時、何日も仕事を休むことができない。熱のある子供を見る施設がない!	女性	50 歳代
幼少期の道徳教育の重要性を再確認すべきだと思います。人間としてのマナーとモラルを持った人作りを大切にしていきたいと思います。	男性	50 歳代
私の職場では女性が発言すると無視されます。またパワハラを受けたり嫌がらせをするのでとにかくおとなしくしています。こんな日々に「平等」と声高々と言えばクビになってしまいます。	女性	40 歳代

子育てや子どもに関すること	性別	年代
一般的に女性弱者の様に言われていますが、最今では男性の方が女性への気配りが多く、弱い男性の方が多いのではないのでしょうか？十分に男女平等だと思っております。	男性	60 歳代
職場での男女差はほとんど感じませんが、子育てをするのにはまだ社会的にも理解されていない部分が多いと思います。子育てしてる女性は、色々と大変な面があると思うので、男性も育児休暇を取得出来るような社会になっていくくれたらなと思います。	女性	20 歳代
女だからこの仕事をして当たり前、これは女の仕事、という昔からの考えが根づいているものが、たくさんある。仕事の賃金や、家庭での「嫁」の扱いなど低いと思う。	女性	40 歳代
私も、夫と同じに常勤で働いていますが、家事はすべて私がするのが不公平でなりません。男性も子供のうちから家事をするように教育してほしいと思います。	女性	40 歳代

⑥男女の役割や性差に関すること

男女の役割や性差に関すること	性別	年代
戦後、女とくつ下が強くなったと言われましたが現在では男が女の召使いの様です。	男性	60 歳代
女性にも男性にも同じ仕事をしてもらう。女性にも男性も、言動と体力が伴わなくなったら、次代にまかせて自分は退くべきである。	男性	50 歳代
若い人は責任能力に欠けている。自分の分担のみだけで簡単な仕事もしない点(教育、しつけ、気配りなし)上司については管理能力、実行力行動力が欠けている。市役所をみても、笑顔の職員はいつ行ってもいない。(市役所内部から改めて下さい。男の人は特に悪い。)沼田市は他の市より何もかも遅れている。	無回答	60 歳代
今のところ、特に不平等と感じていることはありません。男女平等はとても良いと思いますが、もともと男女にはそれぞれ違いのあるものなので、多少の格差は仕方ないと思います。	女性	30 歳代
市役所内で女性がお茶配りをしている→民間社会では無くなっている→飲みたい人は自分で用意すればよい	男性	60 歳代
女性の管理職が増えたと感じています。	女性	40 歳代
私は男女平等である必要はないと思っています。男性の役割は同じと思っていますからです。それぞれの役割を果たし家庭を守り社会貢献する家庭を築くことが、次世代をつくるんだと思います。親の背中を見て子供は育っていると思うのでそれが可能な社会を作る方がいいと思います。そうして私たちも育ててもらったので。	女性	40 歳代
私の現在の環境は、男女平等、男女共同参画ができていますと思いますが、男女の性の差、特徴を考えると全く平等にできるのか疑問です。男女の差の基に互いの良さを生かして助け合っていくのが真の共同参画社会では？	女性	50 歳代
男女平等はすべては考えられないです。無理。体力がない女性は男と同じ事は出来ないし平等になれば子供生んでくれる女性は少なくなります。	男性	30 歳代
男性だから・・・とか女性だから・・・ではなく、その人の能力でそれに合った役職をつけまた、共働きの家庭は男女が平等に育休をとるようにすれば働く女性も少しは安心して子供を持つことが出来るのではと思います。	女性	30 歳代

男女の役割や性差に関すること	性別	年代
女性の方が優遇される事も結構多い	男性	30 歳代
上司となる人が意識を高める必要あり。お客が来た時に、女性に声をかけ、お茶を頼む姿勢などから、慣習はなかなか改められない。	女性	40 歳代
・世帯主（男）というだけで天狗になってもらいたくない。・役をたくさん持っても偉くないのにエラぶっている。・残業が出来るのに貢がせたくないのか、自分（男）は残り、私強制終了。	女性	30 歳代
男性は男性、女性は女性で、できる事をして行くしかないと思います。女性は男にはなれないと思います。	女性	40 歳代
不平等を感じて生きて来なかったので、男は男、女は女で二種類	女性	50 歳代
男女平等とは言え、男性と女性では、体力的に違って、出来る事と出来ない事があります。お互いに補い、尊敬、感謝する事が出来る事が理想です。自分に有利で、都合の良い常識を通す人が増えていると思います。	女性	50 歳代
男の人にも出来ても女の人には出来ない事もあり、反対の場合もあると思います。出来る事は協力しながら互いに頑張っていきたいものです。	女性	60 歳代
男女平等と言っても、女性の役割、男性の役割は異なっても仕方のない事だと思う。お互いを立場を尊重し理解して行く事だと思います。	女性	60 歳代
どんな生き物でも雄、雌役割が違うと思う。共同参画は同じことをするというのではなく、得意な分野で得意なことが出来て経済的にも等しい評論がなされることと思う。役職の問題ではないのでは？	男性	50 歳代
性差による特性の尊重。	女性	60 歳代

⑦その他

その他	性別	年代
女一人でも長く生活していくのは、本当大変ですね。持病が有り生活能力もない娘さえ見方が変わり、自分の居場所さえなくなり誰にも言えないし、これも自分の人生かと諦めるしか・・・長生きはしたくないですね。	女性	60 歳代
女性は責任ある立場になることは男性より望んでいないと思う。特に地域活動ではお手伝い感覚で参加しています。職場では重要なことを女性に任せられない経営者がいるように思います。	女性	40 歳代
①女性は女ということに甘えている②女性は最後の責任を取らなくてもよいと思っている	男性	60 歳代
・仕事が休みづらく妻に負担がかかってしまう。・アンケートをしても何も変わらないと思う。	男性	30 歳代
重い仕事だから、汚い仕事だから！と女性はやらない。これら率先してやれば真の男女平等となると思うが、女性の方「大丈夫？」	男性	60 歳代
男女共に古い考えを改めることが必要！男性も悪いが、女性自身も色気や弱さという女を武器にしようとする人間もいる。セクハラやパワハラを助長させるような態度をする女性もいるから悪い。女性は自立心を養い、男性はフェミニストになるべき。	無回答	無回答
女性は育児を理由に職場での義務を果たしてない面がある。義務を果たさず権利ばかり主張する人がおり、女性の首をしめているのは女性自身だな・・・と思う。	女性	30 歳代
賃金の格差が大きい事。	女性	50 歳代

その他	性別	年代
男女平等にこだわる事は特に無いと思います。こだわる事のほうが変わります。女性も調子に乗らず男性もふんぞりかえらず自然にふるまえば良いと思います。	女性	60 歳代
女性はガタガタうるさい。男性がんばって下さい。	女性	30 歳代
現在の若いご夫婦は男女平等の意識が高い方が多くなっていると思う。心配な事は男女共に結婚意欲の低下している若者が多いこと。男女平等は男女の結婚・育児等にどう反映するだろうか？	女性	50 歳代
私は女性自身をもっと自分に自信を持てるようスキルアップに努力をすべきだと思っています。法律がどうこうでなく、自分を自分の環境の中で年齢に関係なく磨いて行くべきと私は日頃から思います。	女性	60 歳代
女性が地域や社会に男性と同じように進出していくのは良いことだと思いますが、沼田市では非常に難しいですね。分娩できる所が2ヶ所しかなく、育児支援も不十分。電車は短くて1時間に1本、バスは1日数える程しか走っていない。道はせまいのに車やトラックがスピード出してどんどん通るので危なくて子供と散歩に行くのが怖い。そもそも沼田での仕事が全然ないので、沼田は活気づくどころかどんどんさびれていくでしょうね。まず、沼田市の求人数を増やすべきなのでは？このアンケートはつまらない。	女性	30 歳代
私は周りに高齢者の多い地域に住んでおります。町内の決め事や班内の話し合いには「女の人は口を出すな」という雰囲気があります。また数年前に(簡易水道区域内)断水が何度もおこった際、説明を求めても「水が空になったから仕方ないんだよ」の一言で電話を切られましたが、主人が電話したらすぐに水道を管理している業者の方々が来てくれました。男が出て行かないとまだまだなのですね。	女性	40 歳代
このような意識調査が早く必要なくなる事を願っています。	女性	60 歳代
現在の状態でよいと思う。	男性	50 歳代
平等ばかりに気をとられ、大切なことが失われていくことにも目を向ける必要がある。	男性	50 歳代
自分は幸運なことに職場も家庭も男女平等であるが(←というか役割分担がうまくいっているというのかも・・・)世の中はまだまだ男女平等ではないと思う。	女性	30 歳代
人、それぞれ特定のものにこだわることはないと思う。	男性	20 歳代
女性もスキルをあげる事が必要。	女性	50 歳代
女性でも能力の有る人は、どんな事においてもプラスになると思っています。こういう人が力を発き出きる場所を整備していただける事をのぞんでいます。	女性	60 歳代